

弘前大学人文学部附属「亀ヶ岡文化研究センター」開設記念

ミニ特別展

# 『亀ヶ岡文化の世界』図録

弘前大学人文学部附属 亀ヶ岡文化研究センター

(弘前大学人文学部 日本考古学研究室研究報告3)

# 序 文

## 弘前大学人文学部附属 亀ヶ岡文化研究センター 開設のご挨拶

時下 益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

さて、弘前大学人文学部では、特徴ある教育・研究及び社会貢献に特化した研究者の集団を組織化し、その活動の推進を図ることにより、本学部の魅力ある特徴を鮮明にすることを目的に、亀ヶ岡文化研究センターを開設いたしました。

亀ヶ岡文化は、縄文時代晩期に、北海道渡島半島から東北一円で盛行した華やかな文化で、土偶などの祭祀的遺物、精巧な土器や漆器などの工芸的な遺物に彩られているのが特徴です。亀ヶ岡文化の影響を受けた遺物は、その文化圏をはるかに越えて、北は北海道北部まで、南は四国・九州まで達しています。今や亀ヶ岡文化の研究は、日本列島に於ける縄文時代の終末や縄文文化と弥生文化の接触を探る上でも、重要になってきました。

弘前大学は、亀ヶ岡文化の中心地である北東北に位置し、亀ヶ岡遺跡や是川遺跡のような遺跡や出土品に恵まれております。人文学部は、この地の利を生かし、「亀ヶ岡文化研究センター（展示室附属）」を設置することといたしました。亀ヶ岡文化の基礎的な研究を多方面（考古学・文化人類学・民俗学・美術史）から行い、学界に貢献するとともに、広域性をもつ優れた文化であることを顕彰し、地域社会の活性化に貢献したいと考えております。また、発掘調査などを通じて基礎的な資料を収集し、同センター展示室の充実を図り、学内のみならず地域の皆様にも利用して頂きたいと思っております。

皆様からのご指導・ご協力・ご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

平成17年10月吉日

弘前大学人文学部長 藁科 勝之  
弘前大学人文学部附属  
亀ヶ岡文化研究センター長 藤 沼 邦彦

## ミニ特別展「亀ヶ岡文化の世界」のご案内

亀ヶ岡文化研究センターの開設を記念して、工芸的な土器・漆器、土偶などに彩られた亀ヶ岡文化の優品を集めて「亀ヶ岡文化の世界」を表現しました。

青森県のもものが中心ですが、宮城県山王岡遺跡の彩文籃胎漆器、岩手県豊岡遺跡の美しい土器や土偶もあります。岩手県大洞貝塚からは抜歯のある人骨がやってきました。東北大学からは旧佐藤部コレクションの優品が里帰りしました。遮光器土偶も土製仮面もたくさん集合しました。狭い展示室ですが、密度の濃い展示となりました。

皆様に亀ヶ岡文化の素晴らしさ・凄さを知って頂ければ幸いです。

平成17年10月吉日

弘前大学人文学部附属  
亀ヶ岡文化研究センター長 藤 沼 邦彦



## 〈謝 辞〉

亀ヶ岡文化研究センターの開設、同センター開設記念ミニ特別展「亀ヶ岡文化の世界」開催にあたり、東北大学文学部の須藤隆教授や写真家の小川忠博氏をはじめ、各地の機関や個人の方から多大なご指導・ご協力・励ましをいただき、本当にありがとうございました。ここに記して感謝の意を表します（敬称略・順不同）。

《機関・個人》北海道開拓記念館（鈴木琢也）、市立函館博物館（佐藤智雄）、青森県立郷土館（福田友之・木村高）、青森県埋蔵文化財調査センター（三浦圭介・白鳥文雄・工藤大・成田滋彦・鈴木克彦・中嶋友文・永島豊）、青森県教育庁文化財保護課（相馬信吉）、青森県史編纂室（木村鉄次郎）、青森市教育委員会（遠藤正夫・工藤清泰・木村浩一・竹ヶ原亜希）、板柳町教育委員会（工藤秀磨・安田誠一）、田舎館村埋蔵文化財センター（武田嘉彦）、五所川原市教育委員会（藤原弘明・榊原滋高）、五所川原市歴史民俗資料館、外ヶ浜町教育委員会（駒田透）、つがる市縄文住居展示資料館（鳴海則明）、十和田市教育委員会（山崎武・大久保学）、野辺地町立歴史民俗資料館（駒井知弘）、階上町教育委員会（森 淳）、八戸市縄文学習館（小林和彦・小笠原善範）、八戸市博物館（藤田俊雄）、八戸市教育委員会（工藤竹久・佐々木浩一・宇部則保・村木淳・大野亨）、平川市教育委員会（小笠原豊・滝本学）、弘前市教育委員会（宮川慎一郎・佐藤一憲）、弘前市立博物館（山田勅）、三沢市教育委員会（長尾正義）、三沢市歴史民俗資料館、むつ市教育委員会（菊池昭男・田畑寿宏）、岩手県立博物館（高木晃・鎌田勉・佐々木務）、一戸町御所野縄文博物館（高田和徳・中村未央）、大船渡市教育委員会（金野良一・千葉貴子・氷見淳哉）、滝沢村埋蔵文化財センター（桐生正一）、秋田県埋蔵文化財センター（熊谷太郎・小林克・山田祐子）、東北大学文学部考古学研究室（須藤隆・菅野智則・柳田俊雄・阿子島馨）、栗原市教育委員会（大場亜弥）、栗原市一迫山王ろまん館（中鉢孝志）、東北福祉大学芹沢銈介美術記念館（芹沢長介）、多賀城市埋蔵文化財調査センター（相沢清利・千葉孝弥）、東北大学医学部（百々幸雄）、東松島市奥松島縄文村歴史民俗資料館（菅原弘樹）、東北歴史博物館（丹羽茂）、宮城県多賀城跡調査研究所（小井川和夫）、國學院大学（小林達雄・青木豊）、文化庁美術学芸課（土肥孝・原田昌幸）、京都大学（泉拓良・清水芳弘）、福島県文化センター（玉川一郎）、みなとびあ新潟市歴史博物館（甘粕健・田代雅春）、徳島県立博物館（高島芳弘）、ノムラアクト東北（武田幸司・伊藤優）、丹青社（越前小太郎）、スカイサーベイ（十田福代・十田幸明）

《個人》阿部義平（国立歴史民俗博物館）、阿部朝衛（帝京大学）、石川日出志（明治大学）、磯前順一（日本女子大学）、市川金丸、一町田工、稲野裕介（北上市埋蔵文化財センター）、稲野彰子、上野修一（栃木県立文書館）、小口雅史（法政大学）、岡村道雄（奈良文化財研究所）、岡田康博（文化庁記念物課）、小川忠博（写真家）、葛西励（青森短期大学）、川田強（南相馬市）、菊地逸夫（宮城県教育委員会）、菊池徹夫（早稲田大学）、興野義一、熊谷常正（盛岡大学）、後藤勝彦、小林青樹（國學院大学栃木短期大学）、小林圭一（山形県埋蔵文化財センター）、佐藤由紀男（浜松市教育委員会）、設楽博己（駒沢大学）、高橋憲太郎（宮古市教育委員会）、田中忠三郎、樋泉岳二（早稲田大学）、成田祐之、袴田尚武、平野良一、福井正実、福田裕二（函館市北方民族資料館）、藤原二郎、村越潔（弘前大学名誉教授）、森嶋秀一（栃木県立博物館）、山田昌久（首都大学東京）、渡辺誠（名古屋大学名誉教授）。

《弘前大学人文学部日本考古学ゼミナールOB》栗原徹・萩坂華恵・佐布環希・其田香保里・山田祐子・葛川貴祥・向出博之・佐藤亜紀・新井田えり子・横井剛志・市川健夫・久末恵輔・木下梨恵

# 目 次

1. 亀ヶ岡文化研究センター .....	1 頁
(1) 弘前大学人文学部附属 亀ヶ岡文化研究センターの設置について	
(2) 亀ヶ岡文化研究センターの展示施設の設置について	
2. ミニ特別展「亀ヶ岡文化の世界」 .....	3 頁
(1) ミニ特別展「亀ヶ岡文化の世界」の趣旨	
(2) ミニ特別展「亀ヶ岡文化の世界」に集めた資料	
(3) 展示および展示場の構成	
(4) ポスター・展示解説書の作成、展示品の搬入・搬出など	
(5) 会期・記念講演	
(6) 入場者	
3. ミニ特別展「亀ヶ岡文化の世界」の図録 .....	8 頁
(1) ミニ特別展「亀ヶ岡文化の世界」の図録	
(2) 亀ヶ岡式土器の文様	
(3) 亀ヶ岡式土器の文様の描き方	
(4) 小川忠博氏の展開写真	



(須藤弘敏撮影)

# ミニ特別展「亀ヶ岡文化の世界」の図録

亀ヶ岡文化研究センター 藤沼 邦彦

## 1. 亀ヶ岡文化研究センター

### (1) 弘前大学人文学部附属 亀ヶ岡文化研究センターの設置について

序文でも述べましたが、弘前大学の人文学部は、特徴ある教育や研究を行い、加えて地域社会に貢献するために、特化した研究者の集団を組織し、その活動の推進をはかることにしました。本学部の魅力ある特徴を鮮明にするのが目的です。そのため、附属施設として「雇用政策研究センター」と「亀ヶ岡文化研究センター」が誕生いたしました。なお、亀ヶ岡文化研究センターの設立日は、平成17年10月吉日としておりましたが、本書の刊行を機に、研究センター長の独断で、平成17年10月5日といたします。

亀ヶ岡文化は、縄文時代晩期に、北海道渡島半島から東北一円で盛行した華やかな文化で、土偶・石刀・岩版などの祭祀的遺物、精巧な土器や漆器などの工芸的な遺物に彩られているのが特徴です。実年代でいうとおよそ3000年前から2700年前までとなります。亀ヶ岡文化の影響を受けた遺物（主として土器）は、その文化圏をはるかに越えて、北は北海道北部・東部まで、南は近畿・四国地方、最近では九州まで達していることが分かってきました。したがって亀ヶ岡文化の研究は、日本列島に於ける広域編年、縄文文化の終末をめぐる問題、縄文文化と弥生文化との接触の状況などを探る上でも、極めて重要です。

弘前大学人文学部日本考古学研究室は、亀ヶ岡文化の中心地に近い津軽地方に立地する大学として、また亀ヶ岡遺跡や是川遺跡など亀ヶ岡文化の遺跡や出土品に恵まれた地域に所在する大学として、亀ヶ岡文化を研究することは人文学部の責務の一つと考え、基礎的な研究を行ってきました。今回の亀ヶ岡文化研究センターの設立によって、亀ヶ岡文化の基礎的な研究を多方面（考古学・文化人類学・民俗学・美術史）から行い、学界に貢献するとともに、広域性をもつ優れた文化であることを顕彰し、地域社会の活性化にも貢献したいと考えております。研究センターの構成員は、藤沼邦彦・関根達人（考古学）、宮坂朋（西洋考古学）、丹野正・杉山祐子（文化人類学）、須藤弘敏（日本美術史）、山田巖子（民俗学）です。

亀ヶ岡文化研究センターには資料の展示施設がついておりますので、研究資料や研究成果を展示して、学生・教職員のみならず、広く市民に公開し、多くの人々に利用していただきたいと考えております。そのため研究センターは、発掘調査や寄贈などを通じて基礎的な資料を収集し、展示室の充実を図り、常設化できるよう努力しております。

### (2) 亀ヶ岡文化研究センターの展示施設の設置について

弘前大学人文学部が保有する主な考古学資料として、①旧制弘前高等学校時代からの亀ヶ岡遺跡の出土品（約100点）、②2002年に日本考古学ゼミナールが発掘調査した外ヶ浜町今津遺跡の出土品（形を復元した土器約150点、石器130点）、③戦後、船木鉄太郎氏の遺族から弘前大学に寄贈された船木鉄太郎考古コレクション758点があります。①と②は亀ヶ岡文化の資料で、①はつがる市のカルコとよぶ展示施設に寄託されておりました。②は日本考古学ゼミナールの考古学実習室で保管し、考古学実習・研究に活用しております。③は樺太の西海岸の考古資料で、今は欲しくても入手できない資料で、北海道開拓記念館に寄託されております。このように、旧制弘前高等学校時代からの資料を含む貴重な財産が、大学内に適切な展示施設・保管施設がないために、研究・教育などに活用されることもなく、大学以外の施設に寄託されているのは、弘前大学の学生にとって残念なことでした。

また日本考古学ゼミナールでは、学生が中心になって、オープンキャンパス・高校生の大学訪問・大学祭などで、考古学実習室を利用して、発掘調査した考古資料をならべて公開してきましたが、そのたび多くの見学者（学生・教職員・高校生・市民など）が訪れ、実習室だけでは手狭で、対応が大変でした。資料の管理上も問題がありました。また他大学や文部科学省などからの来客が、優れたモノ資料を借用・保管している考古学実習室を見学に訪

遠山文部科学大臣と記念撮影（日本考古学実習室にて、平成14年 7月20日）

れることもしばしばありました。遠山敦子文部科学大臣もその一人です。

このようなことから、人文学部は適切な展示施設を作って、研究・教育などに活用すべきであると考え、新設する亀ヶ岡文化研究センターに展示施設を付け加えました。研究センターの部屋は、ほとんど展示スペースに改造しましたので、センターのそのものが展示室という感じです。展示ケースの設置には多大な経費が必要でしたが、藁科人文学部長が決断してくれました。

亀ヶ岡文化研究センターの設置場所は、いろいろな意見がありましたが、展示施設を兼ね備えることになると、みなさんが利用しやすいところを選択する必要ができました。そこで総合教育棟2階にある多目的ホールを希望いたしました。その理由は次の通りです。

①場所が分かりやすい。総合教育棟の玄関の上なので、説明しやすい。創立50周年記念会館・図書館・生協に近いので、一般市民も利用しやすい。

②21世紀教育などで、全学部 of 1～2年生が総合教育棟に出入りしているので、研究センターの存在を全学部の学生に知ってもらえることができる。

③留学生センターに近いので、大陸の影響を受けなかった「もう一つの日本文化」を留学生に知ってもらうのに便利である。

④身障者用の駐車場が建物のすぐ前にある。また身障者用のエレベーターも研究センターのすぐ近くにある。

⑤人文棟の1階の奥に設置するよりも、総合教育棟の2階に作る方が防犯上、より安全と考えられた。

⑥総合教育棟は、学生・教員が大勢集まる場所なので、企画展を行うことも可能である。

⑦小展示室として、この部屋の大きさはちょうど良い広さである。

また、亀ヶ岡文化研究センターの展示活動として、次のようなことを考えました。

①亀ヶ岡文化に関するさまざまな資料展示をおこなう。また研究センターの成果を展示する。

②人文学部で所蔵する考古資料（旧制弘前高等学校所蔵の亀ヶ岡遺跡出土品、寄贈された船木コレクションの樺太出土資料、人文学部の今津遺跡発掘資料）などを並べ、展示を常設化し、学生がいつ

でも利用できるようにする。

③学園祭などの時期にあわせて、年1～2回、特色ある企画展（ミニ特別展）を開催する。常設展・企画展ともに、地域社会と協力して、地域社会の活性化に貢献できるような内容とし、市民にも公開する。

④展示活動には学生も参加し、考古学・文化財論・博物館学などの実習にも利用する。

⑤亀ヶ岡文化研究センターは、計画的な学術発掘によって基礎的な研究資料を収集し、展示室を充実させる。また優良コレクションの寄贈や寄託も考える。

## 2. ミニ特別展「亀ヶ岡文化の世界」

### (1) ミニ特別展「亀ヶ岡文化の世界」の趣旨

展示の趣旨については、会場で配布したパンフレット（序文を参照）で、「亀ヶ岡文化研究センター開設を記念して、工芸的な土器・漆器・土偶などに彩られた亀ヶ岡文化の優品をあつめて『亀ヶ岡文化の世界』を表現しました。みなさまに、亀ヶ岡文化の素晴らしさ・凄さを知っていただければ幸いです」と述べました。この簡単な文章に万感の思いをこめたつもりです。

ミニ特別展「亀ヶ岡文化の世界」に多数の良好な資料を集めて公開できたのは、まったく東北大学文学部教授の須藤隆氏のご協力のおかげです。須藤氏は、弘前大学人文学部に亀ヶ岡文化研究センターが開設されたことを祝って、「展示会をするなら（東北大学で所蔵する）旧佐藤部コレクションの優秀な資料をはじめなんでも喜んで貸すよ」といってくれました。この一言で亀ヶ岡文化研究センターは、ミニ特別展「亀ヶ岡文化の世界」の開催を決心しました。津軽の大蒐集家であった佐藤部の優秀なコレクションが東北大学から里帰りするならということで、岩手県立博物館・青森県立郷土館・八戸市教育委員会をはじめとする諸公共機関がやはり優良な資料を貸し出してくれることになりました。おかげで、ミニと称しながら逸品を多数含む優良な資料をたくさん集めて展示することができました。

また、ミニ特別展「亀ヶ岡文化の世界」で展示された素晴らしい資料を見て、大学本部では驚き、さっそく研究センターの入り口に格子目の電動シャッターを付け、さらに警備保障会社と契約して内部に監視カメラを設置するなどの防犯上の措置をしてくれました。

### (2) ミニ特別展「亀ヶ岡文化の世界」に集めた資料（展示資料一覧参照）

今回の展示のため準備した亀ヶ岡文化関係の資料は次の通りです。亀ヶ岡式土器が約180点、藍胎漆器・櫛など漆器関係の遺物が約15点、土偶など祭祀関係の遺物が約140点（土偶・岩偶約40点、土製仮面17点、石刀・石剣13点など）、装身具など約70点、抜歯の見られる縄文人の頭骨3体分、石鏃・釣針・銚・石皿など生業関係の遺物が約100点、縄文人の食料残渣（木の実や獣骨・鳥骨・魚骨、

## ミニ特別展「亀ヶ岡文化の世界」

弘前大学人文学部附属「亀ヶ岡文化研究センター」開設記念

圖之人偶天

入場無料



亀ヶ岡文化研究センター開設を記念して、工芸的な土器・漆器・土偶などに彩られた亀ヶ岡文化の優品をあつめて『亀ヶ岡文化の世界』を表現しました。みなさまに、亀ヶ岡文化の素晴らしさ・凄さを知っていただければ幸いです。

弘前大学  
佐藤部  
蔵之

日時 2005年10月29日(土)～11月23日(水)

午前10時～午後4時 会期中無休

弘前大学人文学部附属亀ヶ岡文化研究センター  
展示室（総合教育棟正面二階）

開演「亀ヶ岡文化の世界」

弘前大学名誉教授 村越 謙 先生

日時 11月12日(土) 午後2時

会場 同センター

ポスター（展示解説書の表紙と同じ）



貝殻など）多数です。参考として弥生土器15点、穂摘み具である石包丁 2点、炭化米など弥生文化の資料も展示しました。その他、若干の文献資料・写真資料など実物資料以外のものも補助的に展示しました。最終的には、借用先は24機関と 3 個人におよび、展示資料は47遺跡、約550 点に達しました。

### (3) 展示および展示場の構成

展示場の構成は、導入部、テーマ展示からなり、テーマ展示は 9 つの部門（テーマ①～⑨）に分けました。導入部は入り口の部分で、ここに「亀ヶ岡文化の世界」の看板として、亀ヶ岡遺跡出土の有名な遮光器土偶（レプリカ）と津軽藩主が茶道具に利用したとされる亀ヶ岡遺跡出土の土器（高杯）を展示しました。遮光器土偶はレプリカですが、見学者に大変人気がありました。

テーマ①は、〈亀ヶ岡文化とは〉と〈亀ヶ岡遺跡研究事始め〉です。亀ヶ岡文化の特色・文化圏、分布圏などを地図パネルを用いて解説しました。はじめに、亀ヶ岡遺跡研究事始めということで江戸時代に亀ヶ岡遺跡を紹介した山崎立朴の『永禄日記』、菅江真澄の紀行文などの文献資料を写真で示しました。また明治時代初めに、津軽地方には考古資料の蒐集家が輩出したこと、日本に於ける最初の遺跡発掘報告書であるモースの『大森介壙古物篇』（明治12年）が、翌年には弘前の東奥義塾の図書館で閲覧に供されていたことなどを解説し、『大森介壙古物篇』も展示しました。

テーマ②は、〈亀ヶ岡遺跡と佐藤部〉・〈東北大学文学部の旧佐藤部コレクション〉・〈青森県立郷土館の大高コレクション〉です。このコーナーには、現在、東北大学文学部が所蔵する旧佐藤部コレクションから亀ヶ岡遺跡と十腰内遺跡の土器を多数借用して展示しました。工芸的な美しい土器が多く、「旧佐藤部コレクションの里帰り展」ともなっています。佐藤部は、明治時代の考古学勃興期に津軽で活躍した研究者の一人で、亀ヶ岡遺跡の出土品を中心とする当時最大のコレクターでもあり、東京人類学雑誌などに論文・報告などを投稿しました。

また、ここには、青森県立郷土館に寄贈され、同郷土館の目玉となっている「大高（風韻堂）コレクション」の土器も展示いたしました。

テーマ③は、〈各地の亀ヶ岡文化の遺跡から出土した土器〉です。東北地方各地の亀ヶ岡文化の遺跡から出土した特色ある土器（亀ヶ岡式土器）を多数並べ、斉一性の高い亀ヶ岡文化圏のなかにも地域によって個性（地域性）があることを示しました。展示した土器は、青森県（是川中居遺跡・薬師遺跡・二枚橋(2)遺跡・野口貝塚・今津遺跡・宇鉄遺跡・泉山遺跡・宮田遺跡・槻ノ木遺跡・観音林遺跡・滝端遺跡）、岩手県（豊岡遺跡・宮野貝塚・野里遺跡・川向遺跡）、宮城県（山王冢遺跡・天王寺遺跡・北小松遺跡）、北海道（女名沢遺跡）に及び、文様の美しい土器が多数集中して並んだので、

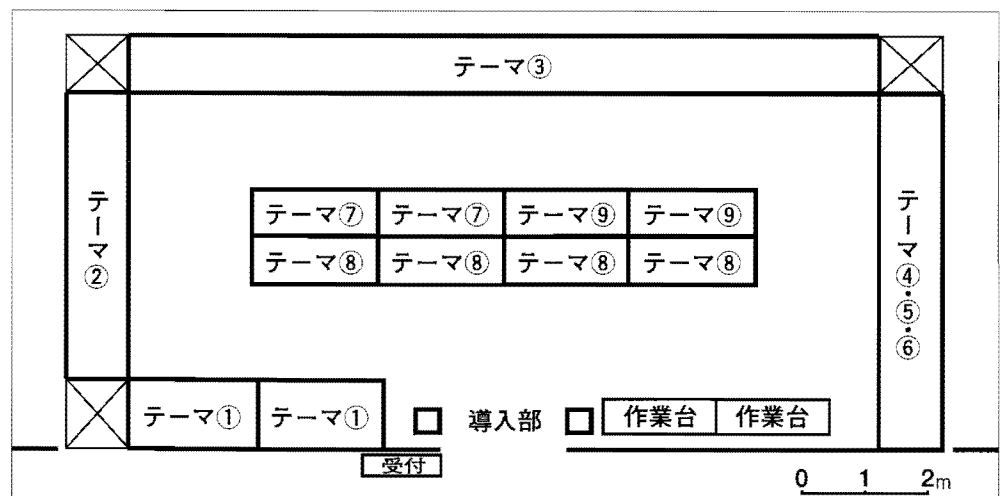
#### 展示および展示場の構成

テーマ①・⑦～⑨

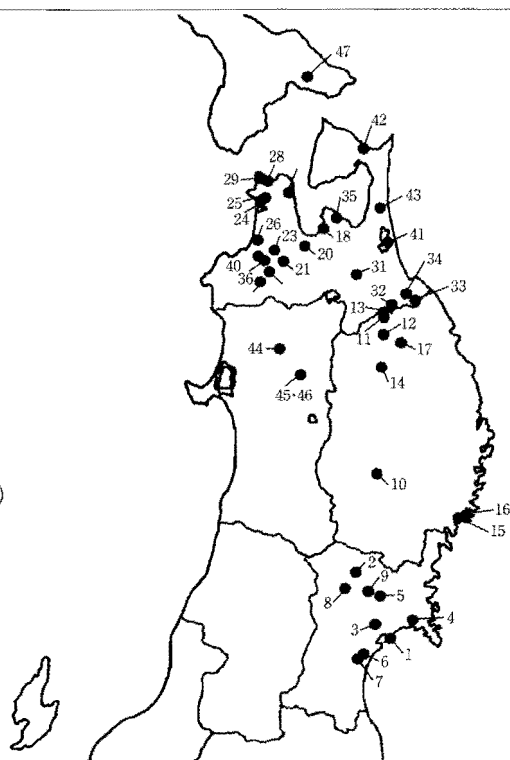
は平ケースを利用。

テーマ②～⑥は立ケースを利用。

面積 約80㎡



- |                   |                   |
|-------------------|-------------------|
| 1 里浜貝塚 (東松島市)     | 25 大沼遺跡 (五所川原市)   |
| 2 山王圀遺跡 (栗原市)     | 26 亀ヶ岡遺跡 (つがる市)   |
| 3 永根貝塚 (松島町)      | 27 泉山遺跡 (三戸町)     |
| 4 沼津貝塚 (石巻市)      | 28 算用師遺跡 (外ヶ浜町)   |
| 5 中沢目貝塚 (田尻町)     | 29 宇鉄遺跡 (外ヶ浜町)    |
| 6 南小泉遺跡 (仙台市)     | 30 今津遺跡 (外ヶ浜町)    |
| 7 西台畑遺跡 (仙台市)     | 31 明戸遺跡 (十和田市)    |
| 8 天王寺遺跡 (岩出山町)    | 32 青鹿長根遺跡 (名川町)   |
| 9 北小松遺跡 (田尻町)     | 33 滝端遺跡 (階上町)     |
| 10 川向遺跡 (遠野市)     | 34 是川中居遺跡 (八戸市)   |
| 11 野里遺跡 (一戸町)     | 35 槻ノ木遺跡 (平内町)    |
| 12 蒔前遺跡 (一戸町)     | 36 十腰内遺跡 (弘前市)    |
| 13 雨滝遺跡 (二戸市)     | 37 宇田野(2)遺跡 (弘前市) |
| 14 豊岡遺跡 (岩手町)     | 38 薬師遺跡 (弘前市)     |
| 15 大洞貝塚 (大船渡市)    | 39 湯ノ沢遺跡 (弘前市)    |
| 16 宮野貝塚 (大船渡市)    | 40 大曲Ⅲ号遺跡 (鯉ヶ沢町)  |
| 17 伊保内 (九戸町)      | 41 野口遺跡 (三沢市)     |
| 18 宮田遺跡 (青森市)     | 42 二枚橋(2)遺跡 (むつ市) |
| 19 羽黒平遺跡 (青森市)    | 43 上尾駁遺跡 (六ヶ所村)   |
| 20 朝日山遺跡 (青森市)    | 44 藤株遺跡 (北秋田市)    |
| 21 土井Ⅰ号遺跡 (板柳町)   | 45 向様田A遺跡 (北秋田市)  |
| 22 垂柳遺跡 (田舎館村)    | 46 向様田D遺跡 (北秋田市)  |
| 23 観音林遺跡 (五所川原市)  | 47 女名沢遺跡 (函館市)    |
| 24 五月女菴遺跡 (五所川原市) |                   |



ミニ特別展「亀ヶ岡文化の世界」にかかわる亀ヶ岡文化の遺跡

あたかも「土器絵巻」という感が生じました。

テーマ④・⑤・⑥は同一の立ケースの中で展開させました。

テーマ④は、〈亀ヶ岡式土器の壺と皿の文様〉です。文様をもつ土器のなかからとくに工芸的な文様をもつ壺・皿を選び出し、複雑そうに見える文様であっても、基本的な型があり、手順と約束事を守れば、誰でも簡単に描くことができることを解説しました。亀ヶ岡式土器の形・文様についての研究は、弘前大学日本考古学ゼミナールでもっとも力を入れている分野で、その成果は本図録の編集方針に表れております。

テーマ⑤は〈亀ヶ岡文化の漆製品〉です。漆製品は、亀ヶ岡文化を特色付ける工芸的な遺物の一つで、各地で多数製作されました。しかし、出土漆製品は、脆弱なものが多く、展示するのは難しいので、丈夫な藍胎漆器と櫛（ともに山王圀遺跡）、レプリカの本胎漆器と櫛（ともに是川中居遺跡）、漆入り土器（亀ヶ岡遺跡）、漆漉し編布（亀ヶ岡遺跡・山王圀遺跡）、赤色顔料（酸化鉄）を磨りつぶした石皿・磨石（土井Ⅰ号遺跡・向様田A遺跡）、集落に持ち込まれた赤色顔料（酸化鉄）の原石（今津遺跡）などに限定して展示しました。また有名な亀ヶ岡遺跡出土の彩文壺、これまであまり公開されなかった彩文浅鉢（永根貝塚）もこのコーナーに並べました。

テーマ⑥は、〈縄文文化から弥生文化へ〉です。立ケースの最後にあたるコーナーなので、参考資料として弥生文化の遺物を展示しました。仙台平野の弥生土器（西台畑遺跡・南小泉遺跡）と石包丁（南小泉遺跡）、津軽平野の弥生土器（宇田野遺跡・垂柳遺跡・大曲Ⅲ号遺跡・湯ノ沢遺跡）と炭化米（垂柳遺跡）などです。

テーマ⑦・⑧・⑨は平ケースを利用しました。

テーマ⑦は、〈衣服を身につける・装飾品〉と〈抜歯の風習〉です。ここでは衣服の材料である編布の断片・その復元品、角・骨・貝製の装身具（大洞貝塚）、鹿角製腰飾り（大洞貝塚・里浜貝塚）、土製・石製垂飾品、玉類、耳飾り、貝輪を模した土製腕輪（向様田D遺跡）、小型石斧（泉山遺跡・今津遺跡）、ガラス小玉（亀ヶ岡遺跡）、垂飾品の材料である琥珀や緑色凝灰岩（泉山遺跡）、墓から出土した首飾り三連（上尾駁遺跡）などを並べました。

また里浜貝塚から出土した抜歯の痕跡がある人間の頭骨を展示し、縄文社会に成人式や結婚式で抜歯を行う風習があったことを説明しました。また大洞貝塚から出土した人間の犬歯に穴を開けた垂飾品も展示しました。この抜歯頭骨は怖いもの見たさも手伝って、親子連れに大変、人気がありました。おそらく、青森県内で抜歯の見られる縄文人骨を展示したのは初めてだと思います。学生にも人気がありました。

テーマ⑧は、〈亀ヶ岡文化の祭りの道具〉です。このコーナーでは亀ヶ岡文化を特色付ける多種類の祭祀的な遺物を集めました。土偶・石刀・土製仮面を中心に、土版・岩版、冠状土製品・冠状石製品、玉象嵌土製品、ミニチュア土器、異形石器、独鈷石などを並べました。

土偶は、二枚橋(2)遺跡の大土偶・座る土偶、沼津貝塚の大きな遮光器土偶の頭部、土井Ⅰ号遺跡のちょっと変わった遮光器土偶、ひとつの遺跡から出土したいろいろな土偶(向様田D遺跡)などを並べました。とくに二枚橋(2)遺跡・沼津貝塚・土井Ⅰ号遺跡の大型土偶は、形も大きく、個性的で、工芸的にも優れているために、見学者の人気を集めました。「遮光器土偶」は小学生でも知っている考古学用語です。滝端遺跡のクマの頭部を表現した石製品もここに並べました。

石刀は、二枚橋(2)遺跡出土のものを中心に並べましたが、喜田貞吉がかつて論文で取り上げたことで著名な宇鉄遺跡出土の内反石刀も展示することができました。これら下北・津軽両半島の石刀は、柄頭に三叉状の入組文をもつなど、北海道渡島半島に分布する石刀と形態・文様ともに類似するのが特徴です。参考として向様田D遺跡出土の後期の大型石剣2点も展示しました。

晩期の土製仮面は青森県と岩手県に集中して分布します。今回の展示では青森県上尾駁遺跡、岩手県蒔前遺跡・伝雨滝遺跡などの鼻曲がり仮面(ただし、蒔前遺跡のものはレプリカ)を、青森県二枚橋(2)遺跡・五月女范遺跡・羽黒平遺跡、岩手県伊保内遺跡などの小型仮面を展示しました。いずれも優品ばかりです。展示会にこれほど多数の土製仮面が出品されたのは今回が初めてだと思います。

テーマ⑨は、〈亀ヶ岡文化の生業〉です。このコーナーでは、食料獲得の手段である採集・漁労・狩猟に関する道具や食料となった動植物遺存体を並べました。

生業に関する遺物として、採集活動にかかわる石皿・磨石、漁労活動にかかわる釣針・モリ・ヤス・石錘、狩猟活動にかかわる石鏃・骨角製鏃・根挟み・尖頭器・石小刀(石匙)、その他として土製スプーン・円盤状石製品・円盤状土製品・磨製石斧・石錐・石篋・骨篋などを展示しました。そのうち骨角製品は大洞貝塚の出土品を、石器はなるべく日本考古学ゼミナールで発掘した今津遺跡の出土品を並べました。

食料残滓としては、是川中居遺跡出土のクルミやトチノミの殻、里浜貝塚出土の魚骨(タイ・スズキ・フグ・マグロ・サメ・カサゴ類・アイナメ・ウナギ)、哺乳類の骨など(シカ・イノシシ・ウサギ・タヌキ・イルカ)、鳥骨(ガン・カモ類、ワシ・タカ類、ウミウ)、貝殻(アサリ・ハマグリ・カキ・オオノガイ・イガイ・アカガイ・スガイ・ウミニナ・イボニシなど多数)を並べました。

#### (4) ポスター・展示解説書の作成、展示品の搬入・搬出など

ミニ特別展「亀ヶ岡文化の世界」のポスターは、明治時代の中葉、津軽で活躍した佐藤蓼が描いた有名な遮光器土偶(亀ヶ岡遺跡出土)の絵を利用し、300部を印刷して、県内の公共機関を中心に、東北地方の資料館・博物館などに配布しました。それとは別に、ミニ特別展「亀ヶ岡文化の世界」のチラシ8000枚を作り、県内の博物館・教育委員会・弘前市役所などに置いてもらうと同時に、十三湊フォーラムなど各種の催し会場でも配布させていただきました。たしかに、このチラシも効果がありましたが、一般市民がこの展示を知ったきっかけは、新聞とテレビの報道が大部分であったようです。口コミによる効果も大きかったようです。

展示解説書は、見学者が亀ヶ岡文化について概略的な理解が得られる内容とし、製作には考古学ゼ



ミナールの学生も参加しました。A4版・8頁、オールカラーで、図版を多くしたものを5000部製作し、入場者に無料で配布しましたが、おおむね好評でした。また各地の研究者、博物館・資料館・教育委員会などから要望があれば、やや多めに送付し、亀ヶ岡文化研究センターと展示について宣伝していただきました。会期終了後も、希望者があり、配布を続けております。

展示品の借用・搬入については、予算の関係もあり、関根達人が弘前大学本部の車を運転し、藤沼・関根の二人で各地の借用先を巡り、展示品を借用・梱包し、搬入しました。返却（搬出）は、12月に入ってすぐに大量の積雪がありましたので、大変でした。万全の注意をしましたが、幸いなことに、破損などの事故は1点もありませんでした。国指定の重要文化財にも展示したいものがありましたが、最初から除外する方針をたてました。

(5) 会期・記念講演

ミニ特別展「亀ヶ岡文化の世界」の会期は、平成17年10月29日（土）から11月23日（水）までと予定しましたが、直前に弘前大学の大学祭が10月28日の午後からと分かり、あわてて28日の午後から公開し、テープカットなどのセレモニーは予定通り29日の10時に行いました。一般市民の見学者の便を考え、土・日曜日も開きましたので、会期は延べ27日間となりました。

11月12日（土）には、弘前大学教育学部で長い間、考古学を担当していた弘前大学名誉教授である村越 潔先生に「亀ヶ岡文化の世界」と題する記念講演をしていただきました。会場は人文学部305講義室、入場者は63名でした。

(6) 入場者

入場者の数の目標を1000名としましたが、嬉しいことに目標を大きく上回り、1607名に達しました。このなかには報道関係者や一部の無記名の者が含まれておりませんので、実際の入場者は1650名はあったろうと推定しております。

入場者1607名の内訳は、学生が 502名、教職員が71名、市民等 593名、無記名者 441名です。大学

「東奥日報の記事」



亀ヶ岡文化の工芸的な遺物が並ぶ特別展

九月に開設した弘前大学人文学部の付属亀ヶ岡文化研究センター（センター長・藤沼邦彦教授）は二十七日、開設記念特展「あすから開設記念特別展 弘大付属研究センター 亀ヶ岡文化の魅力発信」を開催した。別展「亀ヶ岡文化の世に開いた」文化研究センター（センター長・藤沼邦彦教授）は二十七日、開設記念特展「あすから開設記念特別展 弘大付属研究センター 亀ヶ岡文化の魅力発信」を開催した。別展「亀ヶ岡文化の世に開いた」文化研究センター（センター長・藤沼邦彦教授）は二十七日、開設記念特展「あすから開設記念特別展 弘大付属研究センター 亀ヶ岡文化の魅力発信」を開催した。

九月に開設した弘前大学人文学部の付属亀ヶ岡文化研究センター（センター長・藤沼邦彦教授）は二十七日、開設記念特展「あすから開設記念特別展 弘大付属研究センター 亀ヶ岡文化の魅力発信」を開催した。別展「亀ヶ岡文化の世に開いた」文化研究センター（センター長・藤沼邦彦教授）は二十七日、開設記念特展「あすから開設記念特別展 弘大付属研究センター 亀ヶ岡文化の魅力発信」を開催した。

亀ヶ岡文化の魅力発信

弘大付属研究センター

あすから開設記念特別展

入 場 者 数						
月・日・曜	学生	教職員	市民など	無記名	小	計
10月						
28 金	80	不明	21	53		154
29 土	71	不明	57	109		237
30 日	53	不明	99	277		429
31 月	5	7	14	0		26
11月						
1 火	20	6	6	2		34
2 水	70	5	10	0		85
③ 木	0	1	14	0		15
4 金	8	4	18	0		30
5 土	7	2	21	0		30
6 日	0	1	8	0		9
7 月	22	0	10	0		32
8 火	13	7	8	0		28
9 水	20	2	19	0		41
10 木	13	4	3	0		20
11 金	15	3	6	0		24
12 土	6	1	57	0		64
13 日	0	0	14	0		14
14 月	11	2	23	0		36
15 火	16	3	7	0		26
16 水	11	1	32	0		44
17 木	12	1	9	0		22
18 金	16	4	17	0		37
19 土	0	1	35	0		36
20 日	0	2	19	0		21
21 月	13	5	26	0		44
22 火	13	5	16	0		34
② 水	5	4	24	2		35
合 計	500	71	593	443		1,607

祭の期間（10月28～30日）は、入り口が混雑したため、無記名でも入場してもらい、その数は配布したパンフレットの数で確認しました。この時の無記名者には学生・教職員・市民等が含まれております。

市民等は約 600名ですが、無記名のものを含めると 800名以上で、弘前大学の学生・教職員（これも無記名のものを含める）の入場者を越える可能性があります。市民等は弘前大学関係者以外ということですので、一般市民・子供・高校生・他大学の学生・考古学研究者・埋蔵文化財関係者などいろいろな階層を含んでおります。大学祭の期間中は親子連れが目立ちました。変わったところでは、面談に訪れた父兄と学生、また推薦入学の面接に訪れた高校生たちが立ち寄って行きました。待望の1500人目の入場者は平川市の斎藤キミさんで、偶然にも土器作りの名人（村越潔著の『亀ヶ岡式土器』に登場）でしたので、記念に『亀ヶ岡文化遺物実測図集』を進呈しました。一般市民の多くは、この展示会を新聞やテレビで知ったとのことでしたが、口コミもずいぶんと役に立っていたようです。

研究者や埋蔵文化財関係者も予想以上に入場してくれました。その理由は、亀ヶ岡文化の優秀な資料が多数集まり、それらが一堂に見られるということもありましたが、研究センターの活動や展示が成功する事を願って、あるいは応援する気持ちで駆けつけてくれた研究者仲間が多数いたからです。青森県内の埋蔵文化財関係者のなかには、自分のところの発掘調査や遺物整理で働いている作業員などを引き連れて4回も見学に来てくれた方もおりました。青森県外から駆けつけてくださった主な研究者の名前を敬称略であげますと、泉拓良（京都大学）、小林達雄（国学院大学）、小川忠博（東京都・写真家）、菊池徹夫（早稲田大学）、甘粕健（みなとびあ新潟市歴史博物館）、磯前順一（日本女子大学）、森嶋秀一（栃木県立博物館）、上野修一（栃木県立文書館）、須藤隆・柳田俊雄・菅野智則（東北大学）、丹羽茂（東北歴史博物館）、菊地逸夫（宮城県教育委員会）、大場亜弥（栗原市教育委員会）、藤原二郎、高木晃・鎌田勉・佐々木務（岩手県立博物館）、稲野裕介（北上市埋蔵文化財センター）・稲野彰子、高橋憲太郎（宮古市教育委員会）、小林克・山田祐子・菅野美香子・小島朋夏（秋田県埋蔵文化財センター）、佐藤智雄（市立函館博物館）、福田裕二（函館市北方民族資料館）、鈴木琢也（北海道開拓記念館）などがおります。名前が漏れた方がおりましたら御免なさい。

東京在住の写真家・小川忠博氏も応援に駆けつけ、一週間近くも泊まり込み、多数の展示品を撮影してくれました。考古学実習の時間には、写真撮影の講義もしてもらいましたので、学生は大変喜んでおりました。奥様も応援にきて下さいました。この展示会の図録を刊行できるのは、まさに小川ご夫妻のおかげです。弘前大学の人文学部の日本考古学ゼミナールOB生は、まだ19名しかおりませんが、萩坂華恵（長崎県）・栗原徹（栃木県）・佐布環希（千葉県）など、遠方からも近いところからも、10名以上が応援に駆けつけ、なかには展示場で説明役を引き受けてくれたものもありました。大変嬉しいことと思っております。

なお、ミニ特別展「亀ヶ岡文化の世界」終了後も、学生や弘前大学を訪れた文部科学省の職員などが、研究センターの展示室を見学にきておりますので、現在、常設化の準備をしております。

### 3. ミニ特別展「亀ヶ岡文化の世界」の図録

#### (1) ミニ特別展「亀ヶ岡文化の世界」の図録

本図録は、ミニ特別展「亀ヶ岡文化の世界」の記録集であると同時に、亀ヶ岡式土器の形・文様などの研究のための基礎的なデータを盛り込んだ資料集でもあります。また美しい亀ヶ岡式土器の文様や土偶をじっくり鑑賞し、亀ヶ岡文化の凄さを楽しめるように編集してみました。ですから、展示品のすべてを掲載したわけではなく、亀ヶ岡文化を特徴づけている工芸的な形・文様・美しさをもつ土器や土偶などを中心としたものになりました。しかし、土偶以外の祭りの道具や生業・暮らしの道具も多数含まれております。

中心となる亀ヶ岡式土器は約 190点を掲載しました。そのうち78点は展開写真が、101 点は展開拓本図があります。土器の文様の美しさ・文様の構成などは、側面だけの実測図や写真ではなかなか理解することができませんが、小川忠博氏の撮影する展開写真を利用すると、裏側の文様まで含めたすべての文様に分かります。

弘前大学の日本考古学ゼミナールでは、土器の文様の展開模式図を作成するために、もっぱら展開拓本図を利用します。展開拓本図は、白と黒がはっきりしますので、文様が見やすくなり、文様の研究には極めて有効です。これをトレースして、文様の模式図を作るわけです。拓本は手軽で便利ですが、漆で描いた文様や、曲面の著しい部分に描かれた文様などは採拓できません。拓本は、無理をせず、注意して採拓するかぎり、土器を壊したり、汚したりすることはありません。しかし、壊れそうな土器などの採拓は避けるべきです。本図録には、美しい拓本をたくさんのできたので鑑賞して下さい。

本図録は、ミニ特別展「亀ヶ岡文化の世界」の記録集でもありますので、土器や土偶などの遺物のほかに、展示室の構成や展示風景も多数収録しました。学生・教官、一般市民、小学生、親子連れのみなさんが興味深げに展示品を覗いている写真や、日本考古学ゼミナールの学生が懸命に説明している写真もあり、展示室の雰囲気がよく分かると思います。

本図録に使用した写真の大部分は小川忠博氏が撮影したものです。展示室の写真と※のついたものは日本考古学ゼミナールの学生が撮影したのですが、これには徳島県立博物館の高島芳弘氏が撮影したものも2、3枚混じっています。展開拓本図のほとんどすべては、藤沼が採拓して作成したものです。小川氏の展開写真と藤沼の展開拓本図と一緒に並べたのは、どちらも一長一短があるからです。これによって土器の文様構成や描き方がより明瞭になったと思います。

本図録で、文様について詳しく取り上げているのは、亀ヶ岡式土器の文様研究の基礎資料としての役割を持たせたいと思っているからです。ミニ特別展「亀ヶ岡文化の世界」を見た國學院大学の小林達雄氏は「縄文絵巻を見た感がある」と評してくれましたが、本図録も意識的に「亀ヶ岡式土器絵巻」を演出しております。

## (2) 亀ヶ岡式土器の文様

亀ヶ岡式土器は、縄文中期の土器のような豪放さやダイナミックさはありませんが、深鉢・鉢・浅鉢・壺・注口土器などバリエーションに富み、洗練された美しい形と文様をもっています。また文様がなくとも、器面が光沢がでるほど磨かれたり、赤漆などで加飾されたものが多数あります。

亀ヶ岡式土器の精製土器を、直に手にとって調べていると、本当に美しい土器であることを実感します。亀ヶ岡文化には、土器のほかにも土偶のような土製品、石刀のような石製品、漆器など、多数の工芸的な遺物があります。縄文社会における工芸的な作品の存在意義などを考えるためにも、また文様の分布を情報してとらえるためにも、亀ヶ岡式土器の文様の研究は重要です。

亀ヶ岡式土器の文様とくに雲形文は、こみいった曲線的な文様となり、見た目にはきわめて複雑な印象をうけます。しかし、遠く離れた仙台湾と津軽でも、複雑そうな同じ文様の土器を製作しております。なぜ、遠く離れていても同じ文様を描くことができるのか。理由を簡単に言ってしまうと、仙台湾も津軽も同じ情報で結ばれていた亀ヶ岡文化圏に属していたからです。同じ情報に基づいて土器を作ったので、離れていてもよく似た土器ができあがったのです（勿論、細部をみれば異なっている点もあるはずですが）。しかし、文様に関する情報が難しければ、情報が正しく遠方まで伝わるのは困難なはずで。逆にいえば、遠く離れていても、土器の文様がよく似ているのは、文様の描き方の情報が、簡単で覚えやすいものであったことを示しております。彼らは、どのような手順で、どのような原則を守りながら描けば、似た文様を簡単に描いたり、伝達できるのかを、よく分かっていたの

です。描く手順を覚えるには、現代の「絵描き歌」のような「文様絵描き歌」など、リズムや語り（物語）などが伴っていたのかもしれませんが。


### (3) 亀ヶ岡式土器の文様の描き方

本図録には、亀ヶ岡式土器のいろいろな文様が載っておりますが、中心となるのは雲形文と工字文です。代表的な文様の描き方について考えてみたいと思っております。

1、区画文で文様帯を割り付け、単位文様としての雲形文を描く方法である。区画文は文様帯の上線・下線の両方に接続し、文様帯を区画する役割をもつ（描き方の図1・4）。

2、配置文を文様帯に配置し、連続文様としての雲形文を描く方法である。配置文は、①文様帯の上線あるいは下線のいずれか一方のみ接続する形をとるものと、②文様帯の内部に配置される形をとるもの（描き方の図2・5）に大別される。

区画文も配置文も基本形は単純な形ですが、これにあわせて充填文がうめこまれますと、自ずと曲線的な雲形文が誕生します。なお、単純な形の区画文や配置文、充填文に付加的な部分を付けて変化を与えると、複雑で美しい雲形文が形成されます。

3、沈線多重手法によって入組文を描く方法である。配置文である横S文（深い沈線）を配置し、これに鍋蓋（) 状の充填文を付け加えると、入組文が完成する。複雑な文様であっても、手順を踏めば、簡単に描けることが分かるであろう（描き方の図3）。

4、工字文は、磨消縄文の手法が失われた文様で、きわめて平行線化していることに特色がある。先に平行線を描いておけば、わりあい、簡単に描けるものが多いが、工字文にも種類があり、なかには複雑そうなものもある。本図録では、工字文の展開模式図や描く工程を解説していないが、展開写真や展開拓本図をみれば、自ずと分かるものが多い。

なお、本図録に掲載した三沢市野口貝塚・つがる市亀ヶ岡遺跡・岩手県岩手町豊岡遺跡出土の土器の文様について、さらに詳しく知りたい方は、『亀ヶ岡文化遺物実測図集(2)』（弘前大学人文学部日本考古学研究報告4）を参考にしてください。土器の実測図や文様の展開模式図が数多く載っておりますし、文様の施文工程に関する考察もあります。

### (4) 小川忠博氏の展開写真

この図録を刊行できるのは、まったく写真家の小川忠博氏のおかげです。藤沼は、多数の逸品を集めたものの、撮影に自信がなく、腕をこまぬくだけでしたが、小川氏は奥さまとともに応援に駆けつけ、展示資料の大部分を撮影し、成果品を無償で提供してくれました。

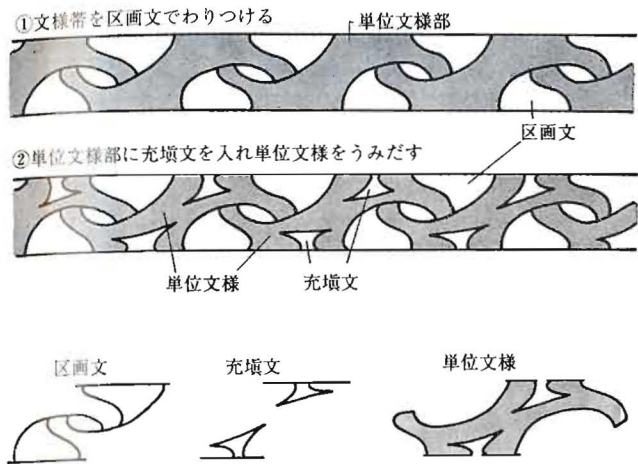
また、小川氏から、「(資料の所有者の了解がえられれば、本図録に掲載した小川撮影の展開写真については) 学術論文、所有者、および公共機関の使用に際しては、撮影者のクレジットを小さく入れて下されば(小川への) 許諾の問い合わせは無用です。ただし、商業出版等の使用に際しては所蔵者の許諾を得た後、撮影者(小川) に許諾その他の問い合わせをしてください」との有り難い申し入れがありました。

このことは、所有者の了解が得られれば、本図録にある小川氏撮影の展開写真は、無料で使用できるということです。学術論文などに大いに活用して下さるようお願いいたします(ただし、商業出版であれば小川氏に連絡をお願いします)。



# 亀ヶ岡式土器の文様の描き方

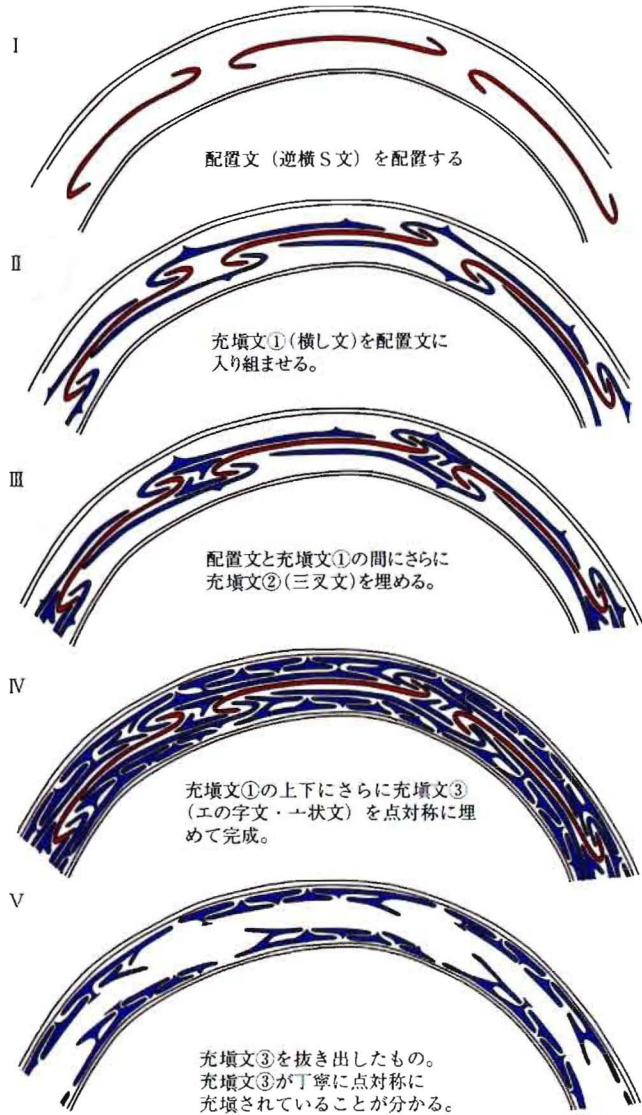
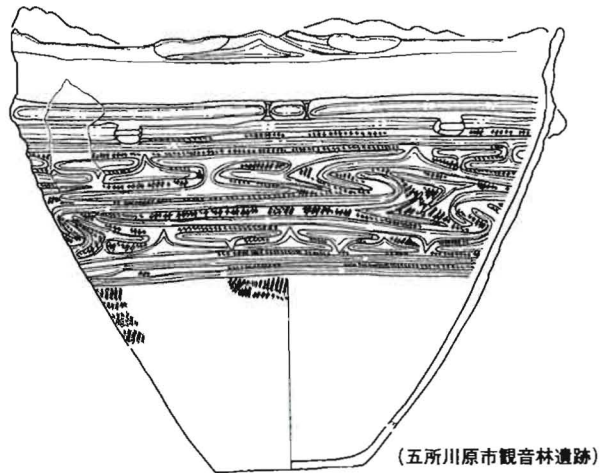
描き方の図 1



描き方の図 2



描き方の図 3



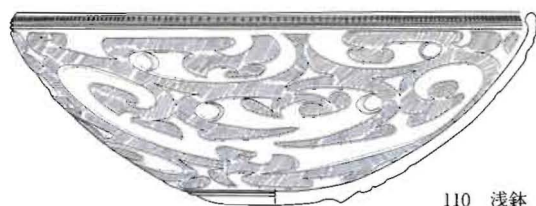
描き方の図 4



52 壺 (三沢市野口貝塚)



描き方の図 5



110 浅鉢  
(岩手町豊岡遺跡)



## ミニ特別展「亀ヶ岡文化の世界図録の資料一覧」

頁	番号	資料の名称	遺 跡 名	所 蔵 者	大 き さ
25	1	入組三叉文の短頸壺	つがる市亀ヶ岡	東北大学文学部	高さ 10.5cm
	2	変形工字文の高杯	〃	〃	高さ 12.6cm
26	3	工字文の台付浅鉢	〃	〃	高さ 9.7cm
27	4	工字文の台付浅鉢	〃	〃	高さ 10.0cm
28	5	入組文の鉢	〃	〃	高さ 8.6cm
29	6	一種の工字文の鉢	〃	〃	高さ 11.4cm
30	7	工字文の鉢	〃	〃	高さ 9.0cm
31	8	雲形文の浅鉢	〃	〃	口径 23.7cm
32	9	渦状文の壺	〃	〃	高さ 11.3cm
	10	雲形文の壺	〃	〃	高さ 9.0cm
33	11	入組文の壺	〃	〃	高さ 17.9cm
34	12	雲形文の注口土器	〃	〃	高さ 7.5cm
35	13	香炉形土器	〃	〃	高さ 11.2cm
	14	赤彩壺	〃	〃	高さ 13.7cm
36	15	雲形文の浅鉢	弘前市十腰内	東北大学文学部	口径 18.7cm
37	16	雲形文の巾着形壺	〃	〃	高さ 10.4cm
	17	雲形文の壺	〃	〃	高さ 11.0cm
38	18	雲形文の壺	〃	〃	高さ 16.7cm
	19	雲形文の徳利形壺	〃	〃	高さ 12.3cm
39	20	雲形文の短頸壺	〃	〃	高さ 10.9cm
	21	羊歯状文の注口土器	〃	〃	高さ 13.6cm
40	22	雲形文の注口土器	〃	〃	高さ 9.4cm
41	23	雲形文の浅鉢	北秋田市藤株	東北大学文学部	口径 24.0cm
42	24	雲形文の浅鉢	〃	〃	口径 21.3cm
43	25	入組文の鉢	函館市女名沢	東北大学文学部	高さ 9.0cm
44	26	雲形文の広口壺	遠野市川向	東北大学文学部	高さ 16.0cm
45	27	赤彩の雲形文の広口壺	青森市宮田	青森県立郷土館	高さ 16.0cm
46	28	工字文の台付鉢	つがる市亀ヶ岡	青森県立郷土館	高さ 9.5cm
	29	漆入り鉢	〃	〃	高さ 9.1cm
	30	無文の赤漆塗細口壺	〃	〃	高さ 17.0cm
47	31	彩文壺	〃	〃	高さ 9.5cm
48	32	工字文の壺	三戸町青鹿長根	青森県立郷土館	高さ 21.0cm
49	33	入組文の壺	つがる市亀ヶ岡	青森県立郷土館	高さ 13.8cm
50	34	雲形文の環状注口土器	青森市宮田	青森県立郷土館	高さ 11.5cm
	35	羊歯状文の徳利形壺	平内町槻ノ木	青森県立郷土館	高さ 17.9cm
51	36	雲形文の赤漆塗壺	八戸市是川中居	八戸市教育委員会	幅 10.8cm
	37	羊歯状文の赤漆塗細口壺	〃	〃	高さ 14.1cm
52	38	雲形文の壺	〃	〃	高さ 9.2cm
	39	雲形文の広口壺	〃	〃	高さ 7.8cm
53	40	雲形文の壺	〃	〃	幅 27.0cm
54	41	雲形文の台付鉢	〃	〃	高さ 9.3cm
55	42	雲形文の大型浅鉢	〃	〃	高さ 11.4cm
56	43	三叉文と雲形文をもつ鉢	〃	〃	高さ 6.0cm



56	44	台付浅鉢	〃	〃	高さ 8.7cm
	45	雲形文の赤彩壺	〃	〃	高さ 13.2cm
	46	注口土器	〃	〃	高さ 8.1cm
	47	赤漆塗注口土器	〃	〃	高さ 4.8cm
	48	注口土器	〃	〃	高さ 8.4cm
	49	注口土器	〃	〃	高さ 15.0cm
57	50	工字文の赤彩壺	不明	八戸市博物館	高さ 16.3cm
58	51	雲形文の大型壺	十和田市明戸	十和田市教育委員会	高さ 45.0cm
59					
60	52	雲形文の大型壺	三沢市野口貝塚	三沢市教育委員会	高さ 34.2cm
61	53	雲形文の徳利形壺	〃	〃	高さ 14.7cm
62	54	雲形文の注口土器	〃	〃	高さ 13.5cm
	55	大きな頸をもつ赤彩壺	〃	〃	高さ 12.6cm
63	56	雲形文の赤彩台付浅鉢	〃	〃	高さ 10.9cm
64	57	雲形文の赤彩台付浅鉢	〃	〃	高さ 11.3cm
65	58	無文の赤彩広口壺	〃	〃	高さ 9.1cm
	59	雲形文の台付鉢	〃	〃	高さ 12.6cm
	60	雲形文の皿	〃	〃	高さ 5.3cm
66	61	雲形文の浅鉢	五所川原市観音林	五所川原市歴史民俗資料館	高さ 6.8cm
67	62	入組文の鉢	〃	〃	幅 20.7cm
68	63	雲形文の皿	〃	〃	高さ 4.0cm
	64	小型浅鉢	〃	〃	高さ 3.6cm
	65	工字文の小型浅鉢	〃	〃	高さ 2.3cm
	66	無文の片口鉢	〃	〃	高さ 5.4cm
	67	超小型土器・土製スプーン	〃	〃	左端高さ3.5cm
69	68	雲形文の壺	弘前市薬師	弘前市教育委員会	高さ 14.4cm
70	69	弧線連結文の大型台付鉢	〃	〃	高さ 23.1cm
	70	雲形文の浅鉢	〃	〃	高さ 5.5cm
71	71	雲形文の広口壺	〃	〃	高さ 7.0cm
	72	注口土器	〃	〃	高さ 11.6cm
	73	雲形文の皿	〃	〃	高さ 4.3cm
	74	雲形文の浅鉢	〃	〃	高さ 4.7cm
72	75	工字文の短頸壺	〃	〃	高さ 12.1cm
73	76	無文の赤彩壺	〃	〃	高さ 12.6cm
	77	工字文の注口土器	〃	〃	高さ 6.4cm
74	78	三叉文的な文様の台付鉢	〃	〃	高さ 20.9cm
	79	変形工字文の鉢	弘前市湯ノ沢	弘前市教育委員会	高さ 6.6cm
	80	変形工字文の砂沢式の浅鉢	〃	〃	高さ 10.4cm
	81	変形工字文の砂沢式の浅鉢	〃	〃	高さ 7.6cm
75	82	変形工字文の砂沢式の壺	鯨ヶ沢町大曲Ⅲ号	弘前市教育委員会	高さ 19.2cm
76	83	雲形文の徳利形壺	外ヶ浜町宇鉄	外ヶ浜町教育委員会	高さ 14.8cm
	84	縦縄文の壺	〃	〃	高さ 16.9cm
77	85	入組文の浅鉢	〃	〃	高さ 6.8cm
	86	入組文の壺	〃	〃	高さ 12.0cm
	87	入組文の壺	〃	〃	高さ 8.4cm
78	88	工字文の台付鉢	〃	〃	高さ 11.6cm



	89	工字文の赤彩台付鉢	〃	〃	高さ	10.8cm
	90	工字文の赤彩台付鉢	〃	〃	高さ	10.4cm
	91	変形工字文の鉢	〃	〃	高さ	6.2cm
79	92	雲形文の浅鉢	〃	〃	高さ	7.2cm
	93	渦状文の鉢	〃	〃	高さ	8.8cm
	94	雲形文の注口土器	〃	〃	高さ	8.0cm
80	95	入組文の壺	むつ市二枚橋(2)	むつ市教育委員会	高さ	15.0cm
81	96	綾杉文の壺	〃	〃	高さ	13.3cm
82	97	工字文の壺	〃	〃	高さ	14.4cm
	98	工字文の鉢	〃	〃	高さ	6.8cm
83	99	工字文の台付鉢	〃	〃	高さ	8.3cm
	100	工字文の注口土器	〃	〃	幅	13.0cm
84	101	雲形文の徳形形壺	三戸町泉山	青森県埋文調査センター	高さ	16.2cm
	102	羊歯状文の広口壺	〃	〃	高さ	7.5cm
85	103	三叉文の広口壺	〃	〃	高さ	10.9cm
	104	半円文と三叉文の鉢	〃	〃	高さ	20.2cm
	105	台付浅鉢	〃	〃	高さ	7.7cm
	106	羊歯状文の浅鉢	〃	〃	高さ	6.8cm
86	107	変形工字文の砂沢式の壺	弘前市宇田野(2)	〃	高さ	15.4cm
87	108	田舎館式の壺	田舎館村垂柳	田舎館村教育委員会	高さ	19.2cm
	109	108 壺に蓋をかぶせた状態	〃	〃	蓋の高さ	2.8cm
88	110	雲形文の浅鉢	岩手町豊岡	岩手県立博物館	高さ	8.5cm
89						
90	111	雲形文の浅鉢	〃	〃	高さ	5.5cm
91	112	雲形文の鉢	〃	〃	高さ	8.2cm
92	113	雲形文の台付鉢	〃	〃	高さ	12.2cm
93	114	三叉文の台付鉢	〃	〃	高さ	9.4cm
	115	雲形文の深鉢	〃	〃	高さ	12.6cm
94	116	雲形文の台付鉢	〃	〃	高さ	16.0cm
	117	雲形文の太い頸の壺	〃	〃	高さ	7.5cm
95	118	雲形文の巾着形壺	〃	〃	高さ	14.0cm
96	119	雲形文の注口土器	〃	〃	高さ	17.0cm
97	120	雲形文の大型台付浅鉢	〃	〃	幅	27.7cm
	121	羊歯状文の広口壺	〃	〃	高さ	8.3cm
	122	弧線文の壺	〃	〃	幅	8.7cm
98	123	雲形文の皿	〃	〃	高さ	3.9cm
	124	雲形文の皿	〃	〃	高さ	5.2cm
	125	雲形文の皿	〃	〃	高さ	3.5cm
	126	雲形文の皿	〃	〃	高さ	6.4cm
99	127	一種の雲形文の鉢	〃	〃	高さ	7.2cm
	128	一種の雲形文の台付鉢	〃	〃	高さ	9.7cm
	129	雲形文の赤彩壺	〃	〃	高さ	8.9cm
100	130	雲形文の皿	〃	〃	高さ	4.5cm
	131	雲形文の皿	〃	〃	高さ	7.5cm
	132	雲形文の浅鉢	〃	〃	高さ	8.5cm
	133	無文の壺	〃	〃	高さ	15.4cm

100	134	縄文の壺	〃	〃	高さ	9.0cm
101	135	同心円文の短頸壺	栗原市山王	栗原市一迫山王ろまん館	高さ	13.8cm
102	136	隆帯文の壺	〃	〃	高さ	30.4cm
103	137	工字文の魚籠形壺	〃	〃	高さ	16.7cm
	138	一種の雲形文の壺	〃	〃	高さ	21.9cm
104	139	入組文の鉢	〃	〃	高さ	8.9cm
105	140	流水工字文の壺	〃	〃	幅	31.5cm
106	141	雲形文の浅鉢	〃	〃	高さ	9.3cm
	142	工字文の脚付浅鉢	〃	〃	高さ	7.5cm
107	143	工字文の浅鉢	〃	〃	高さ	9.9cm
108	144	雲形文の浅鉢	〃	〃	高さ	6.6cm
	145	工字文の浅鉢	〃	〃	高さ	5.8cm
109	146	雲形文の彩文浅鉢	松島町永根貝塚	多賀城市埋文調査センター	高さ	6.6cm
110	147	雲形文の赤彩壺	〃	〃	高さ	11.3cm
111	148	雲形文の徳利形壺	岩出山町天王寺	個人	高さ	16.2cm
	149	羊歯状文の徳利形壺	〃	個人	高さ	14.8cm
112	150	工字文の脚付大型鉢	田尻町北小松	個人	高さ	21.0cm
113	151	区画文の蓋?	五所川原市大沼	五所川原市教育委員会	高さ	5.7cm
	152	同心円文の蓋?	むつ市二枚橋(2)	むつ市教育委員会	高さ	8.1cm
	153	工字文の蓋?	大船渡市宮野	大船渡市教育委員会	高さ	5.1cm
114	154	無文の壺	つがる市亀ヶ岡	弘前大学人文学部	高さ	8.0cm
	155	縄文の壺	〃	〃	高さ	13.4cm
	156	入組文の壺	〃	〃	幅	12.6cm
	157	羊歯状文の浅鉢	平川市八幡崎	弘前大学人文学部	高さ	11.6cm
	158	変形工字文の鉢	つがる市亀ヶ岡	弘前大学人文学部	高さ	8.0cm
	159	変形工字文の壺	〃	〃	高さ	18.7cm
	160	彩文土器破片(内外面)	〃	〃	幅	4.3cm
	161	平行線文の台付鉢	〃	〃	高さ	13.3cm
115	162	入組文の台付鉢	〃	〃	幅	15.5cm
	163	縄文の台付鉢	〃	〃	高さ	8.8cm
	164	雲形文の赤漆塗浅鉢	〃	〃	高さ	5.3cm
	165	工字文の台付鉢	〃	〃	高さ	10.4cm
	166	無文の赤彩壺	出土地不明	弘前大学人文学部	高さ	10.8cm
	167	無文の壺	つがる市亀ヶ岡	弘前大学人文学部	高さ	15.2cm
	168	平行線文の台付鉢	〃	〃	幅	16.2cm
	169	入組文の壺	〃	〃	幅	15.4cm
116	170	雲形文の赤彩壺	平川市八幡崎	弘前大学人文学部	高さ	19.6cm
117	171	漆塗土器破片13点	つがる市亀ヶ岡	弘前大学人文学部	左上幅	11.8cm
118	172	土偶(風変わりな遮光器土偶)	板柳町土井Ⅰ号	板柳町教育委員会	高さ	17.6cm
119	173	眼の大きな土偶	むつ市二枚橋(2)	むつ市教育委員会	高さ	25.2cm
120	174	土偶	〃	〃	高さ	12.6cm
	175	土偶	〃	〃	高さ	14.7cm
	176	膝を軽く屈めた土偶	〃	〃	高さ	8.7cm
	177	座った土偶	〃	〃	高さ	9.2cm
	178	遮光器土偶	三沢市野口貝塚	三沢市教育委員会	高さ	13.7cm
	179	土偶	弘前市薬師	弘前市教育委員会	高さ	12.1cm

121	180	しゃがむ土偶	五所川原市観音林	五所川原市教育委員会	高さ	9.0cm
	181	X字形土偶	〃	〃	高さ	10.2cm
	182	X字形土偶	〃	〃	高さ	9.2cm
	183	小型土偶	北秋田市向様田D	北秋田市教育委員会	高さ	5.1cm
	184	小型土偶	〃	〃	高さ	6.6cm
122	185	遮光器土偶	〃	〃	高さ	16.5cm
	186	遮光器土偶	〃	〃	高さ	10.0cm
	187	遮光器土偶	〃	〃	高さ	15.9cm
	188	遮光器土偶	〃	〃	高さ	5.1cm
	189	遮光器土偶	〃	〃	高さ	5.1cm
	190	遮光器土偶	〃	〃	高さ	5.1cm
123	191	遮光器土偶	〃	〃	高さ	11.7cm
	192	土偶	〃	〃	高さ	10.0cm
	193	土偶	〃	〃	高さ	11.7cm
	194	土偶	〃	〃	高さ	13.5cm
124	195	土偶	大船渡市大洞貝塚	大船渡市教育委員会	高さ	13.2cm
	196	大型遮光器土偶	石巻市沼津貝塚	東北大学文学部	高さ	16.0cm
	197	X字形土偶	岩手町豊岡遺跡	岩手県立博物館	高さ	7.0cm
	198	岩偶形土偶	〃	〃	高さ	8.4cm
	199	X字形土偶	〃	〃	高さ	3.6cm
	200	遮光器土偶	〃	〃	高さ	22.7cm
	201	遮光器土偶	〃	〃	高さ	17.0cm
125	202	岩偶	北秋田市向様田A	北秋田市教育委員会	高さ	16.1cm
	203	岩偶	〃	〃	高さ	9.9cm
	204	岩偶	五所川原市観音林	五所川原市教育委員会	高さ	11.8cm
126	205	小型の土製仮面	むつ市二枚橋(2)	むつ市教育委員会	高さ	7.3cm
	206	小型の土製仮面	〃	〃	高さ	9.3cm
	207	小型の土製仮面	〃	〃	高さ	7.5cm
	208	小型の土製仮面	〃	〃	高さ	9.7cm
	209	小型の土製仮面	〃	〃	高さ	10.0cm
	210	小型の土製仮面	〃	〃	高さ	7.8cm
127	211	小型の土製仮面	〃	〃	高さ	8.6cm
	212	鼻曲りの土製仮面	六ヶ所村上尾駸	青森県埋文調査センター	高さ	14.0cm
	213	小型の土製仮面	九戸村伊保内	青森県立郷土館	高さ	11.3cm
	214	小型の土製仮面	青森市羽黒平	〃	高さ	9.9cm
	215	小型の土製仮面	岩手県内(不明)	岩手県立博物館	高さ	5.4cm
	216	小型の土製仮面	五所川原市五月女范	五所川原市教育委員会	高さ	5.7cm
128	217	土版	弘前市十腰内	弘前市教育委員会	高さ	12.0cm
	218	岩版	階上町滝端	階上町教育委員会	高さ	12.2cm
	219	土版	田子町	青森県立郷土館	高さ	11.5cm
	220	岩版	むつ市二枚橋(2)	むつ市教育委員会	高さ	9.7cm
	221	岩版	北秋田市向様田D	北秋田市教育委員会	高さ	6.9cm
	222	土版	むつ市二枚橋(2)	むつ市教育委員会	高さ	4.6cm
	223	岩版	北秋田市向様田D	北秋田市教育委員会	高さ	11.6cm
	224	岩版	弘前市薬師	弘前市教育委員会	高さ	10.1cm
129	225	冠状石製品	外ヶ浜町字鉄	外ヶ浜町教育委員会	高さ	8.0cm

[illegible]

## ミニ特別展「亀ヶ岡文化の世界」展示資料一覧

概要：亀ヶ岡式土器が約180点。藍胎漆器・櫛など漆器関係の遺物が約15点。土偶など祭祀の関係の遺物が約140点（土偶・岩偶約40点、土製仮面17点、石刀・石剣13点など）。装身具など約70点。抜歯の見える頭骨3体分。石鏃・釣針・石皿など生業・生活関係の遺物が約100点。縄文人の食料残滓多数。弥生土器15点、石包丁2点、炭化米。合計550点以上

※ 会期中、若干の入れ替えがありました。

場所）弘前大学人文学部亀ヶ岡文化研究センター附属展示室（面積約80㎡）

会期）平成17年10月28日（土）～11月23日（水）

あいさつ文（本図録の序文参照）		点数	所蔵者
導入部			
亀ヶ岡遺跡の大型遮光器土偶（レプリカ）		1	つがる市縄文住居資料館
津軽藩主の茶器に利用したと伝えられる亀ヶ岡遺跡出土の土器		1	東北大学文学部
テーマ① 亀ヶ岡文化とは			
亀ヶ岡文化とは（題字だけ）			
亀ヶ岡文化とは（文字パネル）			
亀ヶ岡式土器の分布・日本列島における亀ヶ岡文化（地図パネル）			
館野越本永禄日記（写真）			
外ヶ浜奇勝（写真）			
耽奇漫録（復刻本）		2	弘前大学人文学部
テーマ① 亀ヶ岡遺跡研究事始め			
東奥義塾と『大森介壺古物編』（写真・文字パネル）			
亀ヶ岡遺跡とは（文字パネル）			
亀ヶ岡遺跡の風景（写真パネル）			
『大森貝壺古物編』		1	青森県立郷土館
有名な遮光器土偶の初めての紹介（明治20年の『東京人類学会雑誌』復刻版）		1	弘前大学人文学部
佐藤伝蔵による亀ヶ岡遺跡の最初の本格的な学術的発掘報告（明治29年の『東京人類学会雑誌』復刻版）		1	弘前大学人文学部
戦後の亀ヶ岡遺跡の発掘調査報告書		3	弘前大学人文学部
菰虫山人の絵にある亀ヶ岡遺跡出土の土偶		1	東北大学文学部
テーマ② 亀ヶ岡遺跡と佐藤部			
亀ヶ岡遺跡と佐藤部（題字だけ）			
佐藤部とは（文字パネル）			
テーマ② 東北大学文学部の旧佐藤部コレクション			
十腰内遺跡の土器	弘前市十腰内遺跡	9	東北大学文学部
亀ヶ岡遺跡の土器	つがる市亀ヶ岡遺跡	20	東北大学文学部
テーマ② 青森県立郷土館の大高コレクション			
亀ヶ岡遺跡の土器	つがる市亀ヶ岡遺跡	3	青森県立郷土館
テーマ③ 各地の亀ヶ岡文化の遺跡から出土した土器			
各地の亀ヶ岡式土器（題字だけ）			
亀ヶ岡式土器とは（文字パネル）			
1920年代の是川遺跡の風景（写真パネル）		1	八戸市縄文学習館
展示で扱った亀ヶ岡文化の遺跡（地図パネル）			
亀ヶ岡式土器の変遷（文字パネル）			
亀ヶ岡式土器岩手県	岩手町豊岡遺跡	15	岩手県立博物館
亀ヶ岡式土器	栗原市山王団遺跡	12	栗原市一迫埋蔵文化財センター
亀ヶ岡式土器	弘前市薬師遺跡	1	弘前市教育委員会
高知県居徳遺跡から出土した亀ヶ岡式土器（写真パネル）			
亀ヶ岡式土器	むつ市二枚橋(2)遺跡	9	むつ市教育委員会
亀ヶ岡式土器	三沢市野口貝塚	11	三沢市教育委員会
亀ヶ岡式土器	弘前市薬師遺跡	10	弘前市教育委員会
亀ヶ岡式土器	八戸市是川中居遺跡	13	八戸市教育委員会
亀ヶ岡式土器	青森県外ヶ浜町今津遺跡	10	弘前大学人文学部
亀ヶ岡式土器	青森県三戸町泉山遺跡	15	青森県埋蔵文化財調査センター
亀ヶ岡式土器	宮城県岩出山町天王寺遺跡	2	個人
亀ヶ岡式土器	宮城県田尻町北小松遺跡	1	個人
亀ヶ岡式土器（蓋）	岩手県大船渡市宮野貝塚	1	大船渡市教育委員会
亀ヶ岡式土器	岩手県一戸町野里遺跡	5	一戸町教育委員会

亀ヶ岡式土器	青森市宮田	2	青森県立郷土館
亀ヶ岡式土器	青森県平内町槻ノ木遺跡	1	
亀ヶ岡式土器	青森県平内町槻ノ木遺跡	5	個人
亀ヶ岡式土器	弘前市湯ノ沢遺跡	3	弘前市教育委員会
亀ヶ岡式土器	青森県鯉ヶ沢町大曲Ⅲ号遺跡	1	
亀ヶ岡式土器	青森県外ヶ浜町宇鉄遺跡	18	外ヶ浜町教育委員会
亀ヶ岡式土器	遠野市川向遺跡	1	東北大学文学部
亀ヶ岡式土器	五所川原市観音林遺跡	4	五所川原市歴史民俗資料館
亀ヶ岡式土器	函館市女名沢遺跡	1	東北大学文学部
その他の亀ヶ岡式土器			
塩作りの土器（文字パネル）			
製塩土器	青森県階上町滝端遺跡	1	階上町教育委員会
製塩土器	青森県外ヶ浜町今津遺跡	1	弘前大学人文学部
煮こぼれのついた土器	青森県外ヶ浜町今津遺跡	3	
煮沸実験の土器		1	八戸市教育委員会

テーマ④ 亀ヶ岡式土器の壺と皿の文様			
亀ヶ岡文化の壺と皿の文様（題字だけ）			
亀ヶ岡式土器の文様の描き方（文字パネル）			
野口貝塚の壺の文様（図版パネル）			
観音林遺跡の浅鉢の文様（図版パネル）			
雲形文壺	三沢市野口貝塚	1	三沢市教育委員会
入組文鉢	五所川原市観音林遺跡	1	五所川原市歴史民俗資料館
雲形文浅鉢	五所川原市観音林遺跡	1	
雲形文大壺	十和田市明戸遺跡	1	十和田市教育委員会
雲形文皿	北秋田市藤株遺跡	2	東北大学文学部
工字文壺	青森県名川町青鹿長根遺跡	1	青森県立郷土館
工字文壺	出土地不明	1	八戸市博物館

テーマ⑤ 亀ヶ岡文化の漆製品			
亀ヶ岡文化の漆製品（題字だけ）			
亀ヶ岡文化の漆製品（文字パネル）			
是川遺跡の籃胎漆器（写真パネル）		1	八戸市縄文学習館
赤色顔料（酸化鉄）の原産地－青森県今別町赤根沢（写真パネル）			
彩文浅鉢	宮城県松島町永根貝塚	1	多賀城市埋蔵文化財調査センター
壺	宮城県松島町永根貝塚	1	
壺	八戸市是川中居遺跡	2	八戸市教育委員会
彩文壺	つがる市亀ヶ岡遺跡	1	青森県立郷土館
櫛	栗原市山王囲遺跡	1	栗原市一迫埋蔵文化財センター
櫛（レプリカ）	八戸市是川中居遺跡	1	八戸市教育委員会
木製容器（レプリカ）	八戸市是川中居遺跡	1	
籃胎漆器	栗原市山王囲遺跡	1	栗原市一迫埋蔵文化財センター
漆入り鉢	つがる市亀ヶ岡遺跡	1	青森県立郷土館
漆漉し布	つがる市亀ヶ岡遺跡	1	
赤色顔料（酸化鉄）を磨りつぶした石皿・磨石	青森県板柳町土井Ⅰ号遺跡	1	板柳町教育委員会
赤色顔料（酸化鉄）を磨りつぶした石皿・磨石	北秋田市向様田A遺跡	1	秋田県埋蔵文化財センター
赤色顔料を磨りつぶした石皿・磨石	青森県外ヶ浜町今津遺跡	1	弘前大学人文学部
遺跡に運ばれた赤色顔料の原石（酸化鉄）	青森県外ヶ浜町今津遺跡	1	

テーマ⑥ 縄文文化から弥生文化へ			
縄文から弥生へ（題字だけ）			
縄文から弥生へ（文字パネル）			
垂柳遺跡の水田跡（写真パネル）		1	田舎館村教育委員会
東北最古の弥生土器（砂沢式）	弘前市湯ノ沢遺跡	3	弘前市教育委員会
東北最古の弥生土器（砂沢式）	鯉ヶ沢町大曲Ⅲ号遺跡	1	弘前市教育委員会
東北最古の弥生土器（砂沢式）	弘前市宇田野遺跡	1	青森県埋蔵文化財調査センター
熊の飾りのついた弥生土器破片	弘前市宇田野遺跡	3	
遠賀川系土器の破片	弘前市宇田野遺跡	5	

仙台平野の弥生土器（榍形式）	仙台市西台畑遺跡	2	東北大学文学部
仙台平野の弥生土器（榍形式）	仙台市南小泉遺跡	1	
津軽平野の弥生土器（田舎館式）	青森県田舎館村垂柳遺跡	3	田舎館村埋蔵文化財センター
石包丁（穂摘み具）	仙台市南小泉遺跡	2	東北大学文学部
炭化米	青森県田舎館村垂柳遺跡	一括	田舎館村埋蔵文化財センター

テーマ⑦ 衣服を身につける・装飾品			
衣服を身につける（題字だけ）			
装身具とは（文字パネル）			
編布の断片（漆漚し）	栗原市山王岡遺跡	1	栗原市一迫埋蔵文化財センター
編布の復元		1	八戸市縄文学習館
角・骨・貝製の装身具	大船渡市大洞貝塚	9	大船渡市教育委員会
鹿角製腰飾り	大船渡市大洞貝塚	1	
鹿角製腰飾り	東松島市里浜貝塚	1	東北大学文学部
土製垂飾品	青森県岩木町薬師遺跡	2	弘前市教育委員会
土製垂飾品	青森県三戸町泉山遺跡	2	青森県埋蔵文化財調査センター
ボタン状石製品	岩手県岩手町豊岡遺跡	5	岩手県立博物館
ボタン状石製品	北秋田市向様田D遺跡	14	秋田県埋蔵文化財センター
石製垂飾品	北秋田市向様田D遺跡		
石製玉類	青森市朝日山遺跡	8	青森県埋蔵文化財調査センター
墓から発見された頸飾り	青森県六ヶ所村上尾駁遺跡	3連	
玉の原石	青森県三戸町泉山遺跡	1袋	
大型玉	青森県三戸町泉山遺跡	1	
琥珀破片	青森県三戸町泉山遺跡	1袋	
土製耳飾り	青森県階上町滝端遺跡	1	階上町教育委員会
土製耳飾り	北秋田市向様田D遺跡	2	秋田県埋蔵文化財センター
貝輪を模した土製腕輪	北秋田市向様田D遺跡	1	
小型石斧	青森県三戸町泉山遺跡	10	青森県埋蔵文化財調査センター
小型石斧	青森県外ヶ浜町今津遺跡	1	弘前大学人文学部
ガラス小玉	つがる市亀ヶ岡遺跡	1	青森県埋蔵文化財調査センター
テーマ⑧ 抜歯の風習			
人の歯の装身具	大船渡市大洞貝塚	1	大船渡市教育委員会
抜歯ある頭骨 男	大船渡市大洞貝塚	1	
抜歯ある頭骨 女	大船渡市大洞貝塚	1	
上顎の犬歯を抜歯した壮年の男性の頭骨	東松島町里浜貝塚	1	東北大学医学部

テーマ⑧ 亀ヶ岡文化の祭りの道具			
祭祀の道具（題字だけ）			
祭祀の道具（文字パネル）			
遮光器土偶	青森県板柳町土井I号遺跡	1	板柳町教育委員会
遮光器土偶	岩手県岩手町豊岡遺跡	2	岩手県立博物館
遮光器土偶	石巻市沼津貝塚	1	東北大学文学部
遮光器土偶	三沢市野口貝塚	1	三沢市教育委員会
遮光器土偶（レプリカ）	盛岡市手代森遺跡	1	岩手県立博物館
小型の土偶	岩手県岩手町豊岡遺跡	3	
土偶	むつ市二枚橋(2)遺跡	5	むつ市教育委員会
土偶	大船渡市大洞貝塚	1	大船渡市教育委員会
土偶	弘前市薬師遺跡	1	弘前市教育委員会
土偶	青森県外ヶ浜町宇鉄遺跡	1	外ヶ浜町教育委員会
しゃがむ土偶	五所川原市観音林遺跡	1	五所川原市歴史民俗資料館
X字形土偶	五所川原市観音林遺跡	2	
遮光器土偶	北秋田市向様田A遺跡	1	秋田県埋蔵文化財センター
同じ遺跡から出土した土偶	北秋田市向様田D遺跡	13	
遮光器土偶など	岩手県一戸町野里遺跡	2	一戸町教育委員会
岩偶	北秋田市向様田A遺跡	2	秋田県埋蔵文化財センター
岩偶	五所川原市観音林遺跡	1	五所川原市歴史民俗資料館
鼻曲がり仮面（レプリカ）	岩手県一戸町蒔前遺跡	1	一戸町教育委員会
鼻曲がり仮面	伝、岩手県	1	東北大学文学部
鼻曲がり仮面	青森県六ヶ所村上尾駁遺跡	1	青森県埋蔵文化財調査センター
土製仮面	宮城県田尻町中沢貝塚	1	東北大学文学部

小型土製仮面	出土地不明	1	岩手県立博物館
小型土製仮面	青森市羽黒平遺跡	1	青森県立郷土館
小型土製仮面	岩手県九戸町伊保内	1	青森県立郷土館
小型土製仮面	むつ市二枚橋(2)遺跡	7	むつ市教育委員会
小型土製仮面	五所川原市五月女菰遺跡	1	五所川原市教育委員会
土版	青森県田子町	1	青森県立郷土館
土版	伝、弘前市十腰内遺跡	1	東北大学文学部
土版	むつ市二枚橋(2)遺跡	4	むつ市教育委員会
土版	北秋田市向様田A遺跡	1	秋田県埋蔵文化財センター
岩版	むつ市二枚橋(2)遺跡	2	むつ市教育委員会
岩版	青森県岩木町薬師遺跡	1	弘前市教育委員会
岩版	青森県階上町滝端遺跡	1	階上町教育委員会
岩版	十和田市明戸遺跡	1	十和田市歴史民俗資料館
岩版	北秋田市向様田A遺跡	4	秋田県埋蔵文化財センター
岩版	北秋田市向様田D遺跡	7	
冠状土製品	むつ市二枚橋(2)遺跡	2	むつ市教育委員会
冠状土製品	青森県階上町滝端遺跡	1	階上町教育委員会
冠状石製品	青森県外ヶ浜町宇鉄遺跡	1	東北大学文学部
玉象嵌土製品	青森県外ヶ浜町宇鉄遺跡	3	外ヶ浜教育委員会
ミナア 土器	むつ市二枚橋(2)遺跡	15	むつ市教育委員会
ミナア 土器	五所川原市観音林遺跡	4	五所川原市歴史民俗資料館
異形石器	北秋田市向様田D遺跡	10	秋田県埋蔵文化財センター
独鈷石	つがる市亀ヶ岡遺跡	1	青森県立郷土館
独鈷石	つがる市亀ヶ岡遺跡	1	東北大学文学部
独鈷石	青森県外ヶ浜町算用師遺跡	1	
石刀	つがる市亀ヶ岡遺跡	1	東北大学文学部
石刀	青森県外ヶ浜町宇鉄遺跡	1	青森県立郷土館
石刀	青森県外ヶ浜町宇鉄遺跡	1	東北大学文学部
石刀	むつ市二枚橋(2)遺跡	8	むつ市教育委員会
参考、後期末の石剣	北秋田市向様田D遺跡	2	秋田県埋蔵文化財センター
動物形石製品	青森県階上町滝端遺跡	1	階上町教育委員会

テーマ⑨ 亀ヶ岡文化の生業			
暮らしの道具（題字だけ）			
暮らしの道具（文字パネル）			
石皿	北秋田市向様田A遺跡	1	秋田県埋蔵文化財センター
石皿	青森県階上町滝端遺跡	1	階上町教育委員会
磨石	青森県外ヶ浜町今津遺跡	2	弘前大学人文学部
土製スプーン	北秋田市向様田D遺跡	1	秋田県埋蔵文化財センター
土製スプーン	五所川原市観音林遺跡	1	五所川原市歴史民俗資料館
円盤状石製品	北秋田市向様田A遺跡	7	秋田県埋蔵文化財センター
円盤状土製品	むつ市二枚橋(2)遺跡	5	むつ市教育委員会
石錘	つがる市亀ヶ岡遺跡	1	弘前大学人文学部
石斧破片	つがる市亀ヶ岡遺跡	1	
石鏃	青森県外ヶ浜町今津遺跡	20	
尖頭器	青森県外ヶ浜町今津遺跡	5	
石小刀	青森県外ヶ浜町今津遺跡	5	
石錐	青森県外ヶ浜町今津遺跡	5	
石篋	青森県外ヶ浜町今津遺跡	4	
釣針・モリ・ヤス	大船渡市大洞貝塚	11	大船渡市教育委員会
モリ	むつ市二枚橋(2)遺跡	6	むつ市教育委員会
鏃・根挟み	大船渡市大洞貝塚	6	大船渡市教育委員会
骨篋	大船渡市大洞貝塚	4	
ヤスなど	東松島町里浜貝塚	10	個人
食料残滓哺乳類の骨	東松島市里浜貝塚	一括	東松島市奥松島縄文村歴史資料館
食料残滓鳥骨	東松島市里浜貝塚	一括	
食料残滓魚骨	東松島市里浜貝塚	一括	
食料残滓貝殻	東松島市里浜貝塚	一括	
食料残滓 トチノミの殻	八戸市是川遺跡	1瓶	八戸市教育委員会
食料残滓 クルミの殻	八戸市是川遺跡	1瓶	



## 参 考 文 献

- 1968年、村越潔ほか編『岩木山』
- 1969年、大高興『縄文文化遺物集成』
- 1975・1984～1992年、新谷雄蔵『観音林遺跡1～10次発掘調査報告書』五所川原市教育委員会
- 1982年、鈴木克彦編『野口貝塚出土品図録』三沢市教育委員会
- 1985年、伊東信雄・須藤隆編『山王圀遺跡調査図録』宮城県一迫町教育委員会
- 1985年、青森県埋蔵文化財調査センター編『垂柳遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第88集
- 1988年、青森県埋蔵文化財調査センター編『上尾駁(1)遺跡C地区発掘調査報告書』青森県埋蔵文化財調査報告書第113集
- 1989年、藤沼邦彦「亀ヶ岡式土器様式」『縄文土器大観』4、小学館
- 1990年、青森県埋蔵文化財調査センター編『北の誇り・亀ヶ岡文化』図説ふるさと青森の歴史シリーズ③、青森県教育委員会。
- 1993年、板柳町教育委員会『土井Ⅰ号遺跡』
- 1993年、青森県立郷土館『漆の美 日本の漆文化と青森県』
- 1994年、青森県埋蔵文化財調査センター編『朝日山遺跡Ⅲ』青森県埋蔵文化財調査報告書第156集
- 1995年、青森県埋蔵文化財調査センター編『泉山遺跡発掘調査報告書』青森県埋蔵文化財調査報告書第181集
- 1995年、青森県埋蔵文化財調査センター編『泉山遺跡発掘調査報告書Ⅲ』青森県埋蔵文化財調査報告書第190集
- 1995年、岩手県立博物館編『小田島コレクション その2』岩手県立博物館収蔵資料目録第11集(考古Ⅲ)
- 1996年、葛西勲・高橋潤・児玉大成編『宇鉄遺跡発掘調査報告書』三厩村教育委員会
- 1996年、青森県立郷土館『縄文の玉手箱 風韻堂コレクション図録』
- 1997年、大船渡市教育委員会『岩手県大船渡市大洞貝塚 平成6・7・8年度範囲確認調査概報』
- 1997年、青森県埋蔵文化財調査センター編『宇田野(2)遺跡・宇田野(3)遺跡・草薙(3)遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第217集
- 1998年、青森県教育委員会編『青森県遺跡地図』
- 1998年、須藤隆『東北日本先史時代文化変化・社会変動の研究ー縄文から弥生へ』纂修堂
- 1999年、階上町教育委員会『滝端遺跡発掘調査報告書』
- 2001年、橘善光・奈良正義『二枚橋(2)遺跡発掘調査報告書』大畑町文化財報告書第12集。
- 2001年、市浦村教育委員会『岩井・大沼遺跡』市浦村埋蔵文化財調査報告書第12集
- 2001年、青森県立郷土館『青森県立郷土館収蔵資料図録 第3集・考古編2』
- 2002年、竹原仁・市川健夫「二枚橋(2)遺跡出土の石刀について」『海と考古学とロマン』、同刊行会
- 2002年、藤沼邦彦・佐布環貴・萩坂華恵「青森県における縄文時代の土製仮面について」『青森県史研究』6、青森県
- 2002年、大船渡市教育委員会『岩手県大船渡市宮野貝塚緊急発掘調査報告書』
- 2002年、宇部則保・小久保拓也編『是川中居遺跡長田沢地区』八戸遺跡調査会埋蔵文化財調査報告書第2集、八戸遺跡調査会
- 2002年、八戸市教育委員会『是川中居遺跡1』八戸市埋蔵文化財調査報告書第91集
- 2003年、八戸市教育委員会『是川中居遺跡3』八戸市埋蔵文化財調査報告書第103集
- 2004年、八戸市教育委員会『是川中居遺跡4』八戸市埋蔵文化財調査報告書第107集
- 2004年、岩手県立博物館『高橋昭治コレクション(豊岡遺跡)その1』岩手県立博物館収蔵資料目録第17集(考古Ⅳ)
- 2004年、岩手町教育委員会『再発見!亀ヶ岡文化～豊岡遺跡～』
- 2004年、藤沼邦彦・蔦川貴祥・小向良・向出博之編『亀ヶ岡文化遺物実測集』弘前大学人文学部日本考古学研究室研究報告1
- 2004年、秋田県埋蔵文化財センター『向様田A遺跡 遺物編』秋田県文化財調査報告書第370集
- 2005年、秋田県埋蔵文化財センター『向様田D遺跡』秋田県文化財調査報告書第392集
- 2005年、藤沼邦彦・関根達人・蔦川貴祥・小向良・向出博之・深見嶺・横山寛剛・秋山真吾編『青森県東津軽郡平館村今津遺跡発掘調査報告書』弘前大学人文学部日本考古学研究室研究報告2
- 2005年、一迫町教育委員会『いちはさまの文化遺産一迫町の指定文化財』



入組三叉文の短頸壺（つがる市亀ヶ岡遺跡）

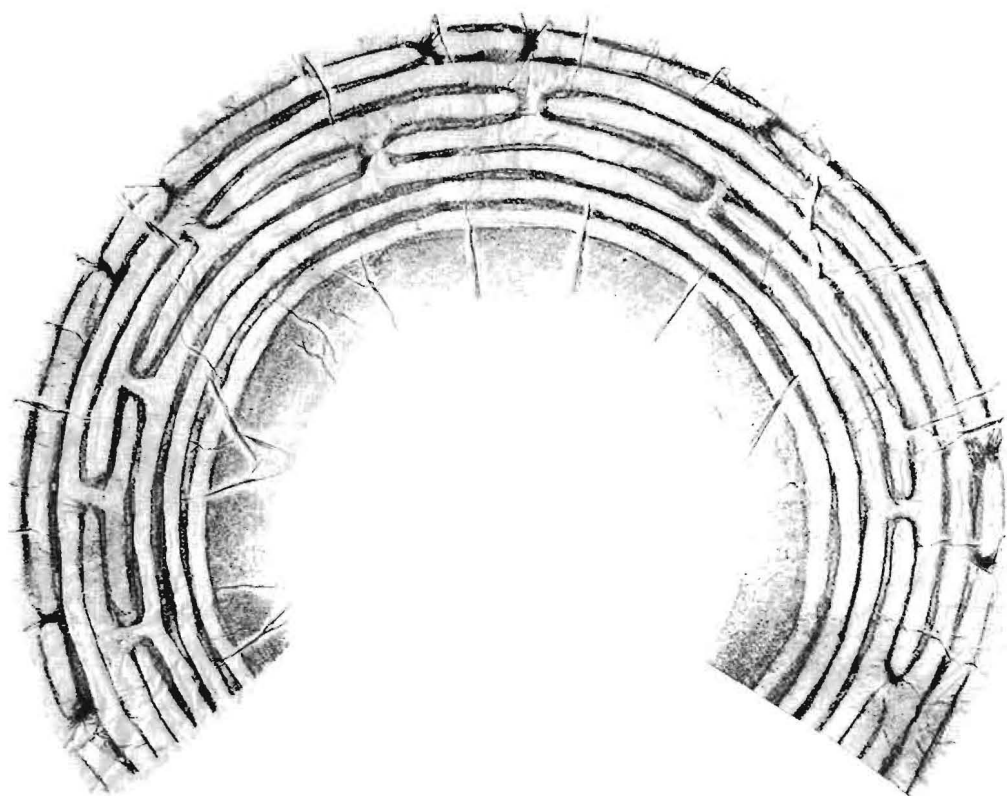


津軽藩主が茶器に利用したと伝えられる変形工字文の高杯（つがる市亀ヶ岡遺跡）  
内側の金箔は江戸時代に貼り付けられたもの。





工字文の台付浅鉢（つがる市亀ヶ岡遺跡）  
内面の黒漆は後世のもの。台に透かしがある。

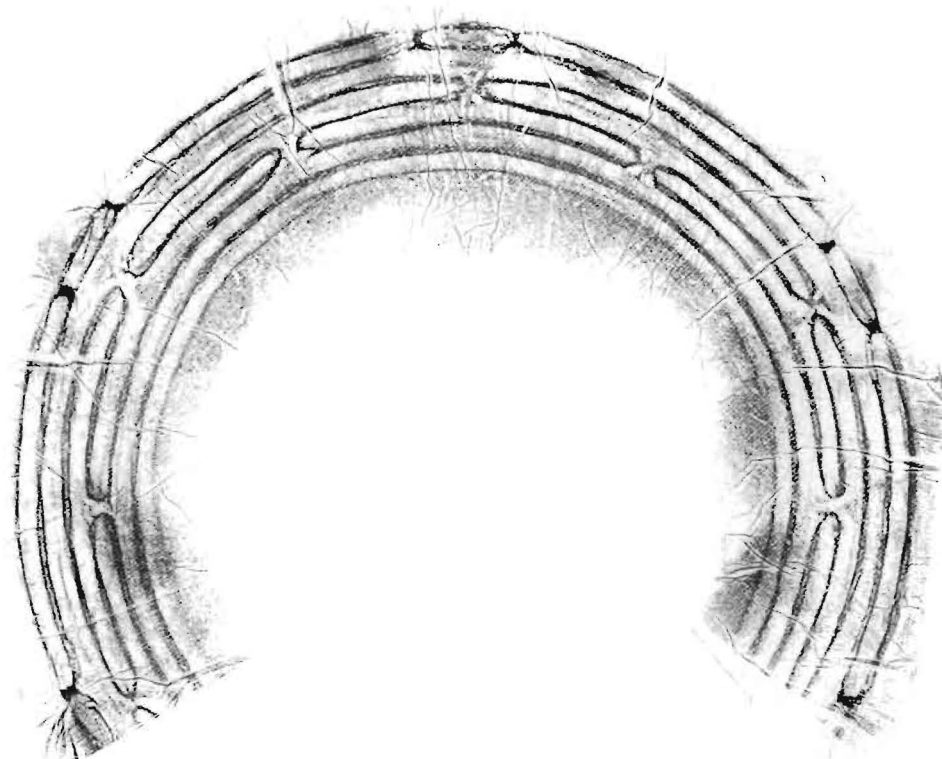




4



工字文の台付浅鉢（つがる市亀ヶ岡遺跡）

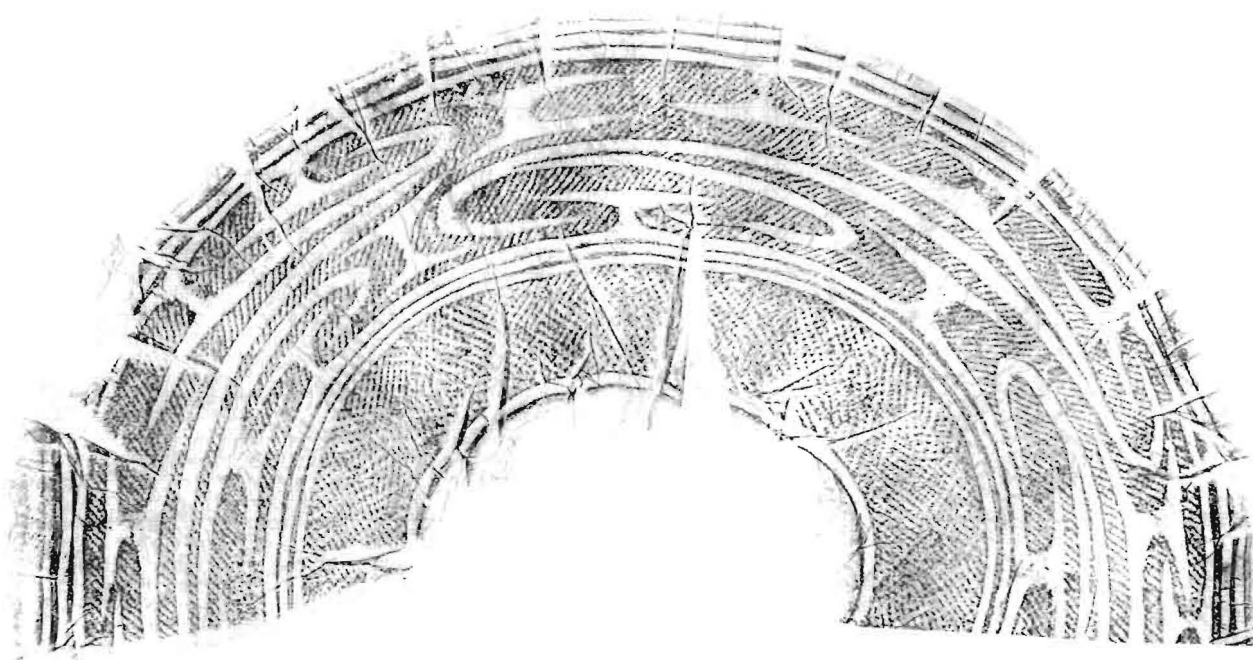




入組文の鉢（つがる市亀ヶ岡遺跡）



横S字文を基調とする。横S字文の両端が入り組まない。11壺や25鉢と類似した文様。



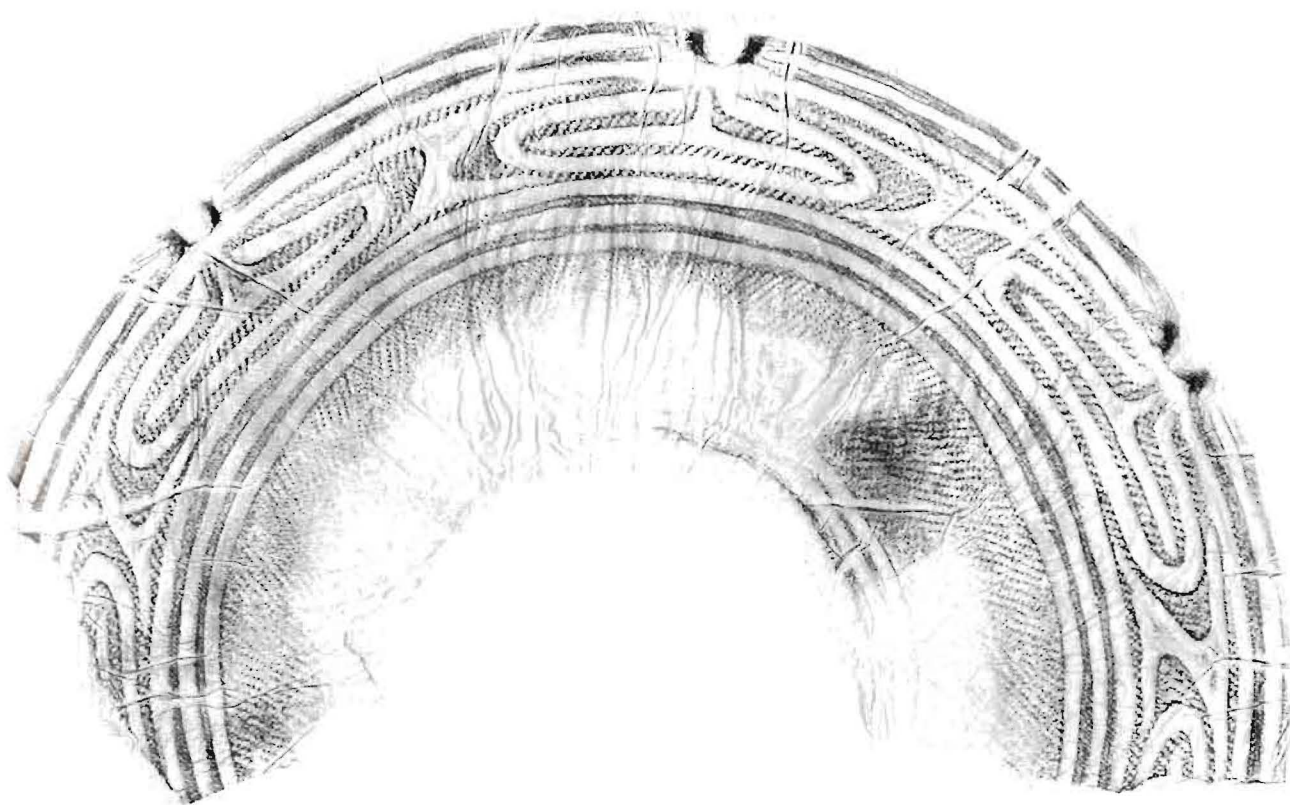




一種の工字文の鉢（つがる市亀ヶ岡遺跡）



文様帯に縄文施文。



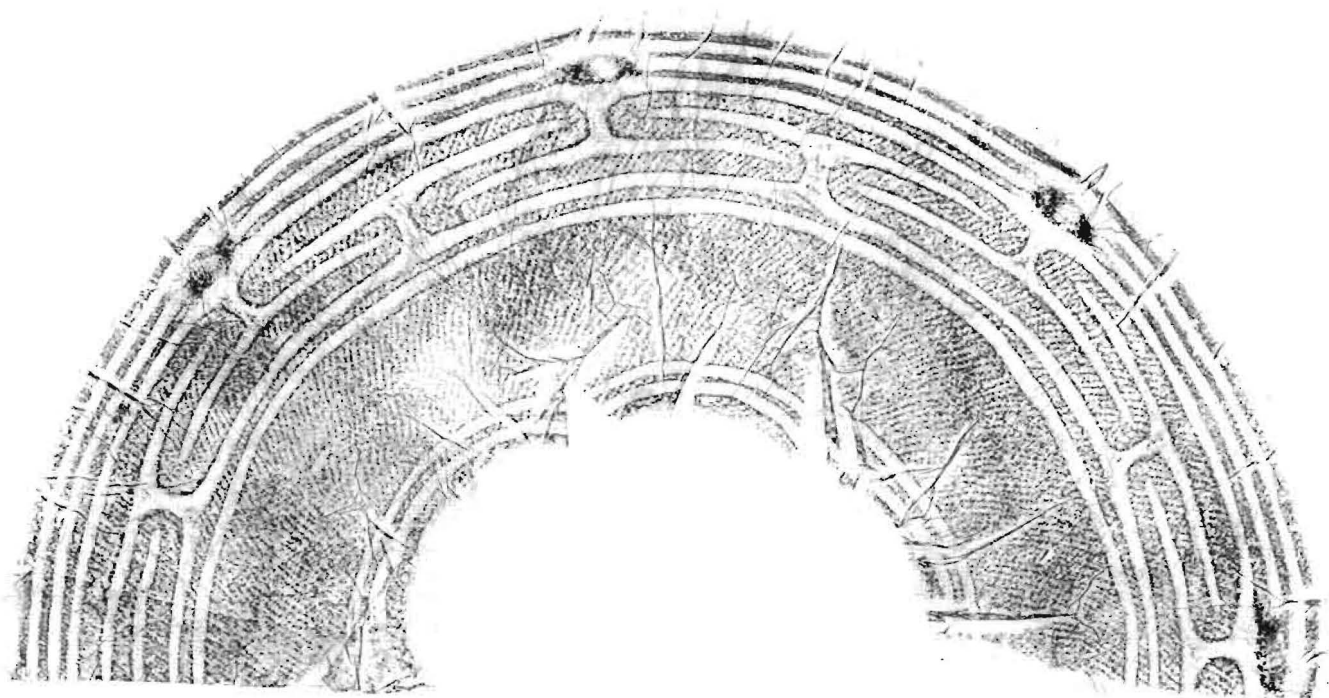




工字文の鉢（つがる市亀ヶ岡遺跡）



文様帯に縄文施文。98鉢に類似する。





8



雲形文の浅鉢（つがる市亀ヶ岡遺跡）



Z状の配置文。3単位。







渦状文の壺（つがる市亀ヶ岡遺跡）



雲形文の壺（つがる市亀ヶ岡遺跡）



9-b

大小のC字文と三叉文などで文様を構成。



10-b

単純な区画文で文様を構成。



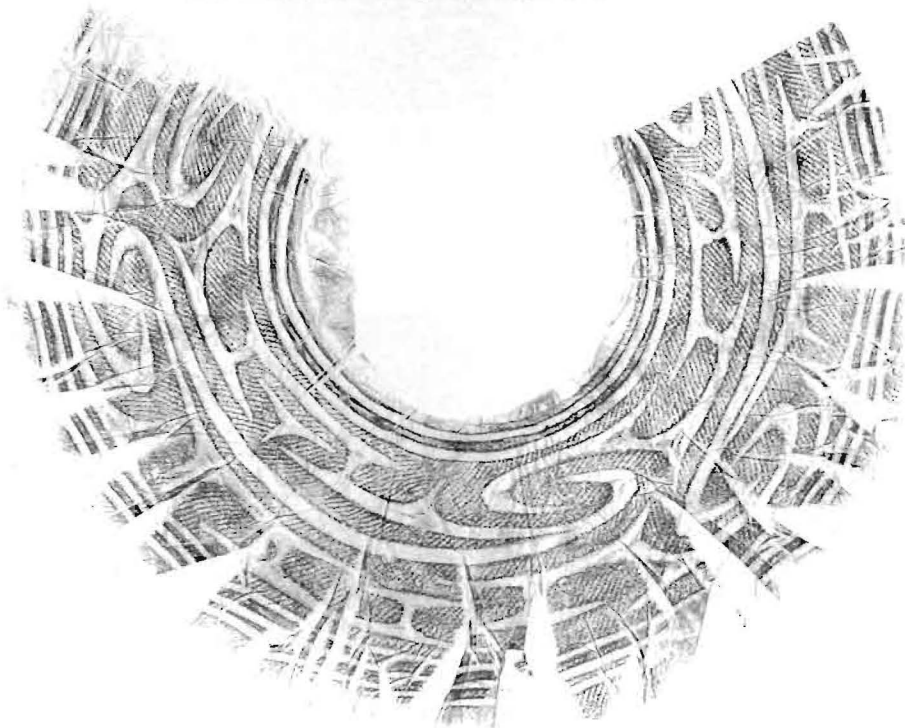
11



入組文の壺（つがる市亀ヶ岡遺跡）



横S字文を基調とする。横S字文の両端が入り組まない。5鉢や25鉢と類似した文様。





雲形文の注口土器（つがる市亀ヶ岡遺跡）



（上半部）

ノ字形の配置文に充填文を加え連続文様を構成。縄文なし。赤彩。



（下半部）



13



※

香炉形土器（つがる市亀ヶ岡遺跡）

14



※

赤彩壺（つがる市亀ヶ岡遺跡）。無文。縄文もなし。小さな4個の脚。



雲形文の浅鉢（弘前市十腰内遺跡）。よく研磨された美しい土器。



区画文と充填文で3単位の単位文様を構成。





16-a



雲形文の巾着形壺（弘前市十腰内遺跡）。突起が発達。  
118壺とよく似る。

17-a



雲形文の壺（弘前市十腰内遺跡）。



16-b

頸の部分に3個の単位文様、胴部に連続文様がめぐる。



17-b

区画文による3単位の単位文様が並ぶ。





18-a  
雲形文の壺（弘前市十腰内遺跡）。

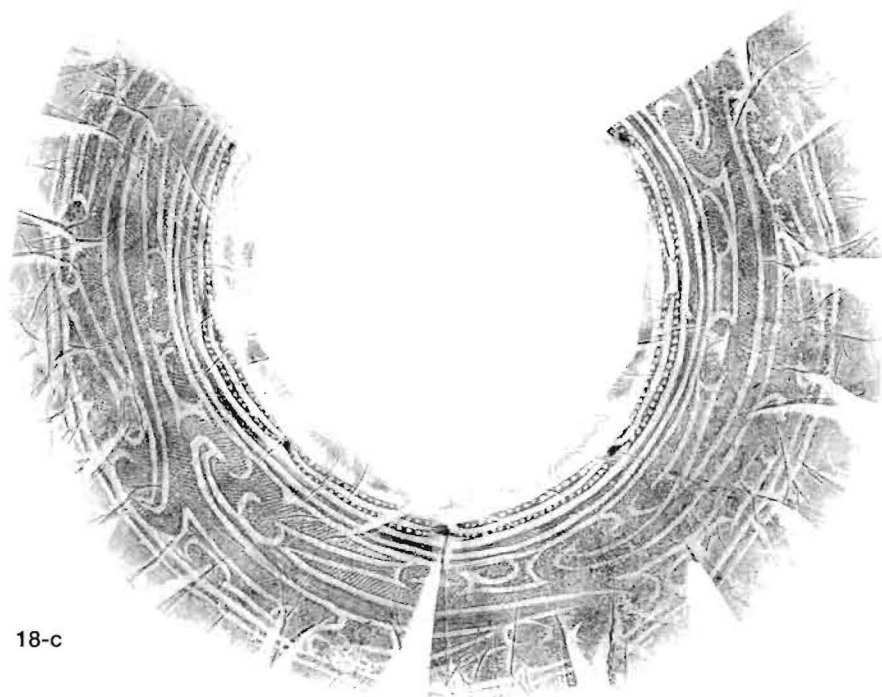


19  
雲形文の徳利形壺（弘前市十腰内遺跡）。



18-b

配置文の横S字文（磨消部）に付加的な部分を加え区画文とする。3単位。



18-c



20-a  
雲形文の短頸壺（弘前市十腰内遺跡）。



21-a  
羊歯状文の注口土器（弘前市十腰内遺跡）。



20-b

C字形の配置文を基調とし、多くの充填文を加え、唐草文的な雲形文を構成。



21-b

羊歯状文を丁寧に施文し、よく研磨している（上半部15単位）。





雲形文の注口土器（弘前市十腰内遺跡）。赤彩がよく残る。口唇部に突起。肩部に小突起がめぐる。C字形を基調とする配置文によって曲線的な連続文様を構成。



（上半部）



（下半部）





※

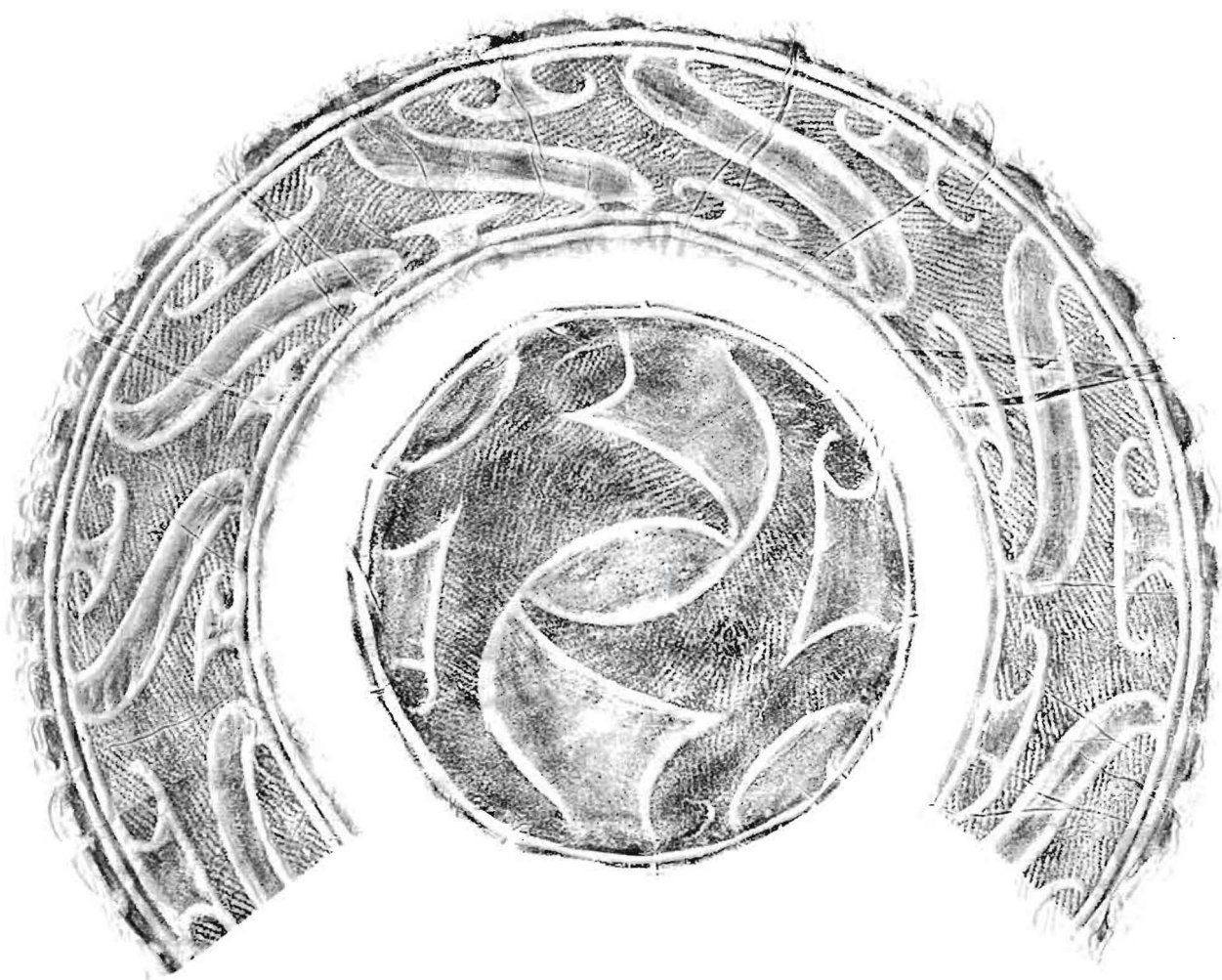
雲形文の浅鉢（北秋田市藤株遺跡）。底部にも小突起・文様がある。  
C字形を基調とする配置文（6単位）によって連続文様を構成。







雲形文の浅鉢（北秋田市藤株遺跡）。底部にも文様がある。  
単純な区画文と充填文で6単位の単位文様を構成する。

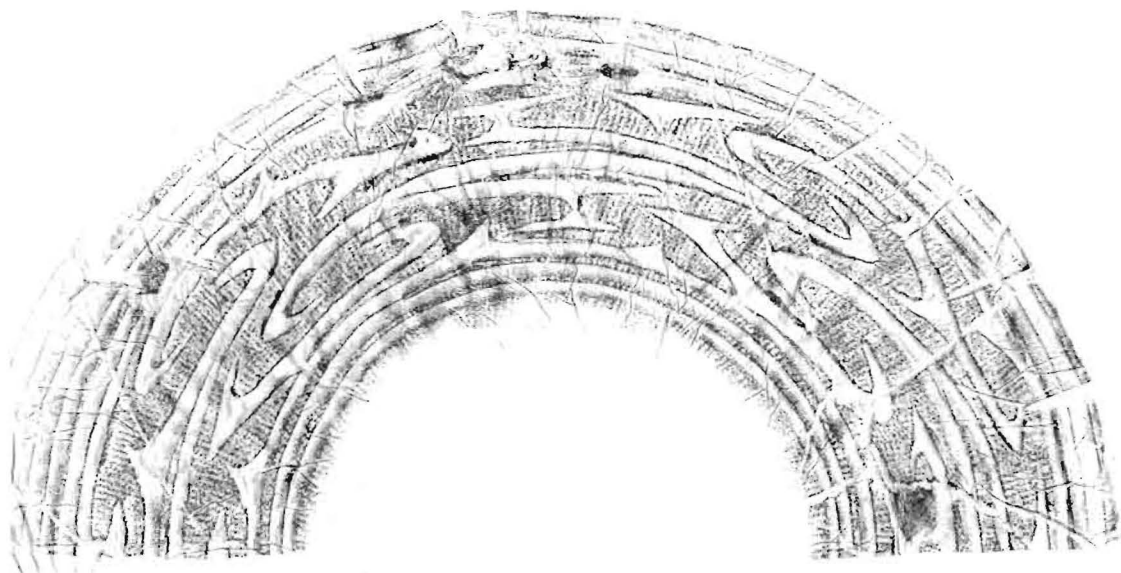




入組文の鉢（函館市女名沢遺跡）。



横S字文を基調とする。5鉢・11壺と共通した文様である。





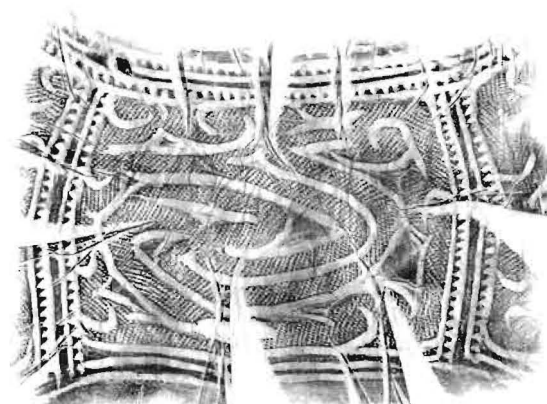
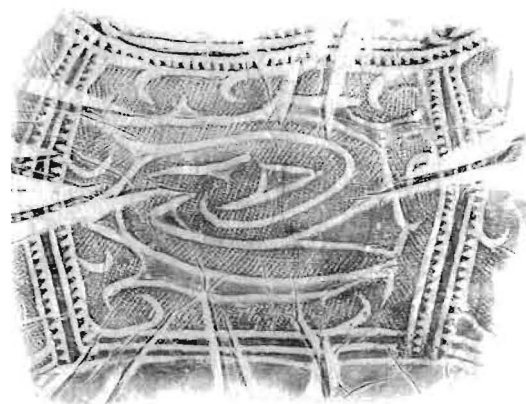
26



雲形文の広口壺（遠野市川向遺跡）。飾られた大振りの土器である。口縁に小突起がめぐる。頸部に渦巻状の文様。胴部は縦線で4つに区画。



区画内の文様はよく類似するが、細部は異なっている。

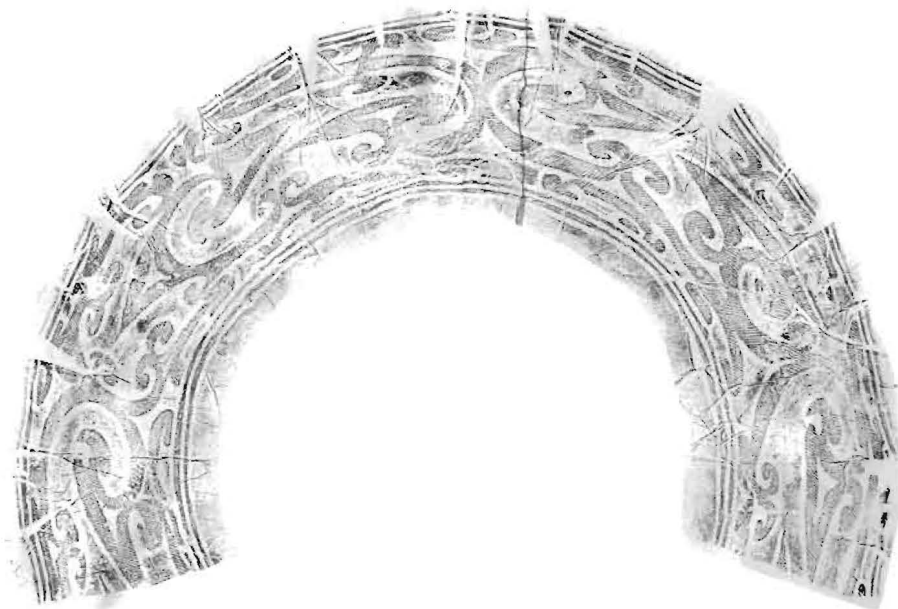




雲形文の赤彩広口壺（青森県宮田遺跡）。飾られた大振りの土器である。  
横S字文（磨消部）を基調とする配置文に充填文を加え、曲線的な連続文様を構成する。



後世の修復のため文様の復元が難しい部分がある。

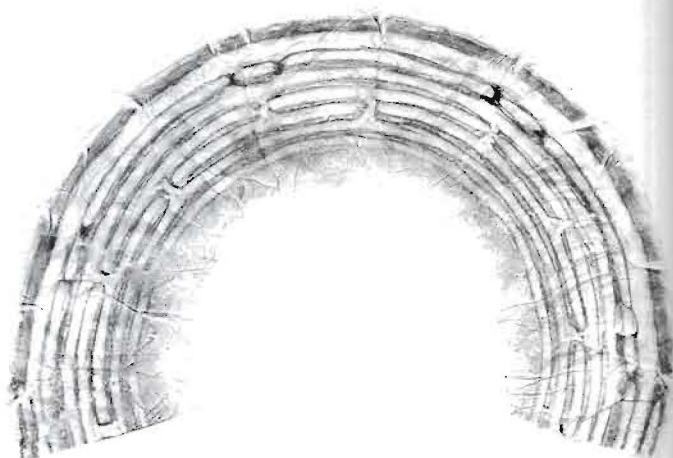




28-a



工字文の台付鉢（つがる市亀ヶ岡遺跡）  
3・4台付鉢と形・文様もよく類似する。



28-b



29



漆入り鉢（つがる市亀ヶ岡遺跡）。漆をクロメたり、濾したりするときに使用した土器。  
内部に濾し布らしきものがあるが、編布かどうか確認できなかった。

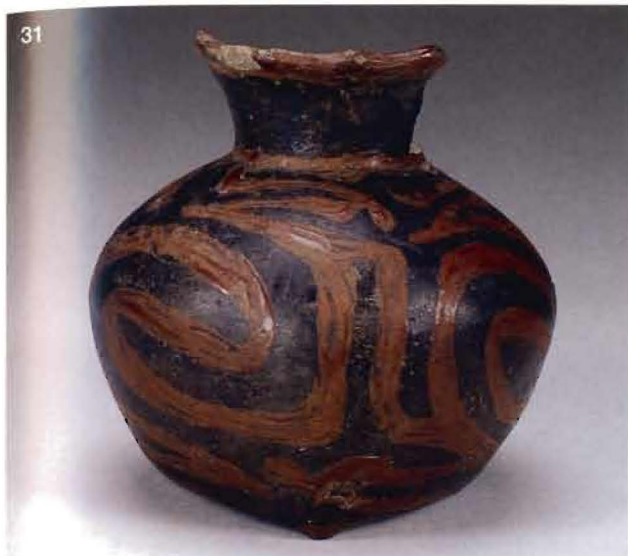
30



無文の赤漆塗細口壺（つがる市亀ヶ岡遺跡）。この種の壺は多数つくられている。

※

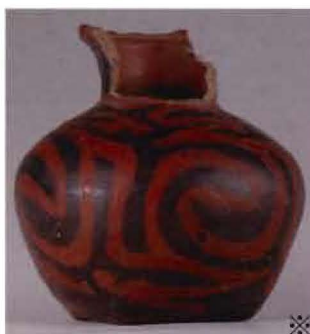




彩文壺（つがる市亀ヶ岡遺跡）。黒地に赤漆で文様を描いた小型の壺。底部まで文様が描かれている。四隅に瘤状の脚が付く。



亀ヶ岡遺跡や山王罎遺跡の皿状藍胎漆器の内側の文様に類似したものがある。







工字文の壺（青森県三戸町青鹿長根遺跡）。端正で美しい工字文でかざられた壺。工字文の構成は単純で、4単位。全体が黒くよく研磨されている。





入組文の壺（つがる市亀ヶ岡遺跡）。横S字文を基調とする。  
Sの両端が入り組んでいる（5・25鉢、11壺は入り組んでいない）。  
縄文がなく、全体がよく研磨され、光沢をもつ。





34



35-a



羊歯状文の徳利形壺（青森県平内町槻ノ木遺跡）。

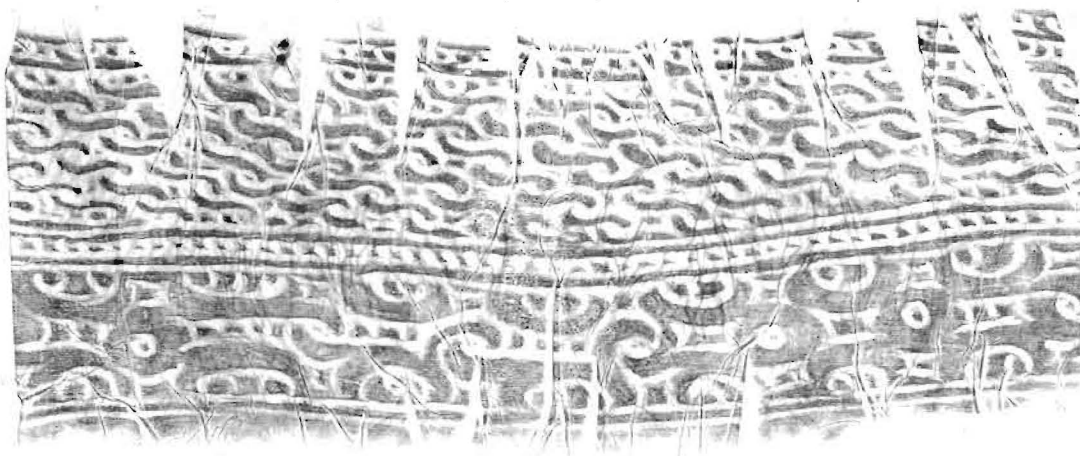
上段に小ぶりの、下段に大ぶりの羊歯状文が展開する。

※  
雲形文の環状注口土器（青森市宮田遺跡）。

35-b



35-c







36-a

雲形文の赤漆塗壺（八戸市是川中居遺跡）。  
漆膜がよく残っている。



37-a

羊歯状文の赤漆塗細口壺（八戸市是川中居遺跡）。  
漆膜がよく残っている。



36-b



37-b





雲形文の壺（八戸市是川中居遺跡）。  
肩と胴部によく似た文様がめぐっている。  
39壺の文様とも類似している。

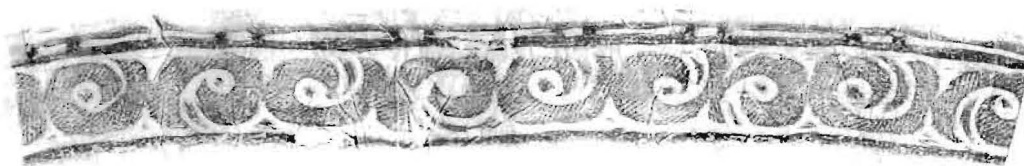


雲形文の広口壺（八戸市是川中居遺跡）



38-b

38-c



▼ 39-b ▼







雲形文の壺（八戸市是川中居遺跡）。  
唐草文的な文様を構成している。磨消部は黒くよく研磨されている。





雲形文の台付鉢（八戸市是川中居遺跡）。



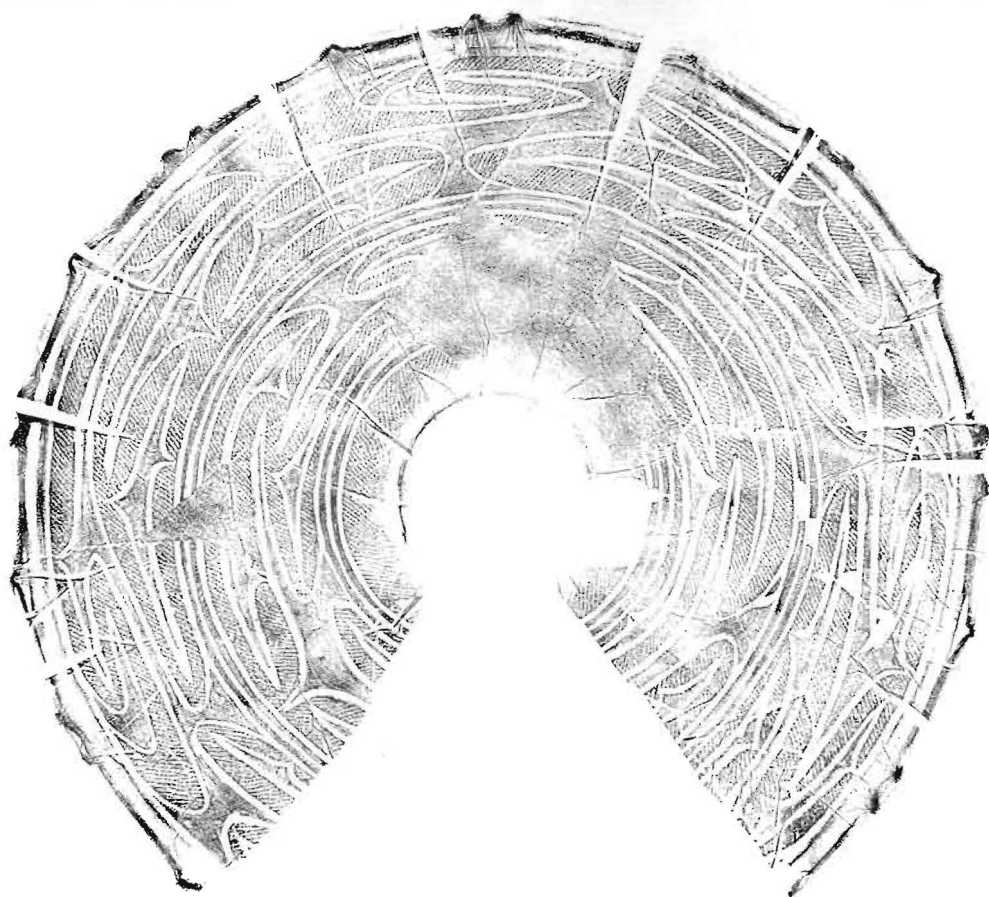
区画文と工字状の充填文で3単位の単純な形の単位文様を構成する。







雲形文の大型浅鉢（八戸市是川中居遺跡）。磨消部は黒く、よく研磨されている。  
加飾され、横に長く伸びた区画文に充填を加えて3単位の単位文様を構成する。底部に文様がある。

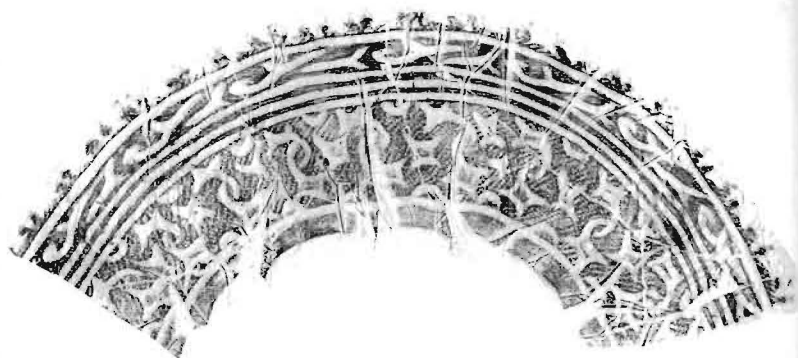


底部の文様





三叉文と雲形文をもつ鉢（八戸市是川中居遺跡）。



台付浅鉢（八戸市是川中居遺跡）。



雲形文の赤彩壺（八戸市是川中居遺跡）。



注口土器（八戸市是川中居遺跡）。



赤漆塗注口土器（八戸市是川中居遺跡）。



注口土器（八戸市是川中居遺跡）。

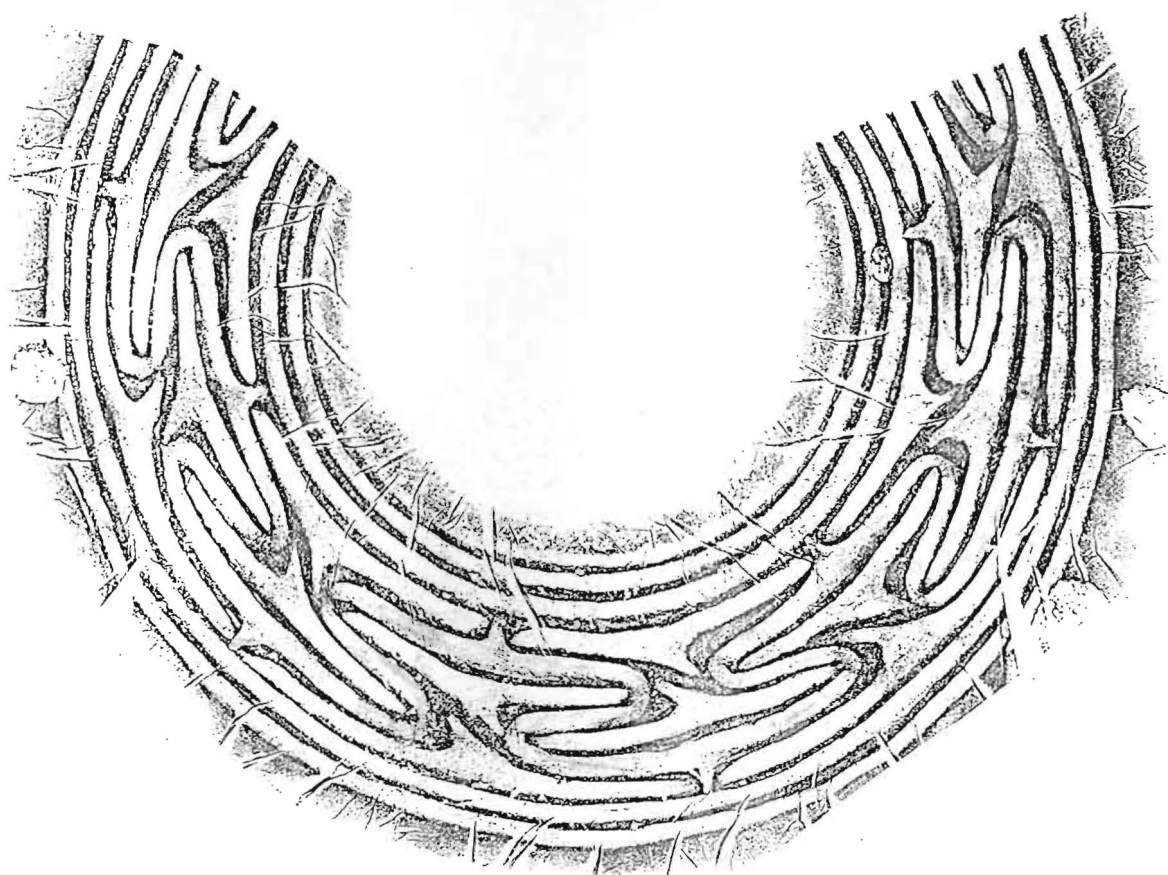


注口土器（八戸市是川中居遺跡）。



工字文の赤彩壺(出土地不明)。丁寧につくられた壺である。

2個一対の三叉文(8個)を斜めに交互に並べて生まれた連続文様部に沈線による工字文を引くことによって表現した。







雲形文の大型壺（十和田市明戸遺跡）。  
亀ヶ岡式土器には古くから大型壺が存在するが、完形品や復元完形品は意外と少ない。  
加飾された横S字（磨消部）の配置文（3単位）と大小の充填文を加えて連続文様を構成する。







雲形文の大型壺（三沢市野口貝塚）。  
区画文と充填文によって4単位の複雑  
に見える単位文様を形成する。  
縄文なし。全体によく研磨されている。





53



雲形文の德利形壺（三沢市野口貝塚）。  
C字文を基調とする配置文と充填文に  
よって曲線的な連続文様を形成する。  
縄文なし。全体によく研磨されている。



54-a



55-a



雲形文の注口土器（三沢市野口貝塚）。 大きな頸をもつ赤彩壺（三沢市野口貝塚）。



54-b



55-b

縄文なし。全体によく研磨されている。肩部に4単位の浮彫文がならぶ。





雲形文の赤彩台付浅鉢（三沢市野口貝塚）。縄文なし。全体によく研磨されている。



やや形の異なった配置文や大小の充填文によって曲線的な連続文様を構成する。

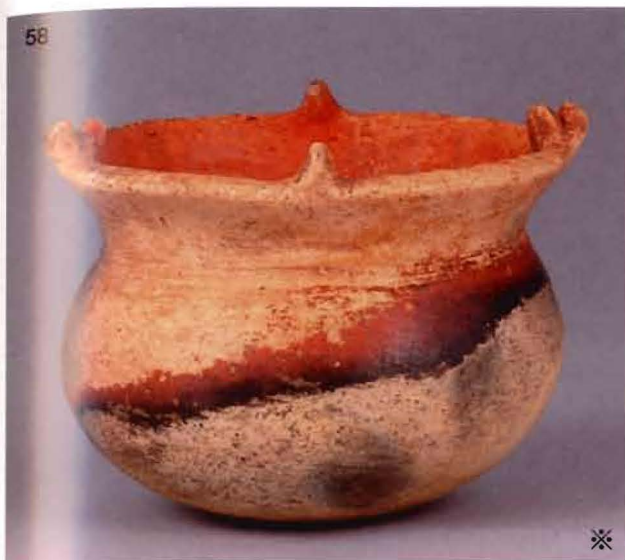




雲形文の赤彩台付浅鉢（三沢市野口貝塚）。縄文なし。全体によく研磨されている。横S字文（磨消部）に付加的な部分を加えた配置文と充填文によって曲線的な連続文様を形成する。この配置文は18壺の区画文とほぼ同じ形である。







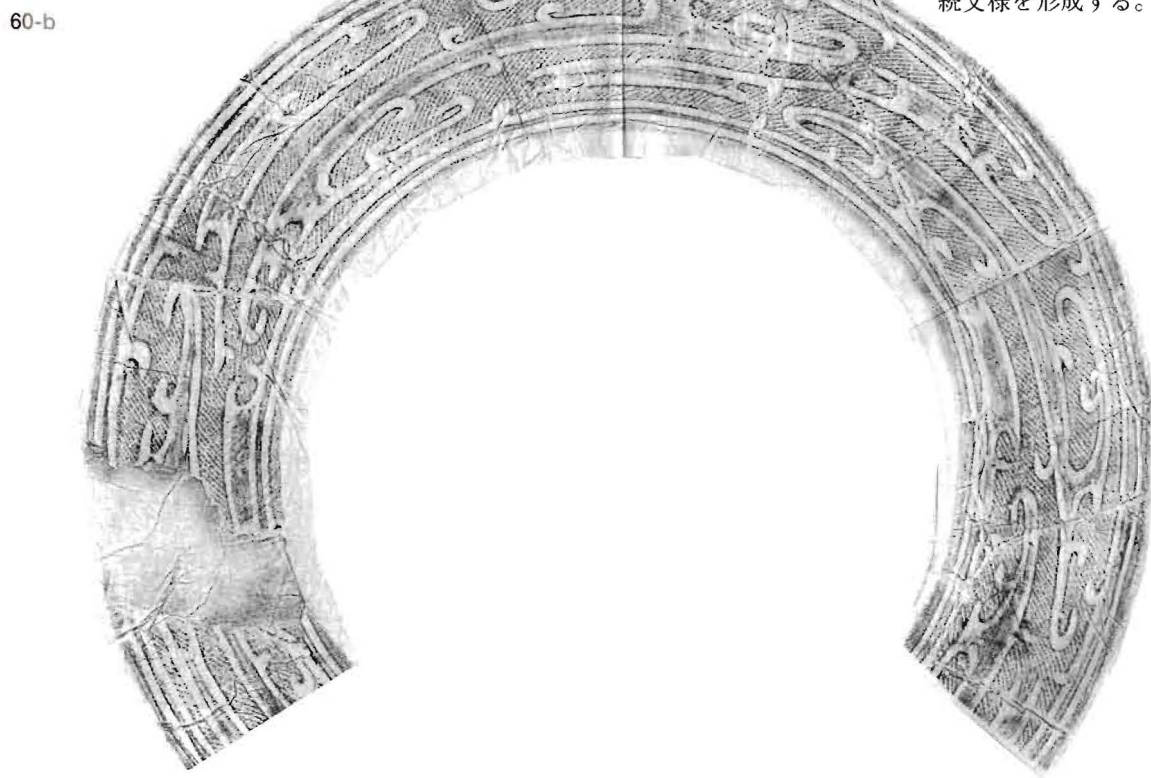
無文の赤彩広口壺（三沢市野口貝塚）。



雲形文の台付鉢（三沢市野口貝塚）。



雲形文の皿（三沢市野口貝塚）。  
横S字形を基調とする3個の配置文によって横に長く伸びた連続文様を形成する。





雲形文の浅鉢（五所川原市観音林遺跡）

横S字形を重ねたような2個の配置文と充填文によって曲線的な美しい連続文様を作りあげている。  
2個の配置文はほぼ同形・同大である。

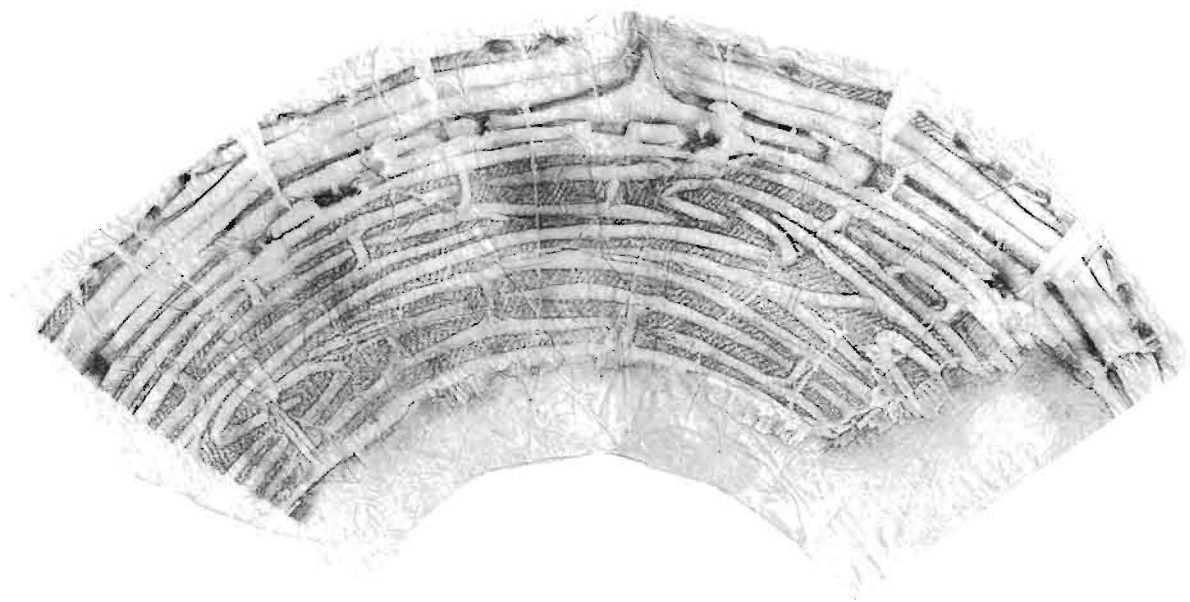




62

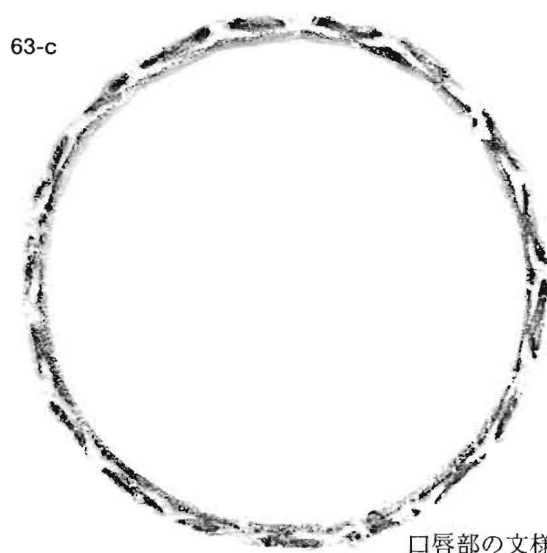


入組文の鉢（五所川原市観音林遺跡）  
横S字文の両端が入り組んでいる。33壺を参照。





雲形文の皿（五所川原市観音林遺跡）  
口唇部にも彫刻的な文様がある。  
C字形の配置文と充填文で連続文様を構成。



小型浅鉢（五所川原市観音林遺跡）



工字文の小型浅鉢（五所川原市観音林遺跡）



無文の片口鉢（五所川原市観音林遺跡）



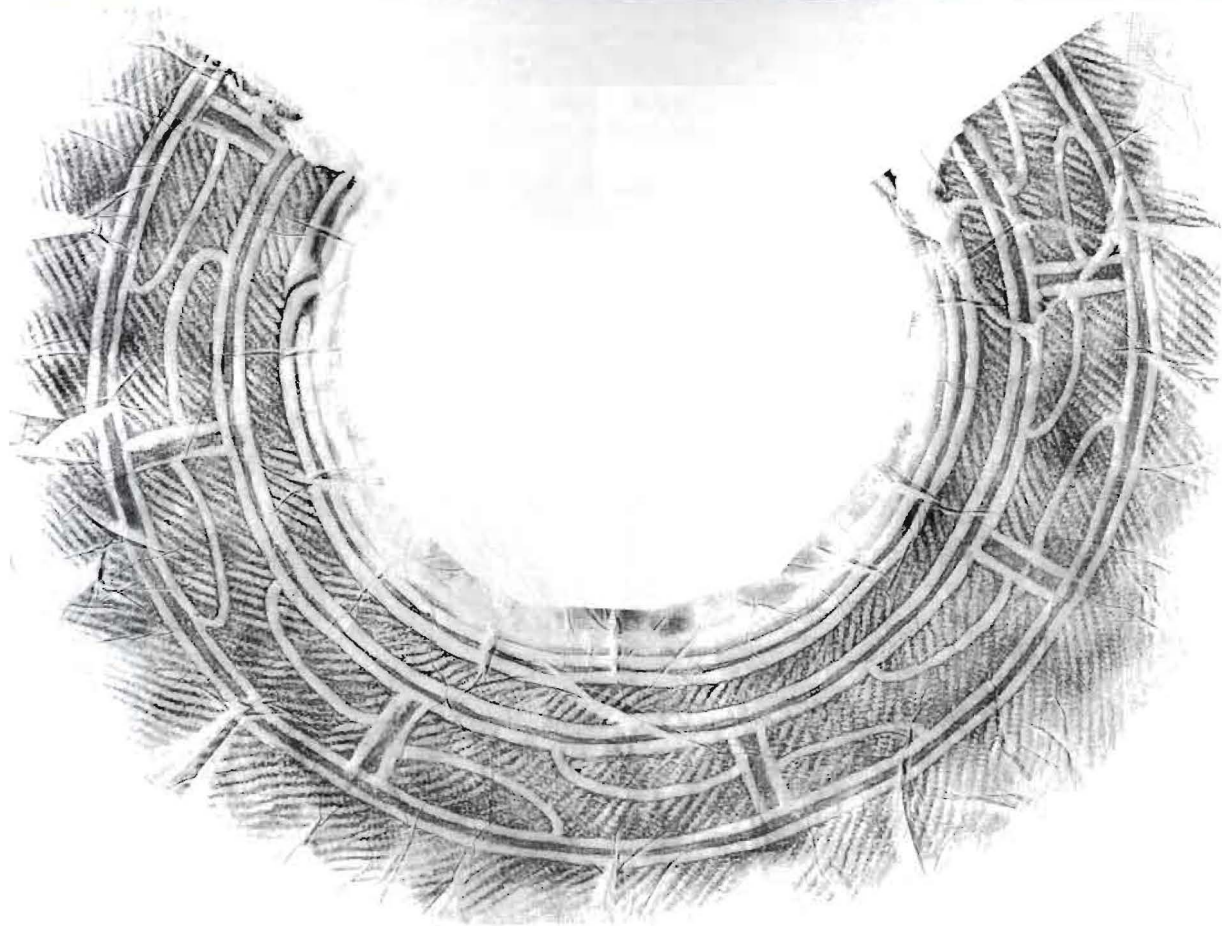
超小型土器・土製スプーン（五所川原市観音林遺跡）



68



雲形文の壺（弘前市薬師遺跡）  
文様帯を縦線で6つに区切り、それぞれに弧線を描いたもの。



69-a



弧線連結文の大型台付鉢（弘前市薬師遺跡）



69-b

口縁に小型突起（21個）、頸部下に瘤状突起がめぐる。弧線連結文は9単位。上下の文様にはそれぞれ9単位の弧線連結文がめぐる。

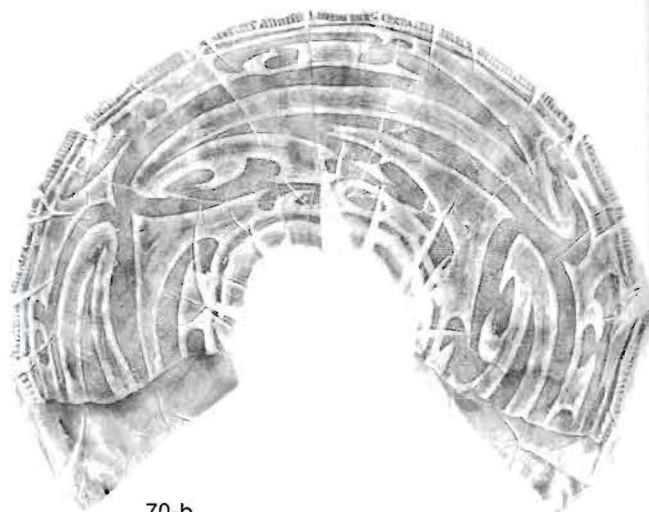


69-c



70-a

雲形文の浅鉢（弘前市薬師遺跡）  
加飾された配置文と充填文によって曲線的な連続文様を形成する。



70-b





雲形文の広口壺（弘前市薬師遺跡）※



注口土器（弘前市薬師遺跡）※



雲形文の皿（弘前市薬師遺跡）  
やや変化のある区画文で構成された唐草文的な文様。

73-b



雲形文の浅鉢（弘前市薬師遺跡）  
区画文と充填文によって形成された4単位の単位文様（それぞれ形が違う）。

74-b

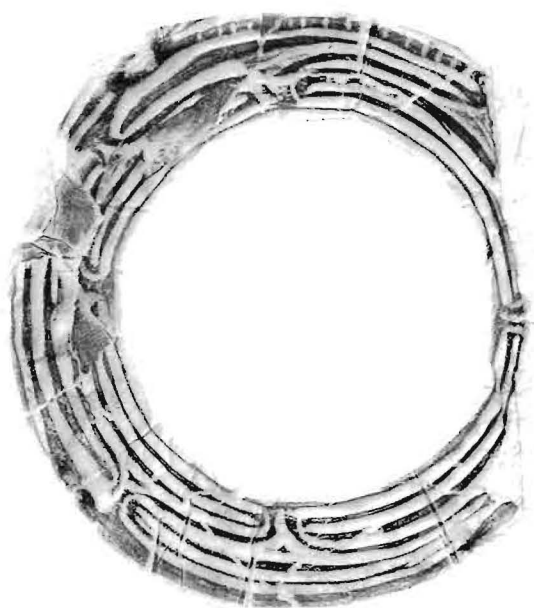


74-c

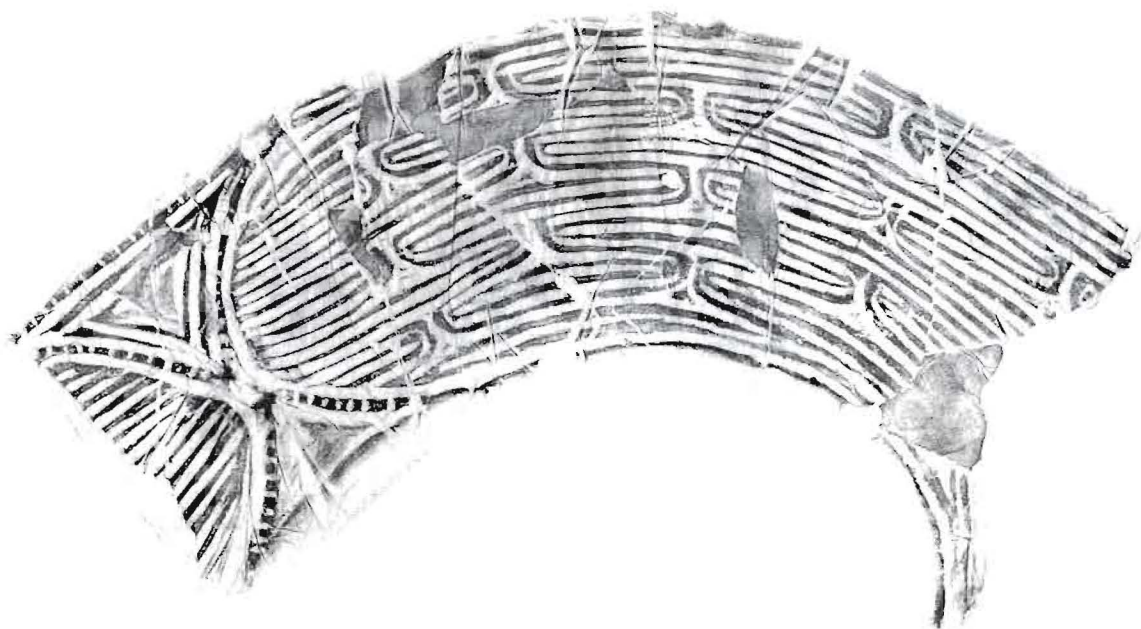


口唇部の文様

75



工字文の短頸壺（弘前市葉師遺跡）。頸部に2個一対の小孔が4カ所にある。  
 肩部と胴部に工字文が描かれる。胴部の一カ所に隆帯による大きなX状文が付く。  
 頸部に小孔をもつ工字文の短頸壺は十腰内遺跡に類例がある。山王罎遺跡（135壺）は形態や雰囲気相似的。







無文の赤彩壺（弘前市薬師遺跡）



工字文の注口土器（弘前市薬師遺跡）。底部にも文様がある。



体部下半の工字文



体部下半の工字文と底部の文様



肩部の文様



三叉文的な文様の台付鉢（弘前市薬師遺跡）※



変形工字文の鉢（弘前市湯ノ沢遺跡）※



78-b



変形工字文の砂沢式（弥生土器）の浅鉢（弘前市湯ノ沢遺跡）。研磨され光沢がある。



変形工字文の砂沢式（弥生土器）の浅鉢（弘前市湯ノ沢遺跡）。研磨され光沢がある。突起に熊の頭部を表現。

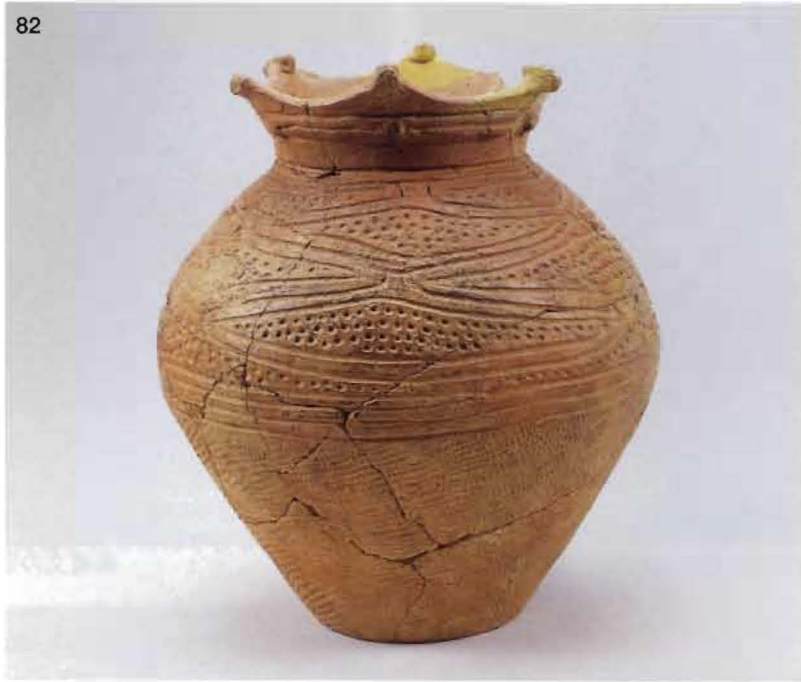
80-b



81-b







変形工字文の砂沢式（弥生土器）の壺（青森県鯉ヶ沢町大曲Ⅲ号遺跡）





83



雲形文の德利形壺 (青森県外ヶ浜町宇鉄遺跡)。縄文なし。光沢あり。

84

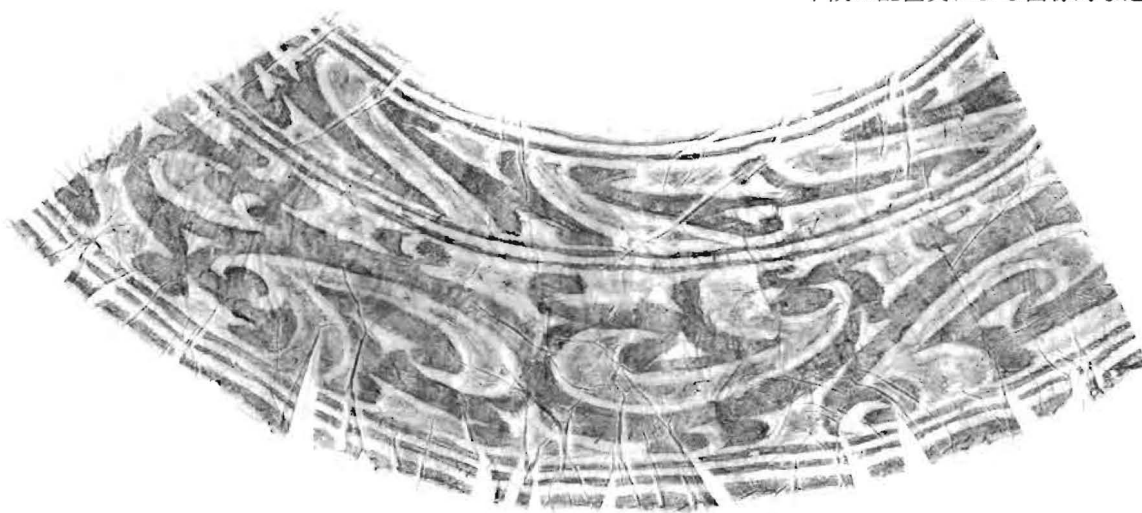


※  
縦縄文の壺 (外ヶ浜町宇鉄遺跡)



83-b

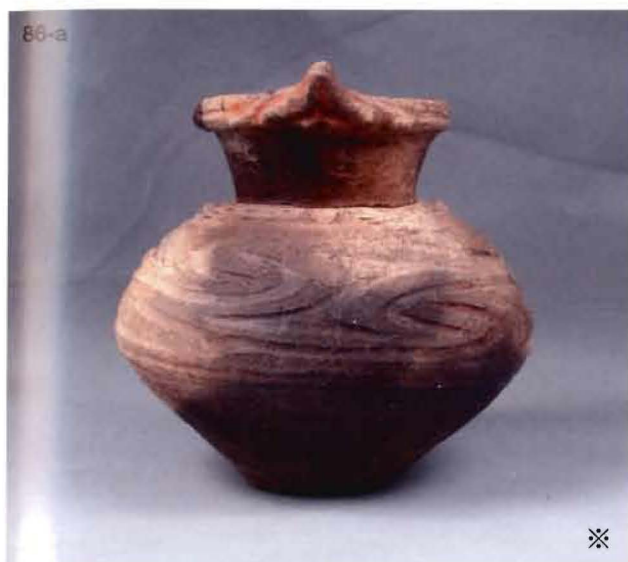
上段は区画文による3単位の単位文様。  
下段は配置文による曲線的な連続文様。







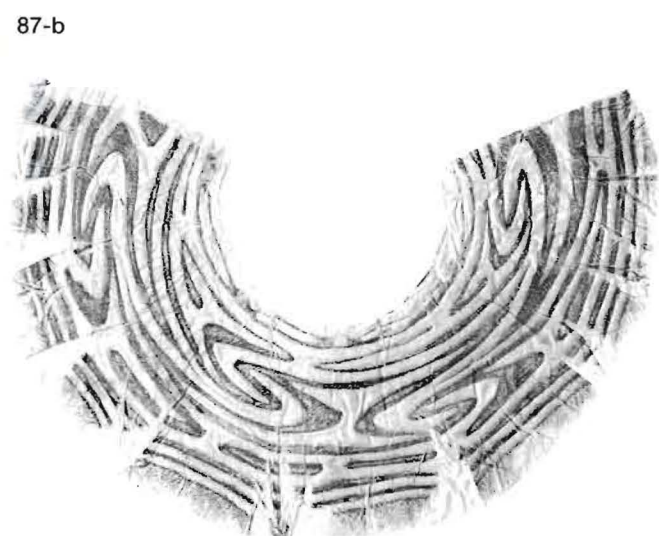
入組文の浅鉢（青森県外ヶ浜町宇鉄遺跡）  
C字文の両端が入り組んでいる。



入組文の壺（外ヶ浜町宇鉄遺跡）  
横S字文の両端が入り組んでいる。33壺・62鉢・87壺を参照。



入組文の壺（外ヶ浜町宇鉄遺跡）  
横S字文の両端が入り組んでいる。

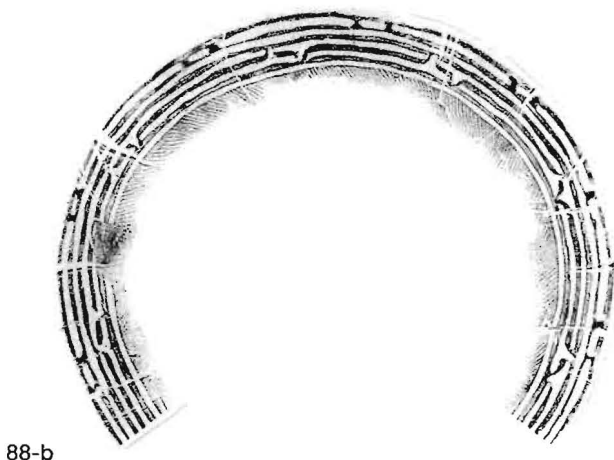




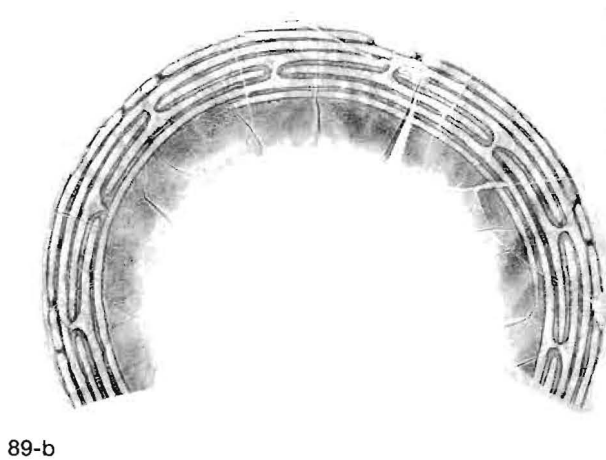
工字文の台付鉢（青森県外ヶ浜町宇鉄遺跡）  
描く手順は32壺の工字文に類似する。



工字文の赤彩台付鉢（外ヶ浜町宇鉄遺跡）



88-b



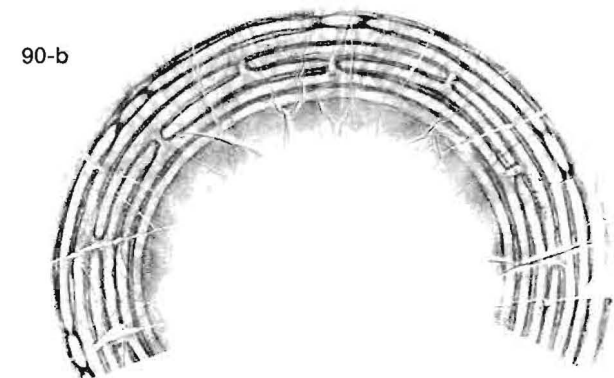
89-b



工字文の赤彩台付鉢（外ヶ浜町宇鉄遺跡）



変形工字文の鉢（外ヶ浜町宇鉄遺跡）



90-b



91-b





92-a  
雲形文の浅鉢（青森県外ヶ浜町宇鉄遺跡）  
加飾された配置文的文様と充填文によって複雑そうな文  
様が形成される。



93-a  
渦状文の鉢（外ヶ浜町宇鉄遺跡）  
C状の弧線による渦状文。間に工字形の沈刻がある。



94-a  
雲形文の注口土器（外ヶ浜町宇鉄遺跡）曲線的な連続文様。



上半部の文様



底部の文様



入組文の壺（むつ市二枚橋(2)遺跡）  
横S字文(2単位)の両端が入り組んでいる。





96



綾杉文の壺（むつ市二枚橋(2)遺跡）





97-a



工字文の壺（むつ市二枚橋(2)遺跡）  
互いに入れ違いになった工字文が展開する。文様帯に縄文はない。

98-a



工字文の鉢（むつ市二枚橋(2)遺跡）  
文様帯に縄文を施文。6鉢に類似する。



97-b



98-b



99-a



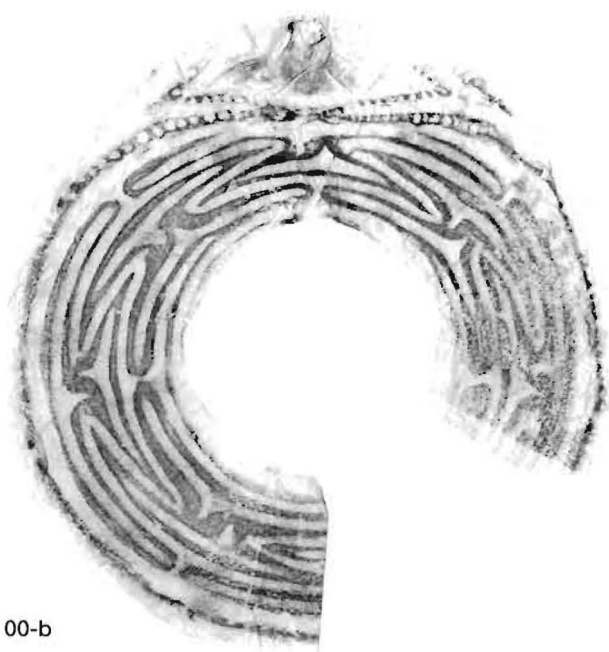
工字文の台付鉢（むつ市二枚橋(2)遺跡）



99-b



工字文の注口土器（むつ市二枚橋(2)遺跡）



100-b



101-b

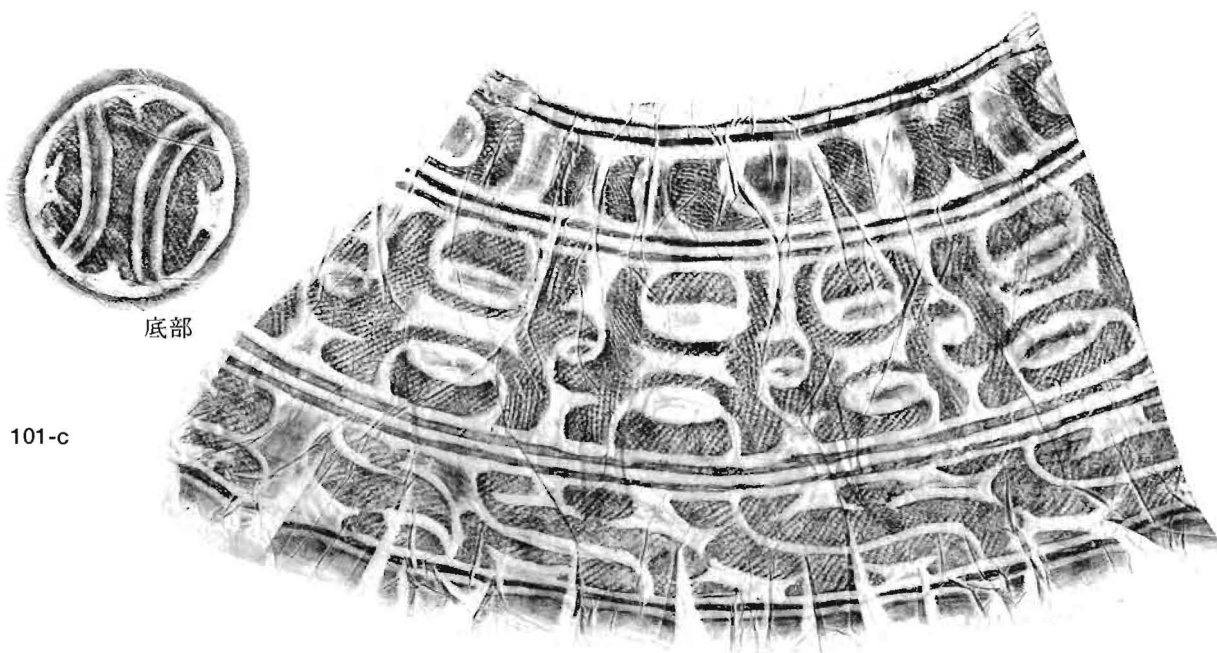


底部



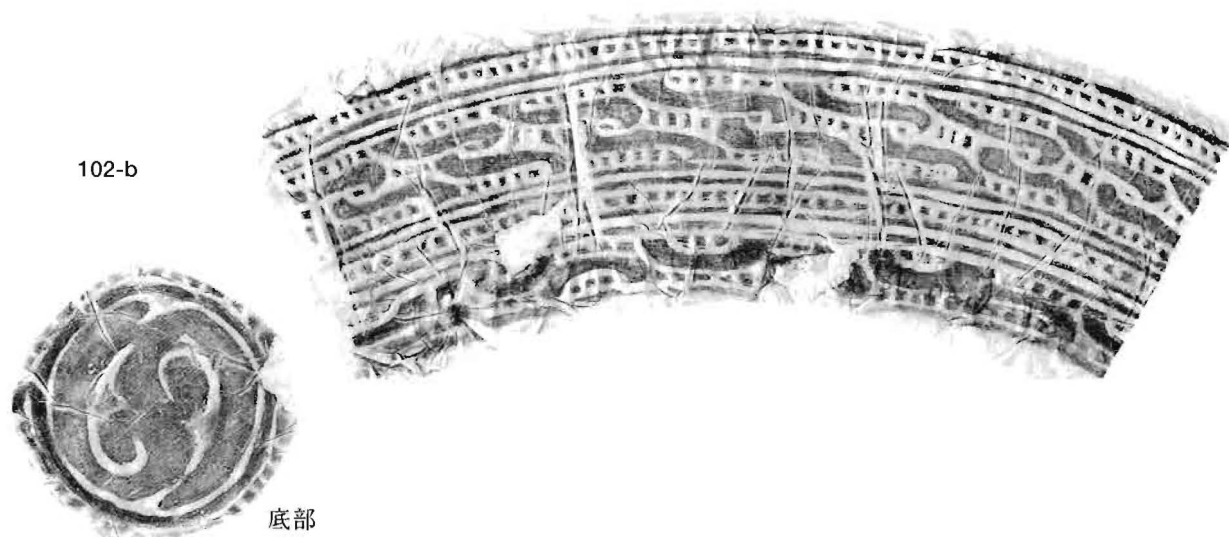
雲形文の徳利形壺（青森県三戸町泉山遺跡）。  
上中下の文様帯は異なった区画文で単位文様を形成する。単位文様の形は同じ文様帯でも異なっている。底部にも文様がある。

羊歯状文の広口壺（三戸町泉山遺跡）。  
底部にも文様がある。巾着形壺に近い形であるが口縁に突起がない。



底部

101-c



底部

102-b

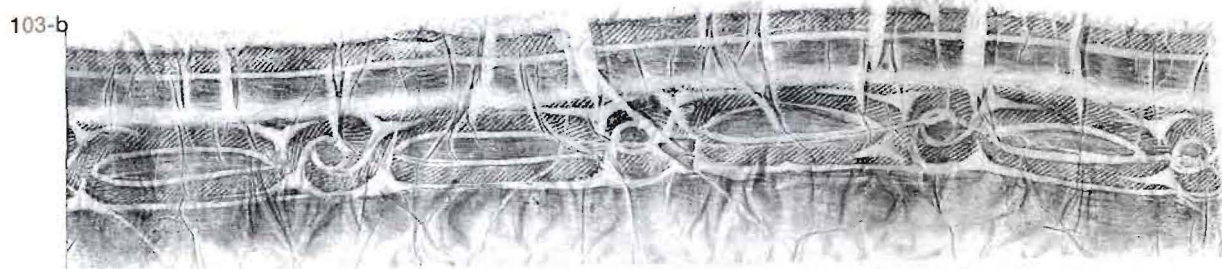




三叉文の広口壺（青森県三戸町泉山遺跡）



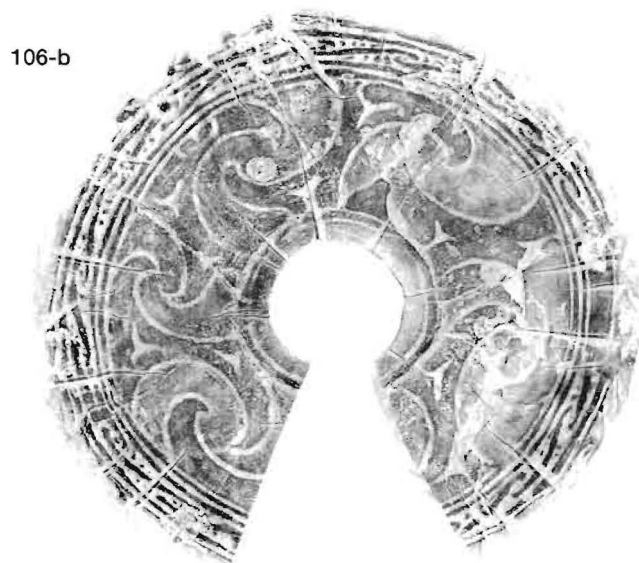
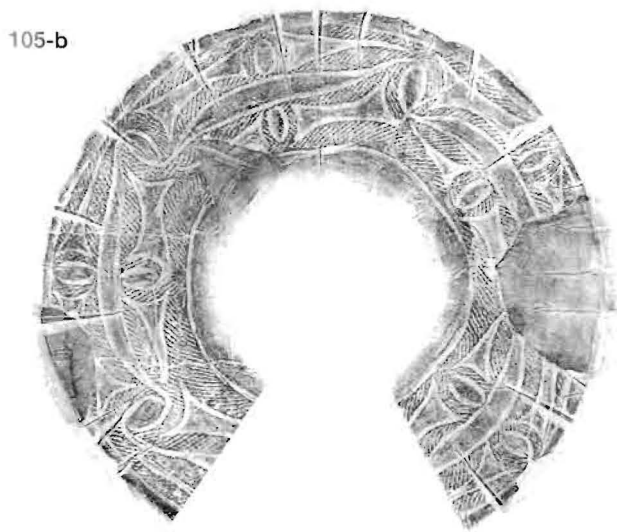
半円文と三叉文の鉢（三戸町泉山遺跡）



台付浅鉢（三戸町泉山遺跡）  
弧線を入り組ませた文様に三角形・四角形・楕円形の充  
填的文様を加えて帯縄文を形成する。



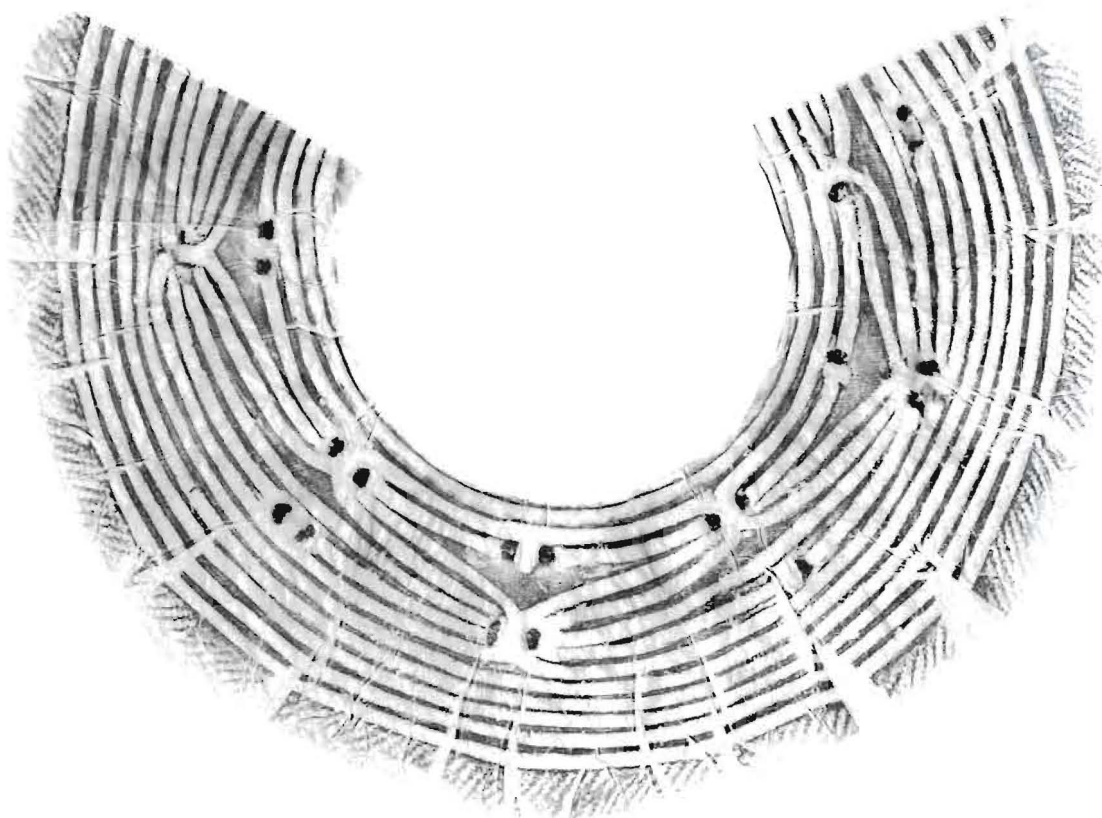
羊歯状文の浅鉢（三戸町泉山遺跡）  
胴部文様帯は区画文によってK字状の単位文様を形成する。



107



変形工字文の砂沢式（弥生土器）の壺（弘前市宇田野遺跡）







田舎館式（弥生土器）の壺（青森県田舎館村垂柳遺跡）



壺に蓋をかぶせた状態。



胴部上半に隆帯による三角文が9個めぐる。三カ所のやや大きな三角形に垂線を入れる。





雲形文の浅鉢（岩手県岩手町豊岡遺跡）

加飾されたC字形の2単位の配置文と充填文によって形成された美しい曲線的な連続文様である。全体に黒みが強い。磨消部はよく研磨され光沢をもつ。底部にも文様がある。



（底部の写真）





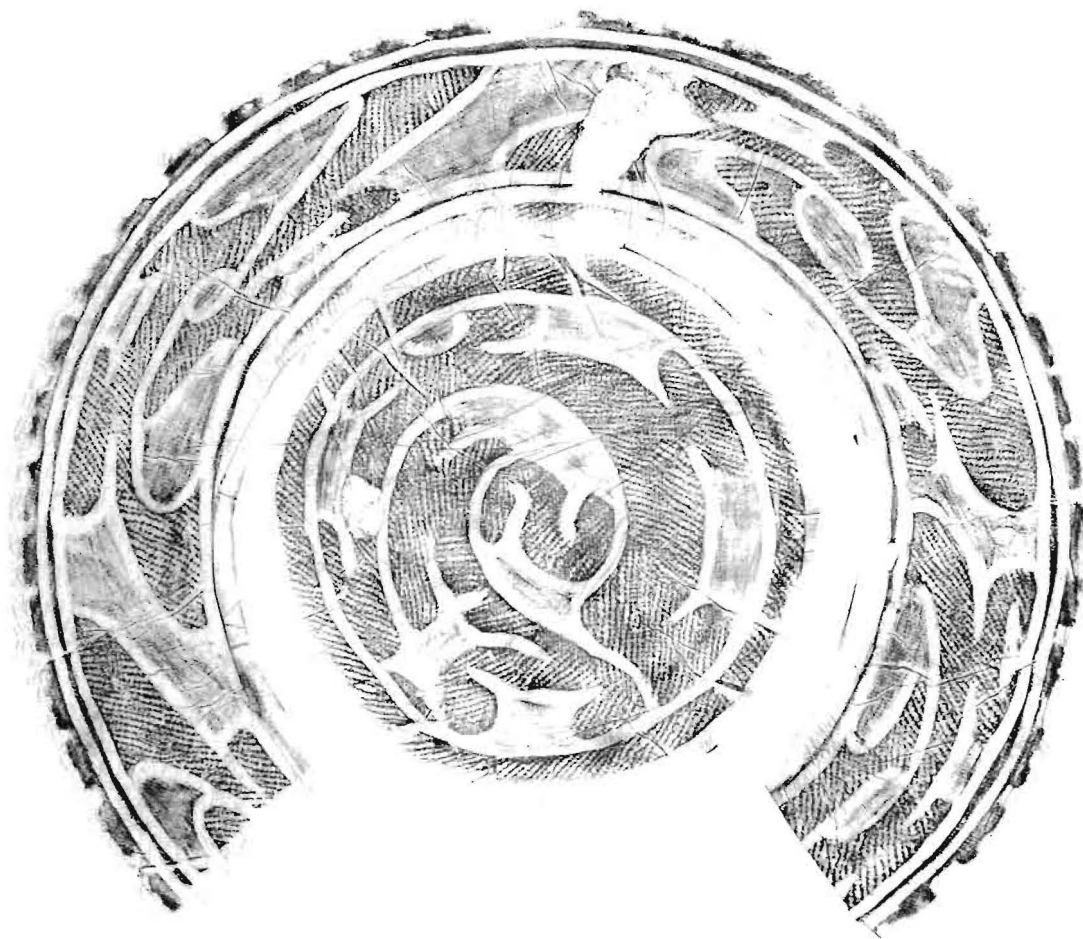




雲形文の浅鉢（岩手県岩手町豊岡遺跡）。磨消部や内面はよく研磨され光沢をもつ。



2種類の区画文と単純な充填文によって単位文様を形成する。  
底部にも文様がある。







雲形文の鉢（岩手県岩手町豊岡遺跡）。磨消部や内面はよく研磨され光沢をもつ。



加飾された横S字形を基調とする区画文と充填文によって複雑な形の単位文様を表現する。

土器の色違いは、埋蔵状態の異なる破片が接合したため。黄色い破片は焼土層に含まれていた。127鉢も同じである。

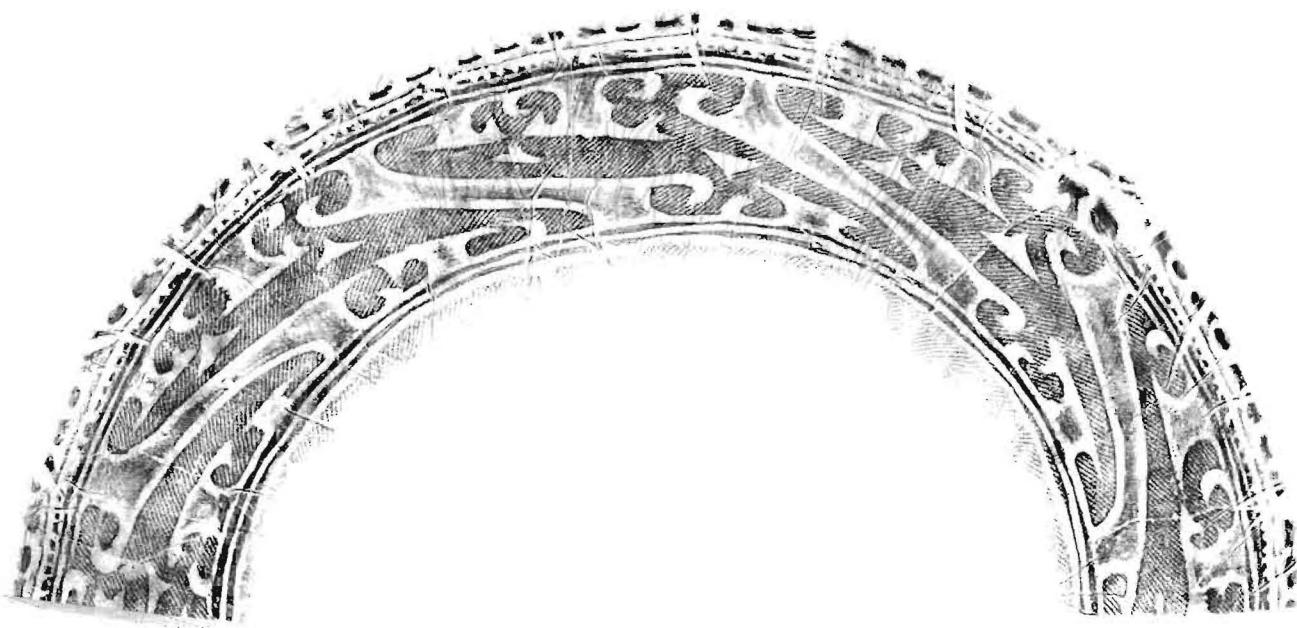




113



雲形文の台付鉢（岩手県岩手町豊岡遺跡）  
区画文と充填文でK字形の単位文様を形成する。





114-a



三又文の台付鉢（岩手県岩手町豊岡遺跡）

115-a



雲形文の深鉢（岩手町豊岡遺跡）



114-b



115-b

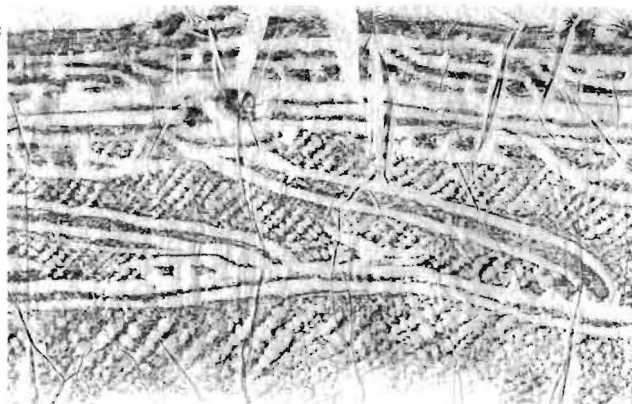
頸部に羊歯状文、体部に単純な区画文と充填文によって単純な単位文様を形成する。

114-c



頸部の文様

115-c







雲形文の台付鉢（岩手県岩手町豊岡遺跡）

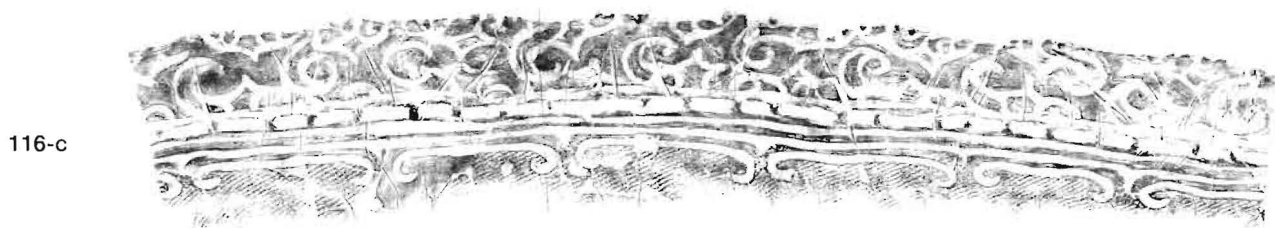


雲形文の太い頸の壺（岩手県岩手町豊岡遺跡）



116-b

頸部に配置文によって連続文様を形成する。肩にも横C字形の沈線文が施文。



117-b

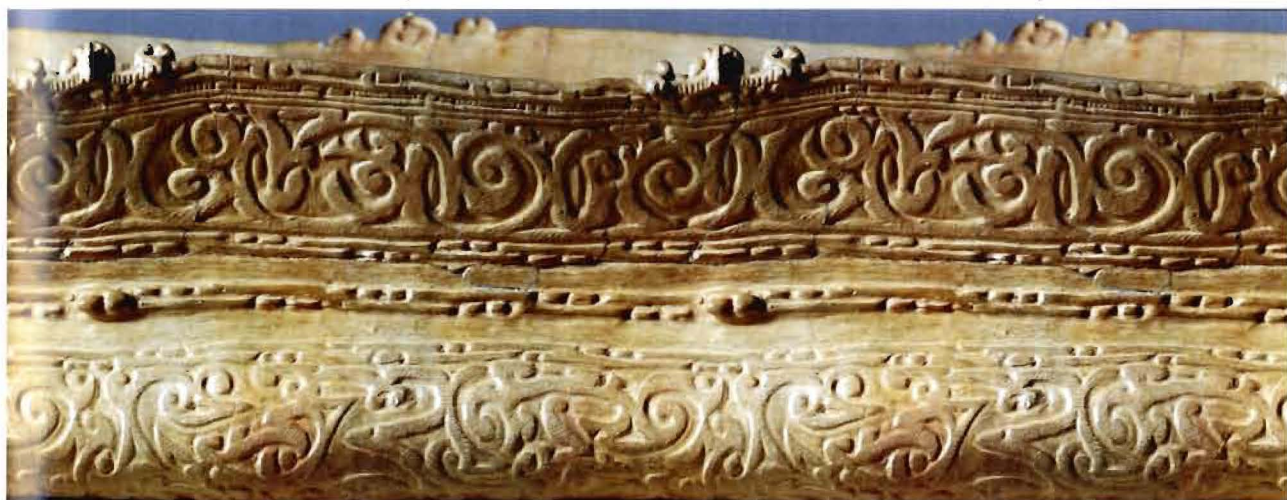
変わった形の配置文と充填文によって連続文様を形成。胴部下端に小突起がめぐる。





雲形文の巾着形壺（岩手県岩手町豊岡遺跡）

極めて装飾的な突起や文様をもつ土器である。底部にも文様がある（110浅鉢底部の文様に類似）。



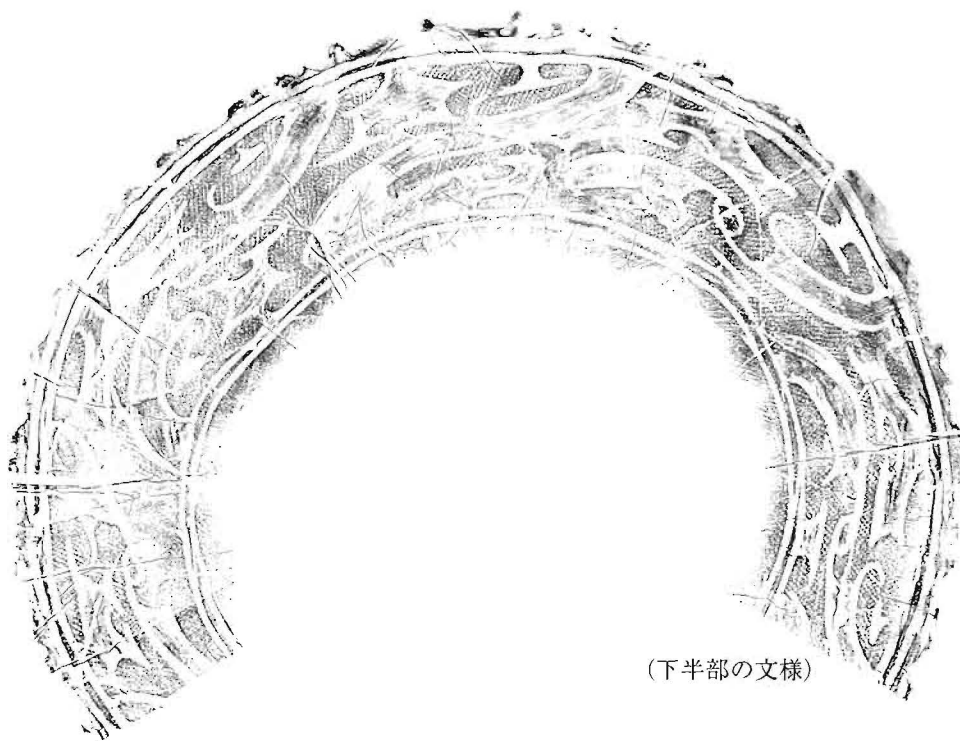




雲形文の注口土器（岩手県岩手町豊岡遺跡）  
 上半は単純な配置文で鉢巻状の連続文様を形成する。



注口土器の下半部に沈線に挟まれた文様帯が設定されるのは数少ない。ここに区画文によって5個の単位文様を形成している。

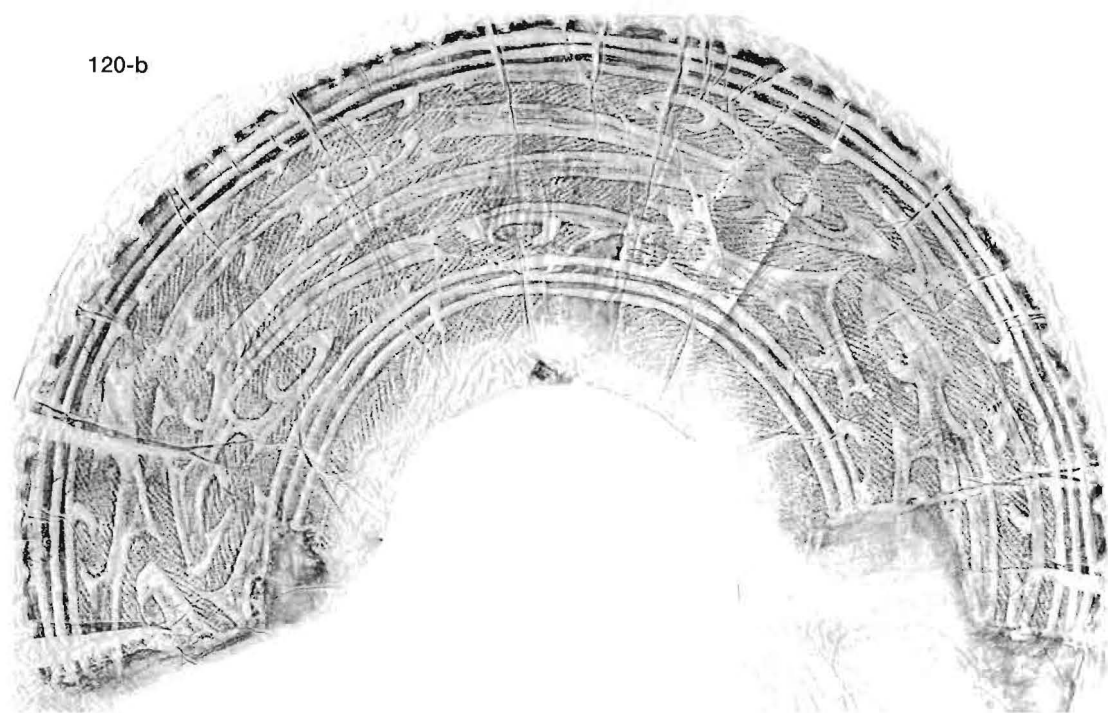


（下半部の文様）





雲形文の大型台付浅鉢（岩手県岩手町豊岡遺跡）  
加飾され、変化に富んだS字形を基調とする配置文と充填文によって曲線的な連続文様を形成している。



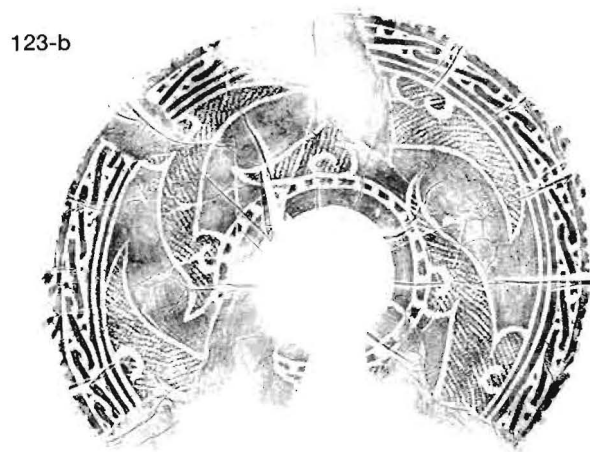
羊歯状文の広口壺（岩手町豊岡遺跡）



弧線文の壺（岩手町豊岡遺跡）



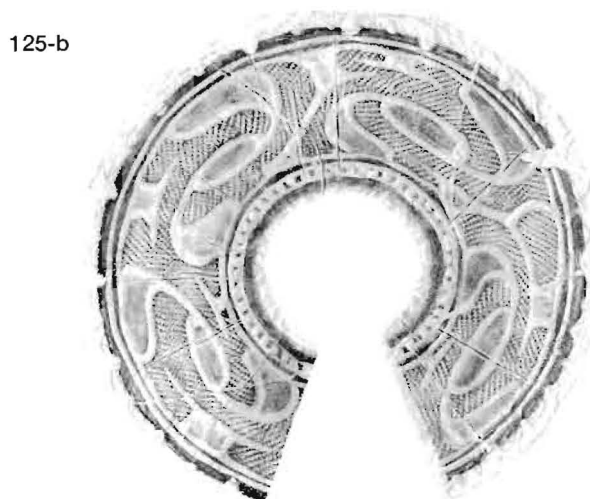
雲形文の皿（岩手県岩手町豊岡遺跡）  
口縁に羊歯状文、体部に区画文によって形成された単位  
文様がめぐる。



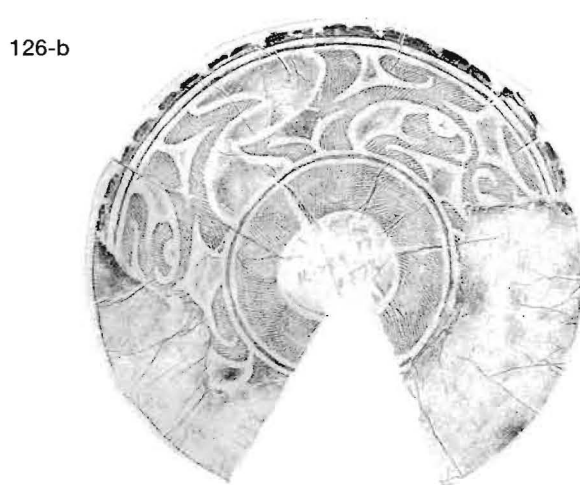
雲形文の皿（岩手町豊岡遺跡）  
区画文と充填文によって単位文様を形成する。



雲形文の皿（岩手町豊岡遺跡）  
区画文と充填文によってK字状の単位文様を形成する。



雲形文の皿（岩手町豊岡遺跡）  
区画文と変化のある充填文によって複雑な単位文様を形  
成する。







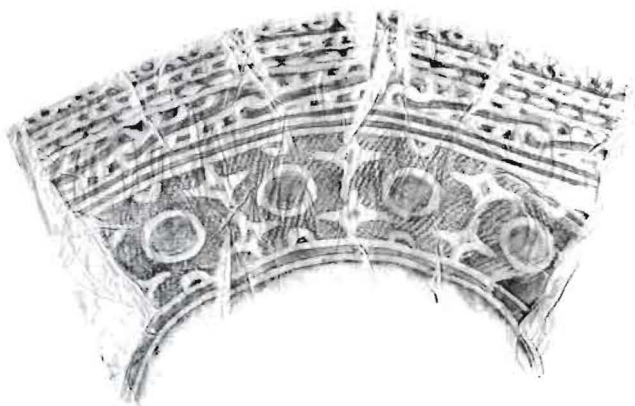
127-b



一種の雲形文の鉢（岩手県岩手町豊岡遺跡）縦線で6個に区画された内部に簡単な弧線文を描く。



128-b



一種の雲形文の台付鉢（岩手町豊岡遺跡）肩に羊歯状文、胴部に円文が並ぶ。



129-b



雲形文の赤彩壺（岩手町豊岡遺跡）



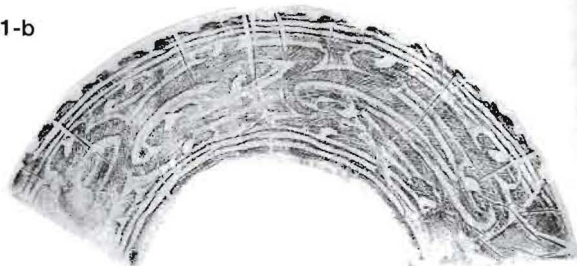
130-a  
雲形文の皿（岩手県岩手町豊岡遺跡）  
S字形の配置文による単純な形の連続文様。

130-b



131-a  
雲形文の皿（岩手町豊岡遺跡）  
配置文と充填文によって曲線的な連続文様を形成する。

131-b



132-a  
雲形文の浅鉢（岩手町豊岡遺跡）  
区画文と配置文の文様・充填文などによって複雑な単位文様を形成する。

132-b



133  
無文の壺（岩手町豊岡遺跡）



134  
縄文の壺（岩手町豊岡遺跡）



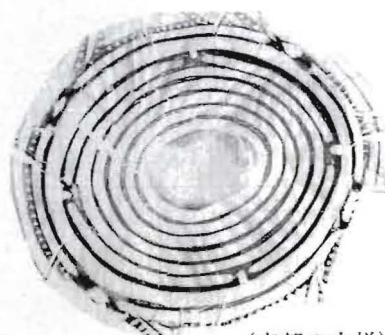


同心円文の短頸壺（栗原市山王圀遺跡）

頸部に2個一対の小孔があるが、破損のため数は不明である。  
同心円文の中央に工字文がある。文様帯の二ヵ所に同心円をつなぐ  
斜めの隆帯がある。  
形態や雰囲気、頸部に小孔をもつなどの特徴は薬師遺跡の短頸壺75  
によく似る。



※  
底部にも同心円文



（底部の文様）







隆帯文の壺（栗原市山王罎遺跡）

北上川流域に比較的多い文様である。高知県居徳遺跡で類似の文様の土器が発見され注目された。





137-a



工字文の魚籠形壺（栗原市山王岡遺跡）。

138-a



一種の雲形文の壺（栗原市山王岡遺跡）



137-b

不規則な工字文が展開する。四角形の底部の四隅に瘤状の脚。



138-b

平行線の上に楕円文を並べて雲形文を形成。



139-a



139-c



入組文の鉢（栗原市山王圀遺跡） 文様帯に縄文あり。

▼ 139-b



140-a



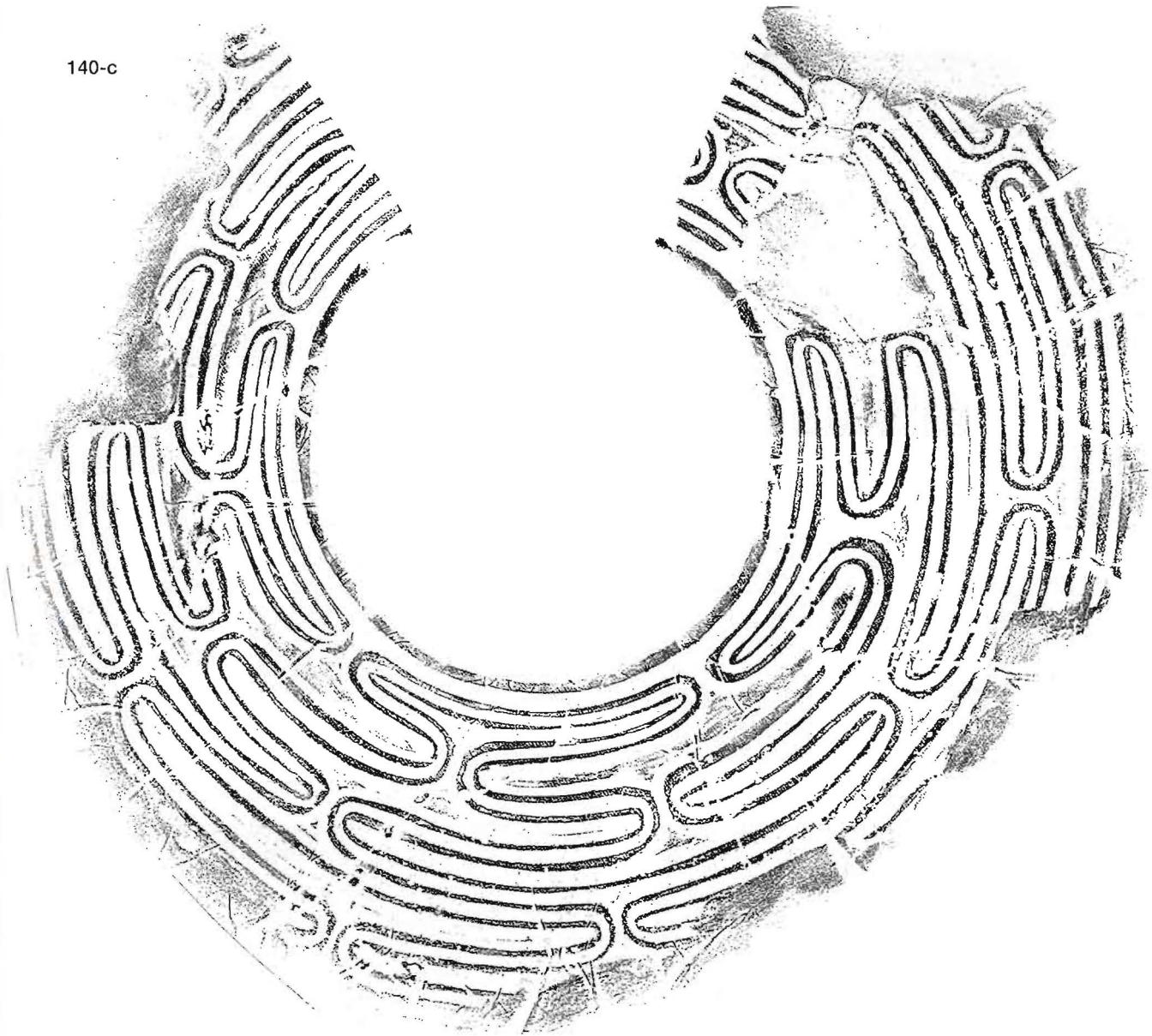
流水工字文の壺（栗原市山王圀遺跡）  
口縁部の文様も装飾的である。肩部に大ぶりの流水工字文を表現。



140-b



140-c



141-a



雲形文の浅鉢（栗原市山王囲遺跡）  
9個の区画文を配しただけの文様である。

141-b

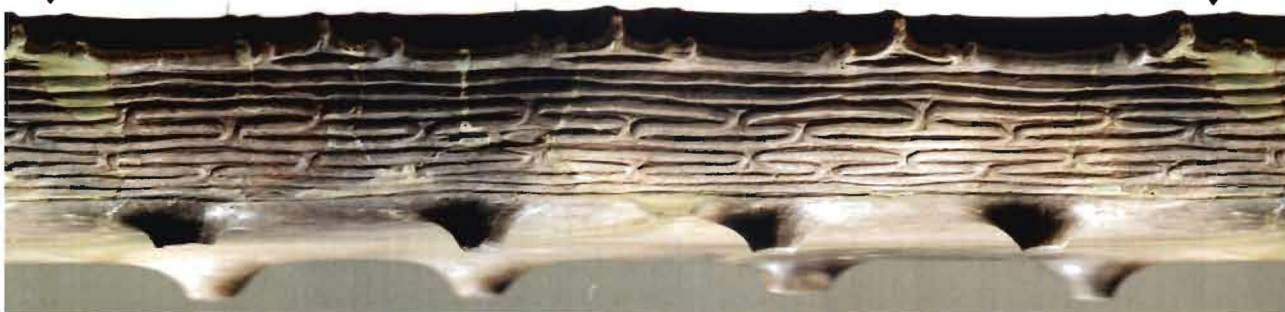


142-a



工字文の脚付浅鉢（栗原市山王囲遺跡）  
太めの隆線で2段の連続工字文を構成する。丁寧な作りである。

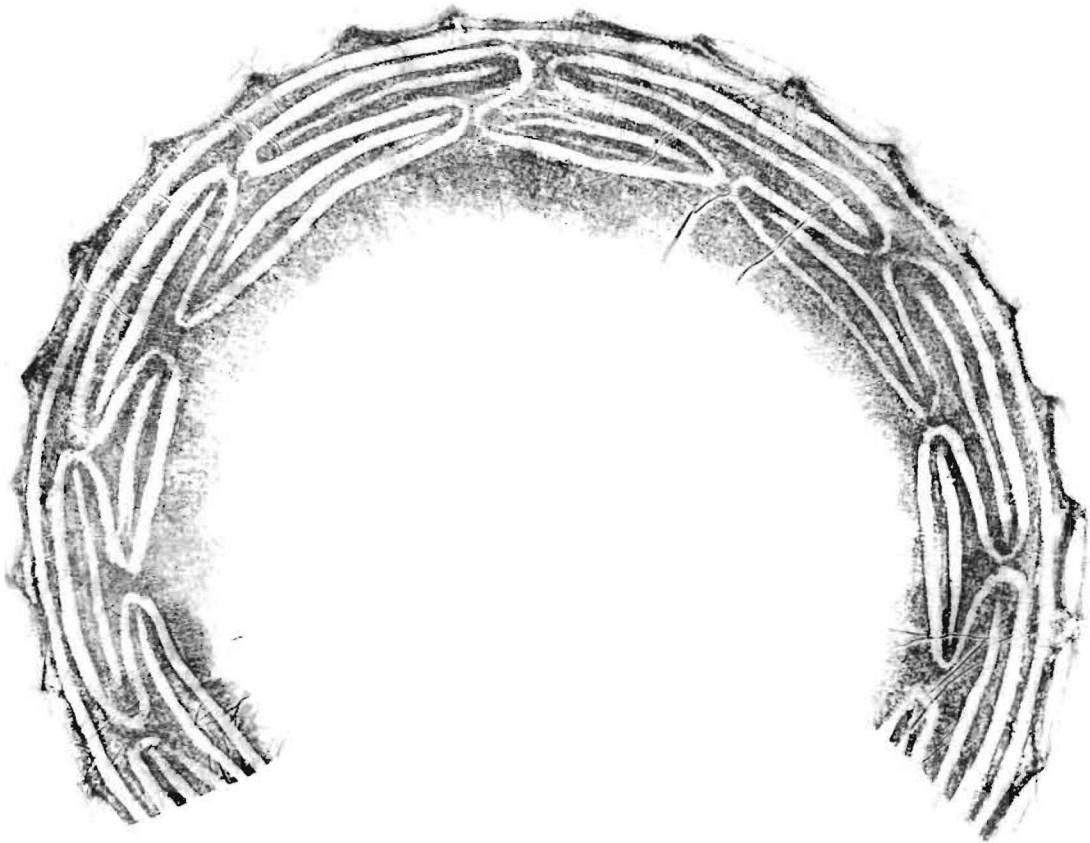
142-b







工字文の浅鉢（栗原市山王圀遺跡）  
沈線で連続工字文を描く。

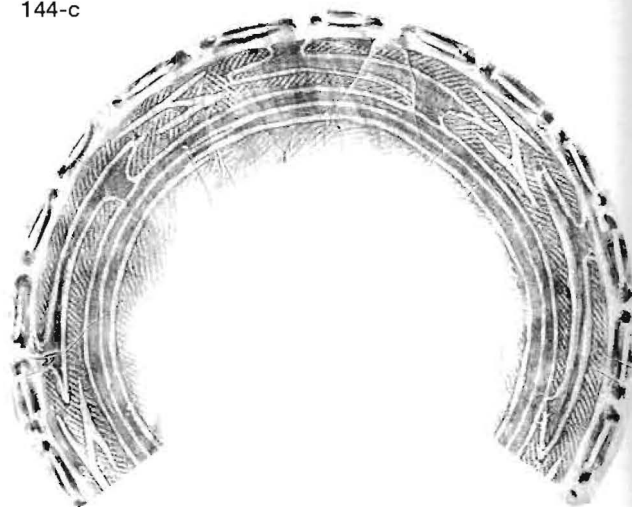


144-a



雲形文の浅鉢（栗原市山王圀遺跡）  
3個の横長の区画文と単純な充填文によって平行線化した雲形文を構成する。

144-c



▼ 144-b

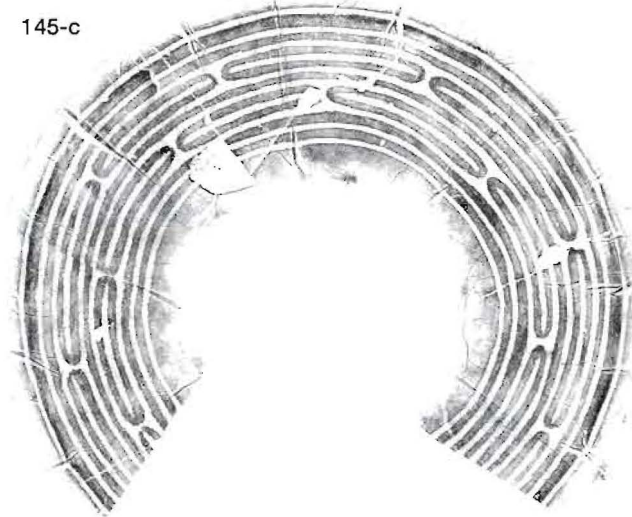


145-a



工字文の浅鉢（栗原市山王圀遺跡）  
平行線化した横長の楕円文を配して工字文風の文様を構成する。

145-c



▼ 145-b



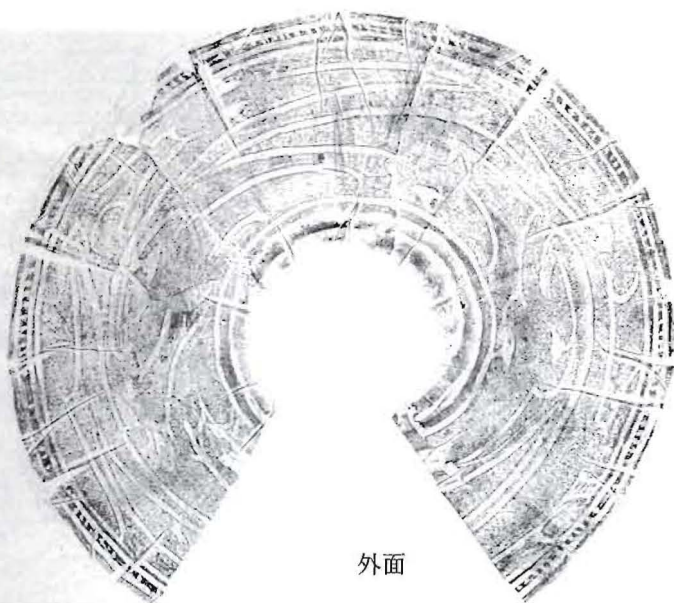




雲形文の彩文浅鉢（宮城県松島町永根貝塚）。外面に雲形文、内面に彩文。  
内面の周囲にC字文（渦状文）を、中央に円文を配し、二カ所で繋いでいる。  
外面は横長の加飾された区画文と充填文によって曲線的な文様を構成しているが、線が細く明瞭でない部分がある。



内面



外面



外面



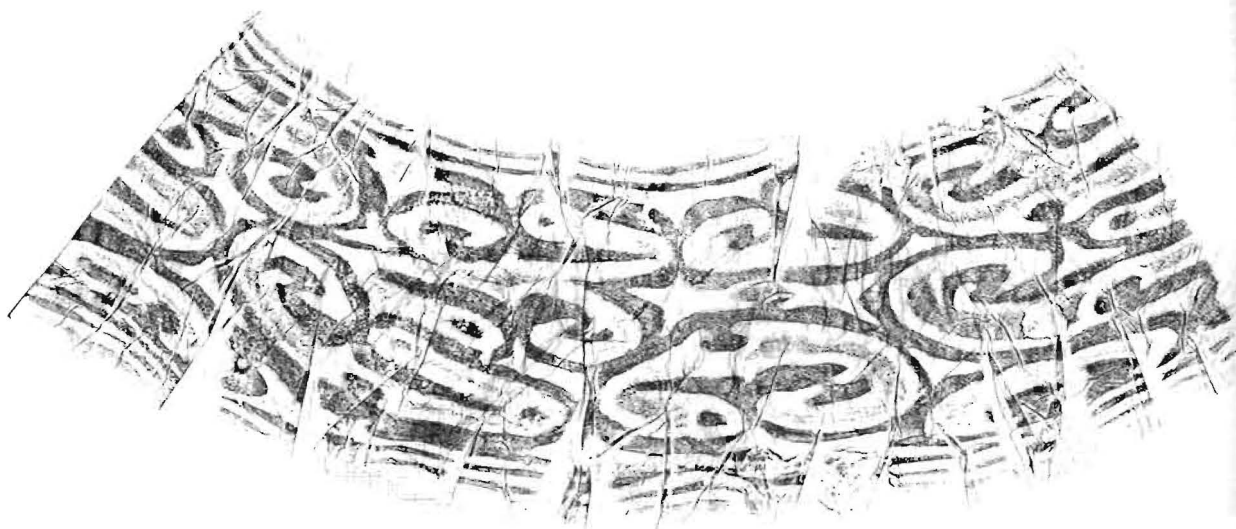
内面



147



雲形文の赤彩壺（宮城県松島町永根貝塚）  
C字形の区画文を2段にやや不規則に配し、充填文を加えて、曲線的な連続文様を構成する。  
よく研磨され光沢をもつ。



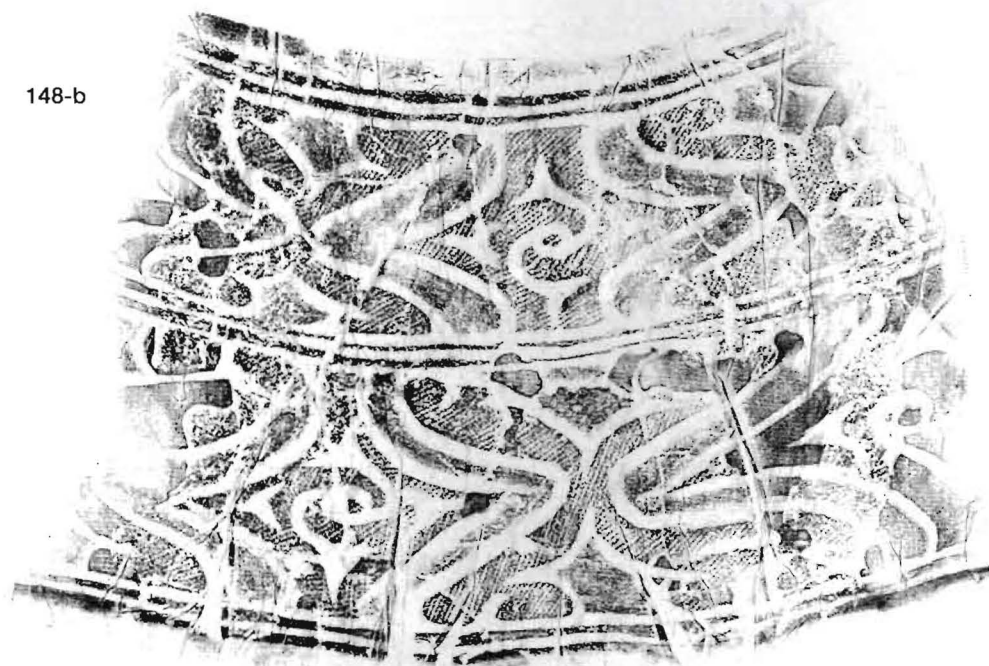




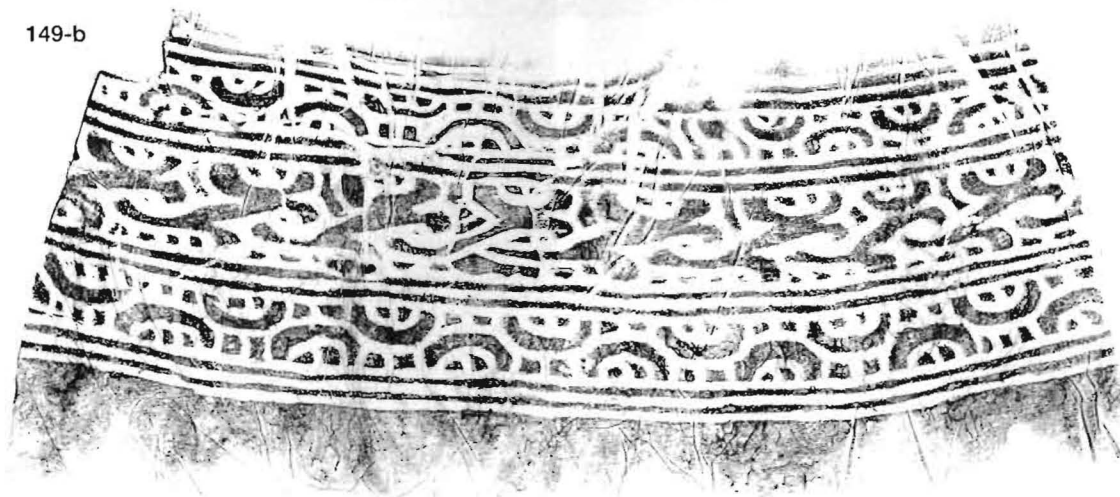
雲形文の徳利形壺（宮城県岩出山町天王寺遺跡）  
垂直となる区画文と充填文によってX状の単位文様が形成される。

羊歯状文の徳利形壺（岩出山町天王寺遺跡）  
3段にわたって器面いっぱいに羊歯状文が展開する。

148-b



149-b





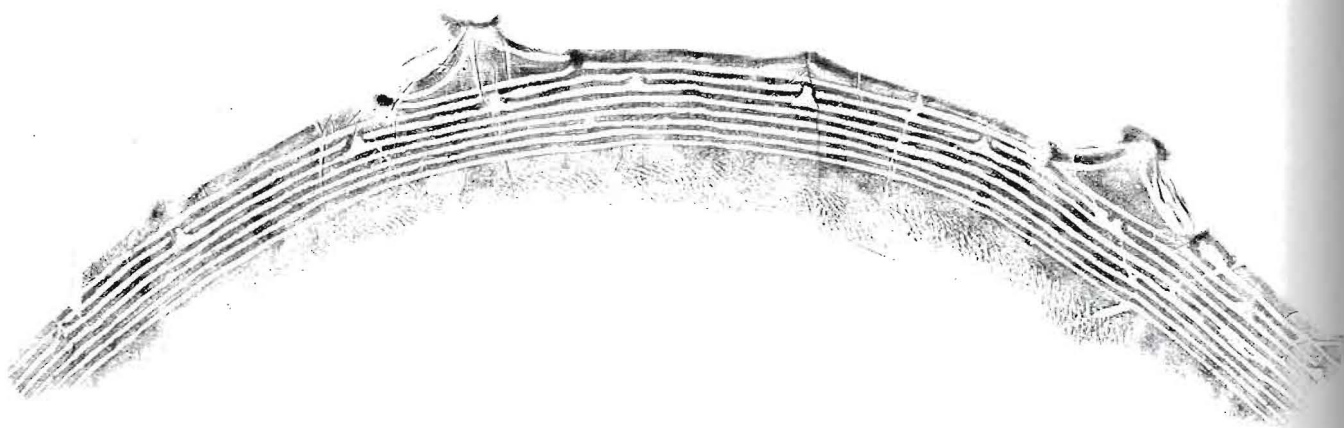
※

工字文の脚付大型鉢（宮城県田  
尻町北小松遺跡）  
底部に籠細工を思わせるような  
文様がある。  
口縁に沿って著しく平行線化し  
た工字文がめぐる。



※

底面







区画文の蓋？（五所川原市大沼遺跡）



同心円文の蓋？（むつ市二枚橋(2)遺跡)



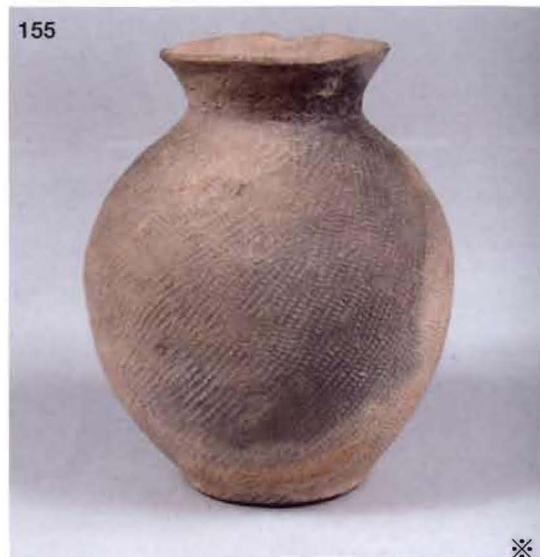
工字文の蓋？（大船渡市宮野貝塚）



154

※

無文の壺 (つがる市亀ヶ岡遺跡)



155

※

縄文の壺 (つがる市亀ヶ岡遺跡)



156

※

入組文の壺 (つがる市亀ヶ岡遺跡)。



157

※

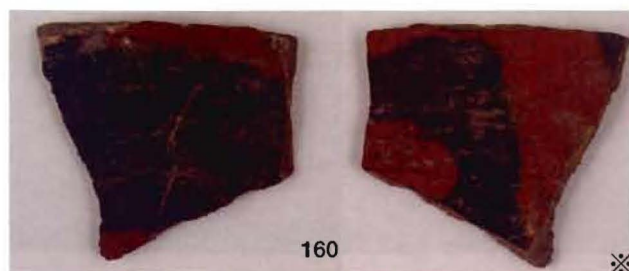
羊歯状文の浅鉢 (平川市八幡崎遺跡)



158

※

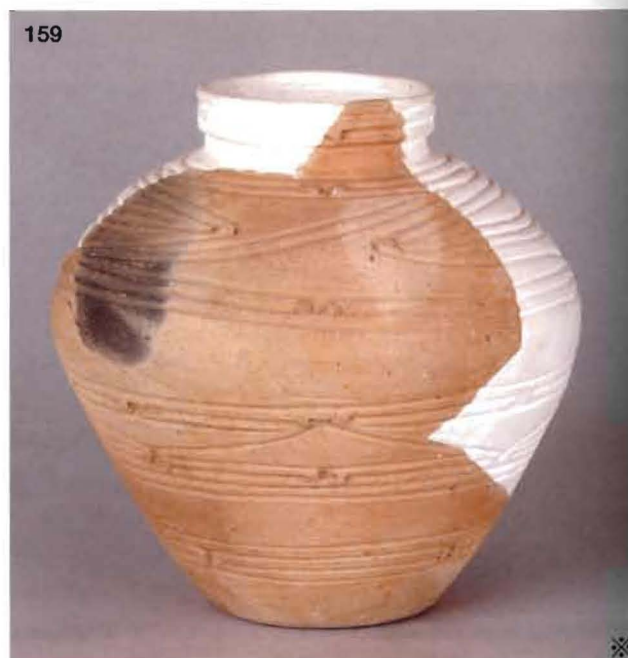
変形工字文の鉢 (つがる市亀ヶ岡遺跡)



160

※

彩文土器破片 (つがる市亀ヶ岡遺跡)。内外面に彩文。



159

※

変形工字文の壺 (つがる市亀ヶ岡遺跡)





161 平行線文の台付鉢 (つがる市亀ヶ岡遺跡) ※



162 入組文の台付鉢 (つがる市亀ヶ岡遺跡) ※



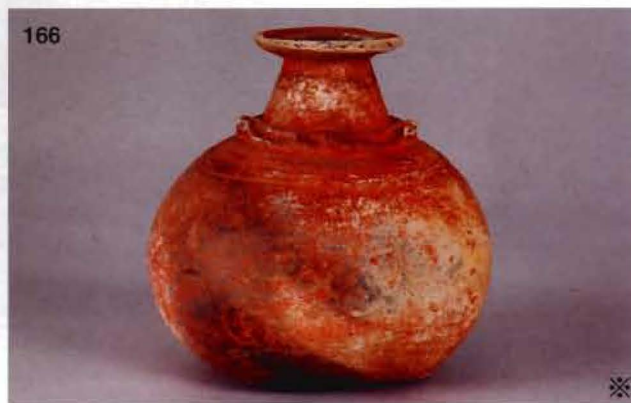
163 縄文の台付鉢 (つがる市亀ヶ岡遺跡) ※



164 雲形文の赤漆塗浅鉢 (つがる市亀ヶ岡遺跡)。漆膜がよく残る。 ※



165 工字文の台付鉢 (つがる市亀ヶ岡遺跡)。漆膜がよく残る。 ※



166 無文の赤彩壺 (出土地不明) ※



167 無文の壺 (つがる市亀ヶ岡遺跡) ※



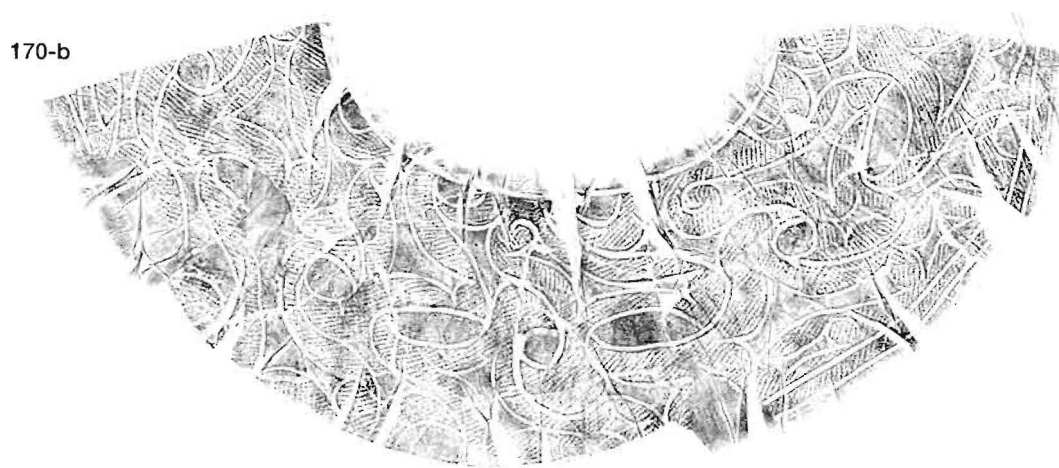
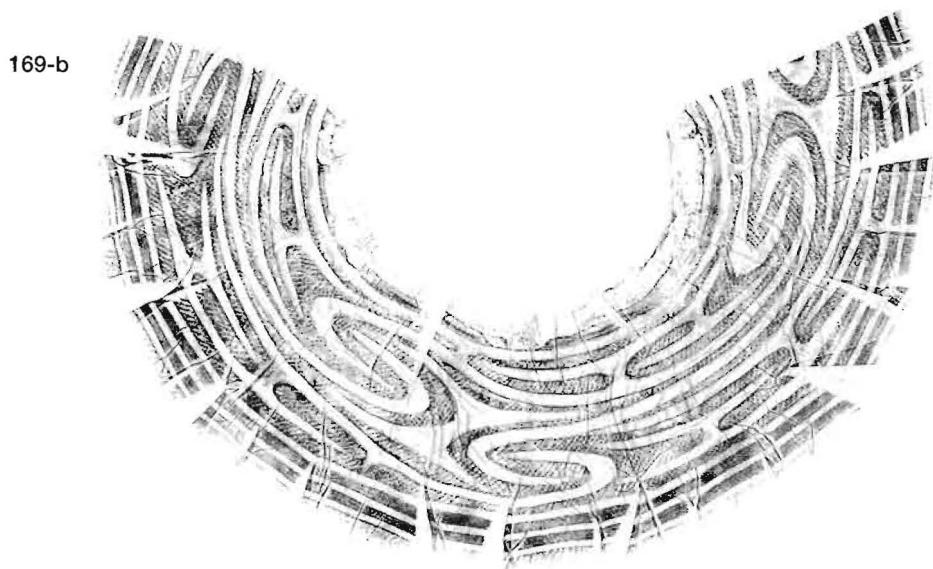
168 平行線文の台付鉢 (つがる市亀ヶ岡遺跡)。弥生土器か? ※



169-a  
入組文の壺（つがる市亀ヶ岡遺跡）  
横S字形の両端が入り組む配置文と工字状文の充填文によって重層的な文様を構成する。



170-a  
雲形文の赤彩壺（平川市八幡崎遺跡）  
区画文的な文様を配し、四角形・半円形などの充填文を加え、唐草文的な雲形文を表現する。







※

漆塗土器破片13点（つがる市亀ヶ岡遺跡）

旧制弘前高校時代に小岩井兼輝が採集したものという。漆膜が残っているものが多い。



土偶（風変わりな遮光器土偶）（青森県板柳町土井Ⅰ号遺跡）



破損部から内部をのぞく。  
右腕破損部にアスファルトが付着。



背面



やや斜目から





目の大きな土偶（むつ市二枚橋(2)遺跡）



背面



やや斜目から



土偶（むつ市二枚橋(2)遺跡）



土偶（むつ市二枚橋(2)遺跡）



膝を軽く屈めた土偶（むつ市二枚橋(2)遺跡）



座った土偶（むつ市二枚橋(2)遺跡）



※



遮光器土偶（三沢市野口貝塚）



土偶（弘前市薬師遺跡）





しゃがむ土偶（五所川原市観音林遺跡）



X字形土偶（五所川原市観音林遺跡）



X字形土偶（五所川原市観音林遺跡）



小型土偶（北秋田市向様田D遺跡）



小型土偶（北秋田市向様田D遺跡）



遮光器土偶（北秋田市向様田D遺跡）



遮光器土偶（北秋田市向様田D遺跡）



遮光器土偶（北秋田市向様田D遺跡）



遮光器土偶（北秋田市向様田D遺跡）



遮光器土偶（北秋田市向様田D遺跡）



遮光器土偶（北秋田市向様田D遺跡）



191



遮光器土偶（北秋田市向様田D遺跡）

192



土偶（北秋田市向様田D遺跡）

193



土偶（北秋田市向様田D遺跡）

194



土偶（北秋田市向様田D遺跡）



195  
土偶（大船渡市大洞貝塚）



196  
大型遮光器土偶（石巻市沼津貝塚）



197  
X字形土偶（岩手県岩手町豊岡遺跡）



198  
岩偶形土偶（岩手町豊岡遺跡）



199  
X字形土偶（岩手町豊岡遺跡）



200  
遮光器土偶（岩手町豊岡遺跡）



201  
遮光器土偶（岩手町豊岡遺跡）



202-a



岩偶（北秋田市向様田A遺跡）

202-b



※

203-a



岩偶（北秋田市向様田A遺跡）

203-b



※

204-a



岩偶（五所川原市観音林遺跡）

204-b



※

205



小型の土製仮面（むつ市二枚橋(2)遺跡）

206



小型の土製仮面（むつ市二枚橋(2)遺跡）

207



小型の土製仮面（むつ市二枚橋(2)遺跡）

※

208



小型の土製仮面（むつ市二枚橋(2)遺跡）

209



小型の土製仮面（むつ市二枚橋(2)遺跡）

※

210



小型の土製仮面（むつ市二枚橋(2)遺跡）

※





211  
小型の土製仮面（むつ市二枚橋(2)遺跡）※



212  
鼻曲りの土製仮面（青森県六ヶ所村上尾鮫遺跡）※



213  
小型の土製仮面（岩手県九戸村伊保内）※



214  
小型の土製仮面（青森市羽黒平遺跡）



215  
小型の土製仮面（岩手県内 出土地不明）

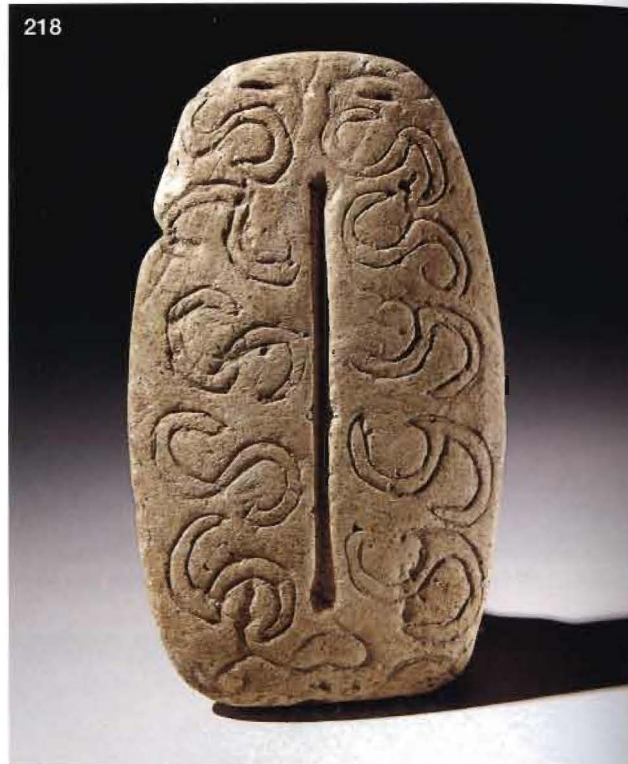


216  
小型の土製仮面（五所川原市五月女菰遺跡）





土版（弘前市十腰内遺跡）



岩版（青森県階上町滝端遺跡）



土版（青森県田子町）



岩版（むつ市二枚橋(2)遺跡）



岩版（北秋田市向様田D遺跡）



土版（むつ市二枚橋(2)遺跡）



岩版（北秋田市向様田D遺跡）



岩版（弘前市薬師遺跡）





225  
冠状石製品（青森県外ヶ浜町宇鉄遺跡）



226  
冠状土製品（青森県階上町滝端遺跡）



227  
冠状土製品（むつ市二枚橋(2)遺跡）



228  
冠状土製品（むつ市二枚橋(2)遺跡）



229  
クマ付石製品（階上町滝端遺跡）



230  
独鉦石（つがる市亀ヶ岡遺跡）



231  
異形石製品（北秋田市向様田D遺跡）



232  
異形石製品（北秋田市向様田D遺跡）



233  
異形石製品（北秋田市向様田D遺跡）



石刀（むつ市二枚橋(2)遺跡）



石刀（むつ市二枚橋(2)遺跡）



石刀（青森県外ヶ浜町宇鉄遺跡）



石刀（外ヶ浜町宇鉄遺跡）



石刀（むつ市二枚橋(2)遺跡）





239 玉象嵌土製品（青森県外ヶ浜町宇鉄遺跡）



240 土製装身具（弘前市薬師遺跡）



241 貝輪を模した土製腕輪  
（北秋田市向様田D遺跡）



242 石製垂飾品（青森県三戸町泉山遺跡）



243 土製耳飾り（青森県階上町滝端遺跡）



244 石製勾玉など（青森市朝日山遺跡）



245 石製勾玉など（北秋田市向様田D遺跡）



246 ボタン状石製品（北秋田市向様田D遺跡）



247-a



漆塗り櫛（栗原市山王圀遺跡）

247-b



248 骨角・貝製装身具（大船渡市大洞貝塚） ※



249 石鏃を装着した根挟み（大船渡市大洞貝塚） ※



251 骨筥・鹿角製品（大船渡市大洞貝塚） ※



252 鹿角製閉窩式離頭鉾（むつ市二枚橋(2)遺跡） ※



250 鹿角製装身具（大船渡市大洞貝塚） ※



253 釣針・ヤス・骨鏃など（大船渡市大洞貝塚） ※





254 円盤状土製品（むつ市二枚橋(2)遺跡）



255 円盤状石製品（北秋田市向様田A遺跡）



256 土製スプーン（北秋田市向様田D遺跡）



257 石皿（青森県階上町滝端遺跡）



258 赤色顔料を磨りつぶす石皿（北秋田市向様田A遺跡）



259 彩文藍胎漆器（栗原市山王囲遺跡）



260 漆濾しの編布（栗原市山王囲遺跡）

---

## 編集後記

小川忠博氏の展開写真と藤沼の展開拓本図を競演させ、オールカラーの美しい図録を作って、恩師の芹沢長介先生に自慢してやろうと思っておりましたら、先生は3月16日に急逝され、帰らぬ人となりました。亀ヶ岡文化については、先生からたくさん指導をしていただきましたのに残念です。宮城県多賀城跡研究所から弘前大学に移ることを勧めて下さったのも芹沢先生でした。

自慢する予定であった本図録ができました。小川氏のおかげです。弔辞で約束しましたように、芹沢先生が、弘前大学日本考古学ゼミナールの学生とお花見をし、大変喜んで愛でられました弘前城の桜の花を挟んで、ご霊前にお届けいたします。寂しい話ですが、本書を先生に対する追悼記念とし、先生のご冥福をお祈りしたいと思います。

(藤沼 邦彦)

---



## ミニ特別展「亀ヶ岡文化の世界」の図録

(弘前大学人文学部日本考古学研究室研究報告3)

2006年3月31日発行

編集 藤沼邦彦・小川忠博

発行 弘前大学人文学部附属 亀ヶ岡文化研究センター

〒036-8560 青森県弘前市文京町1番

電話 0172-36-2111 (代表)

印刷 川口印刷工業株式会社 青森営業所

〒030-0963 青森県青森市中佃2-21-4

電話 017-744-0003